

2024 (R6) シカ年度
知床半島エゾシカ管理計画
実行計画実施結果

令和 7 (2025) 年 6 月

目 次

2024(R6)シカ年度管理計画実行計画概要

1. 2024(R6)シカ年度管理事業位置図..... p.1
2. 2024(R6)シカ年度モニタリング調査位置図..... p.2
3. 2024(R6)シカ年度実行計画（管理事業）一覧..... p.3
4. 2024(R6)シカ年度実行計画（モニタリング調査）一覧..... p.4
5. 遺産地域内における個体数調整の中長期目標..... p.5

2024(R6)シカ年度エゾシカ個体数調整・捕獲結果

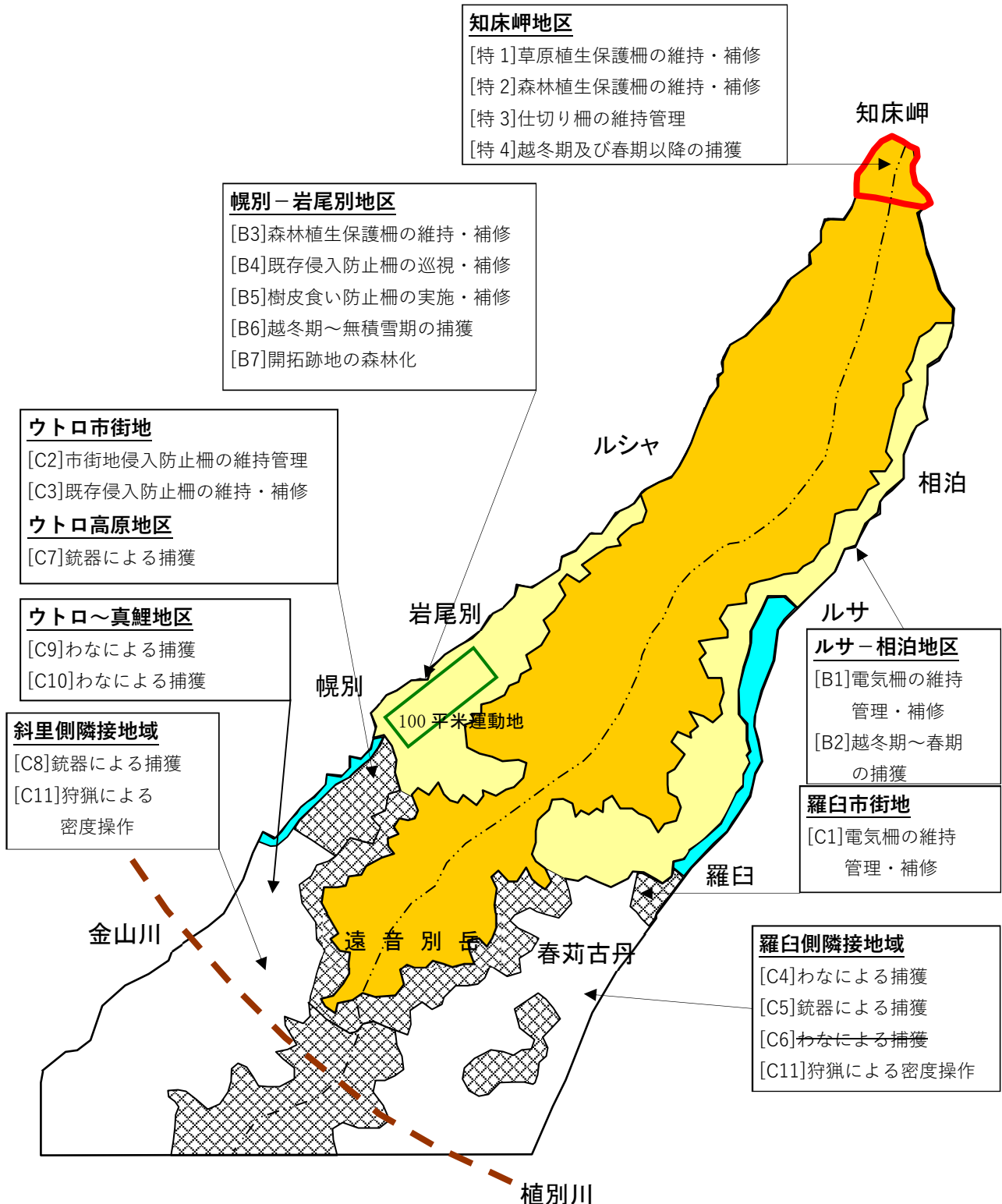
6. 2024(R06)シカ年度 エゾシカ個体数調整・捕獲実施結果一覧..... p.6
7. 2024(R6)シカ年度エゾシカ捕獲結果（隣接地域）..... p.8
8. 隣接地域におけるエゾシカ捕獲頭数推移..... p.14

2024(R6)シカ年度モニタリング調査結果

9. 2024(R6)シカ年度エゾシカ個体数モニタリング実施結果..... p.17
10. 2024(R6)シカ年度植生モニタリング実施結果（環境省分は準備中）..... p.27
11. 2024(R6)シカ年度植生モニタリング実施結果（林野庁事業）..... p.67

1. 2024(R6)シカ年度管理事業位置図

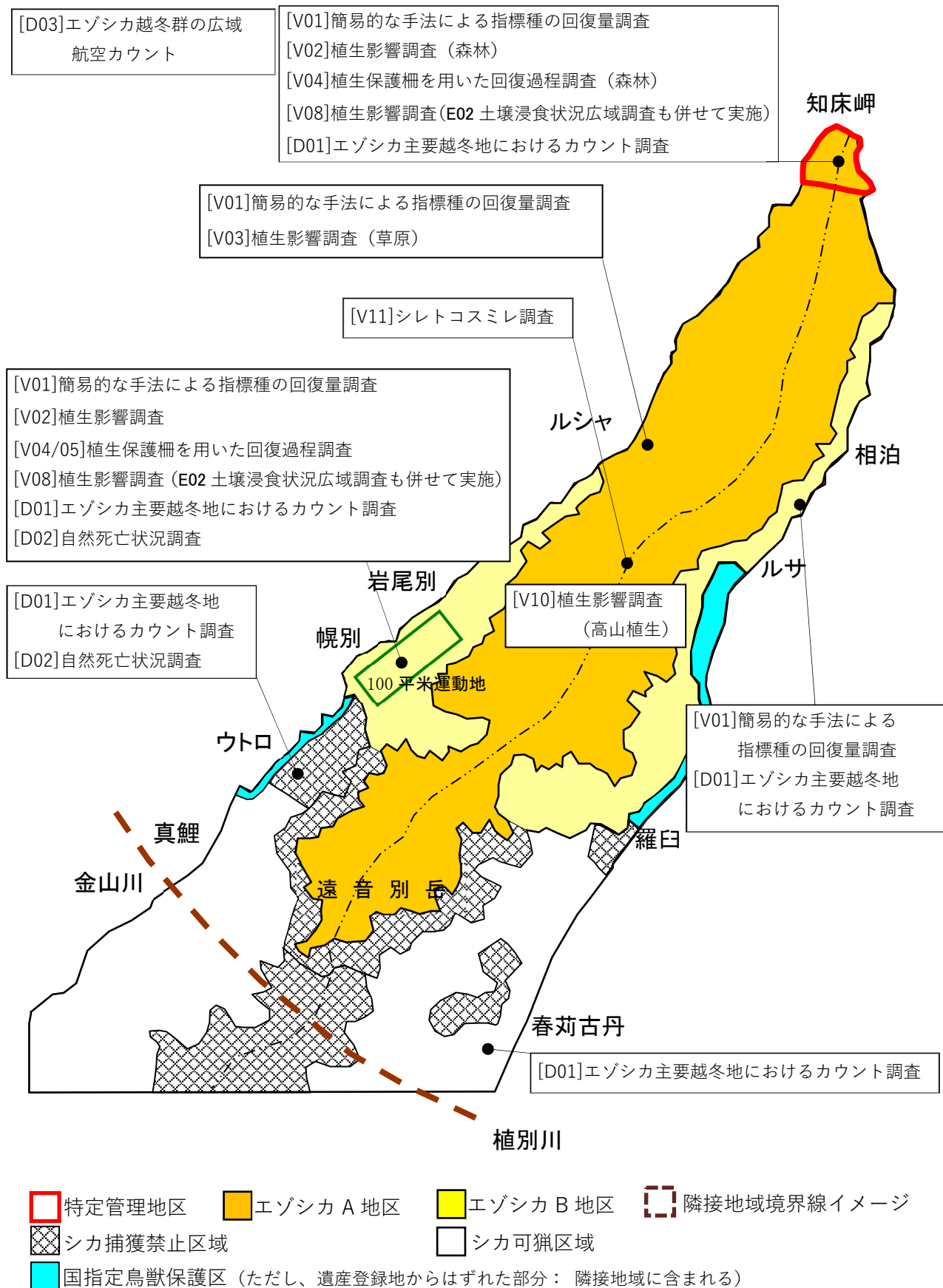
※[]内記号は管理事業No.を示す



- 特定管理地区
- エゾシカ A 地区
- エゾシカ B 地区
- 隣接地域境界線イメージ
- シカ捕獲禁止区域
- シカ可猟区域
- 国指定鳥獣保護区（ただし、遺産登録地からはずれた部分：隣接地域に含まれる）

2. 2024(R6)シカ年度モニタリング調査位置図

※[]内記号は管理事業No.を示す



3. 2024(R6)シカ年度実行計画（管理事業）一覧

地区区分	管理目標	No.	管理手法	実施主体	管理事業	地区・場所	2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08
特定管理 地区	エゾシカの採食圧を軽減することにより、風衝地群落・山地性高茎草本群落・亜高山性高茎草本群落を含む生物多様性を保全・再生するとともに土壌浸食を防止する。また、風衝地群落で植被率を回復させる。 (数値目標) 発見密度：10 頭/k㎡以下	特 1	防御的手法	環境省	草原植生保護柵の維持・補修	知床岬	○	○	○	○	○
		特 2		林野庁	森林植生保護柵の維持・補修		○	○	○	○	○
		特 3	個体数調整	環境省	仕切柵の維持管理		○	○	○	○	○
		特 4			捕獲（捕獲手法の検討を含む）		○	○	○	○	○
エゾシカ A地区	生態的過程により変動する動的な生態系を保全するとともに、希少植物種、又は遺産地域に特徴的な在来植物種と植物群落の消失を回避することにより、本地区の生物多様性を保全する。	A 1	防御的手法			高山帯	※必要に応じて検討実施				
		A 2				ルシャ	※必要に応じて検討実施				
エゾシカ B地区	エゾシカの採食圧を軽減することにより生物多様性の保全を図る。特に離農跡地等の人為植生が越冬期の餌資源をエゾシカに供給している幌別－岩尾別地区では、離農跡地での森林復元を促進する。また、地域との軋轢の解消や軽減を図る。 (数値目標) 発見密度：5 頭/k㎡以下	B 1	防御的手法	羅臼町 知床財団	電気柵の維持管理・補修	ルサー相泊	○	○	○	○	○
		B 2	個体数調整	環境省	捕獲（捕獲手法の検討を含む）		○	○	○	○	○
		B 3	防御的手法	林野庁	森林植生保護柵の維持・補修	幌別－岩尾別	○	○	○	○	○
		B 4		斜里町	既存侵入防止柵の巡視・補修	(100 平米運動地)	○	○	○	○	○
		B 5		斜里町	樹皮食い防止策の実施・補修	(100 平米運動地)	○	○	○	○	○
		B 6	個体数調整	環境省	捕獲（捕獲手法の検討を含む）	(100 平米運動地)	○	○	○	○	○
		B 7	生息環境の 改変	斜里町	開拓跡地の森林化		○	○	○	○	○
		B 8		環境省	道路法面牧草面積の拡大抑制	国立公園内	○	○	○	○	○
隣接地域	エゾシカの採食圧を軽減することにより、生物多様性を保全するとともに、地域住民とエゾシカの軋轢緩和を図る。 (数値目標) 発見密度：5 頭/k㎡以下	C 1	防御的手法	羅臼町 知床財団	電気柵の維持管理・補修	羅臼市街地	○	○	○	○	○
		C 2		斜里町	市街地侵入防止柵の維持管理	ウトロ市街地	○	○	○	○	○
		C 3		林野庁	既存侵入防止柵の維持・補修	宇登呂イチャイ遺産資源希少個体群保護林	○	○	○	○	○
		C 4	個体数調整	林野庁	捕獲（わな）	春苺古丹	○	○	○	○	○
		C 5		羅臼町	捕獲（銃器）	羅臼町内	○	○	○	○	○
		C 6		羅臼町	捕獲（わな）	羅臼町内	⊖	⊖	○	○	○
		C 7		斜里町	捕獲（銃器）	ウトロ高原	○	○	○	○	○
		C 8		斜里町	捕獲（銃器）	斜里町内	○	○	○	○	○
		C 9		林野庁	捕獲（わな）	ウトロ～真鯉	○	○	○	○	○
		C 10		斜里町	捕獲（わな）	斜里町内	○	○	○	○	○
		C 11		北海道	狩猟による密度操作	175 市町村 一円※2	○	○	○	○	○

※1 水色は予定どおり実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり。
※2 離島、法定禁止区域、事故防止や生態系への影響回避の観点から可猟区から除外する必要があると認められる区域を除く。
各年度の可猟区域等詳細については、北海道庁ホームページ（<https://www.pref.hokkaido.lg.jp/ks/skn/syuryo/ichizu.html>）を参照。

【参考】隣接地域における自治体による主な捕獲実施地区※

No.	実施主体	主な捕獲実施地区
C5	羅臼町	植別川、陸志別、春苺古丹、知西別、羅臼、サシルイ
C7, 8	斜里町	日の出、真鯉、遠音別、ウトロ（ウトロ高原を含む）

※捕獲頭数や捕獲場所など詳細については、本資料 p.18「表 2. 過去 13 年間の隣接地域におけるエゾシカ捕獲頭数（捕獲メッシュ・捕獲主体別）」を参照。

4. 2024(R6)シカ年度実行計画（モニタリング調査）一覧

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ 又は調査方法	第 4 期計画期間					基本的な考え方など
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	
V01	植生	詳細調査（調整地区＋ルシヤ）	環境省 簡易的な手法による指標種の回復量調査	知床岬	草原・森林	○	○	○	○	○	毎年実施 ルシヤは他調査(V03 等)と合わせて実施
				ルサ-相泊	草原	○	○	○	○	○	
				幌別-岩尾別	草原・森林	○	○	○	○	○	
				ルシヤ	草原・森林		○			○	
V02			林野庁 植生影響調査 （森林植生、草原植生）	知床岬	森林		○			△林床	林床・稚樹・下枝は 5 年に 2 回程度、毎木は 1 回実施。変化の少ないルシヤ地区は 5 年間隔とする
				ルサ-相泊		△林床		○			
				幌別-岩尾別			○			△林床	
				ルシヤ					○		
V03			環境省	知床岬	草原	○		○		○	知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔程度
				幌別					○		
				ルシヤ			○			○	
V04			林野庁 植生保護柵を用いた回復過程調査	知床岬	森林		○				※エゾシカの影響からの回復が進んだため、長期的な変化を追うために 5 年に 1 回程度実施
				幌別			○				
V05				幌別-岩尾別		○	○	○	○	○	100 平米運動地ほか
V06				知床岬	草原	○		○		○	
V07			環境省 エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	知床岬	草原						各調査区ともに終了
				ルサ-相泊							
				幌別-岩尾別							
V08	広域調査	林野庁	植生影響調査（森林植生）	全域の越冬地 (標高 300m 未満)、 標高 300～600m	森林	25 区	16 区	11 区	調査計画を全体に調整して 毎年 10～20 区を調査		基本的に 5 年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調査区はモニタリング優先度を下げて予備調査区とする"
V09			環境省 植生影響調査（海岸植生）	斜里側 羅臼側	海岸				○	○	
V10			環境省 植生影響調査（高山植生）	全域	高山	遠音別岳	知床連山	羅臼湖	知床岳		
V11			環境省	硫黄山周辺		○	○	○	○	○	
D01	エゾシカ 個体数・ 個体数指数	詳細調査	環境省	知床岬	航空カウント	○	○	○	○	○	
			斜里町 羅臼町 知床財団	エゾシカ主要越冬地における カウント調査	幌別-岩尾別 ルサ-相泊 真鯉 日中カウント	○	○	○	○	○	
D02		広域的調査	知床財団	エゾシカ間引き個体、自然死亡個体などの 体重・妊娠率など個体群の質の把握に関する 調査及びデータの蓄積	知床岬 幌別-岩尾別 隣接地域	○	○	○	○	○	交通事故等死亡個体の回収・記録（ヒグマ対策の一環として実施）
D03			環境省	エゾシカ越冬群の広域航空カウント	全域	遺産地域内	遺産地域内	遺産地域内	○	遺産地域内	
D04			環境省	越冬地エゾシカ実数調査	－						
D05			環境省	エゾシカ季節移動調査	全域						本調査は終了
E01	土壌浸食	詳細	環境省	土壌浸食状況調査	知床岬	(草原)					本調査は終了
E02		広域	環境省 林野庁	土壌浸食状況広域調査	全域	森林	広域植生調査(V08)に併せて実施				
B01	生態系への影響	詳細調査	環境省	陸上無脊椎動物（主に昆虫）の 生息状況調査	知床岬	草原・森林		訪花			5 年間隔
					ルサ-相泊			訪花 地表性			
					幌別-岩尾別			訪花 地表性			
					半島基部			訪花 地表性			
B02			環境省	陸上鳥類生息状況調査	知床岬 幌別-岩尾別	草原・森林		○ ○			5 年間隔

※水色は予定どおり実施、オレンジ色は数量・実施年に変更あり。

5. 遺産地域内における個体数調整の中長期目標

		第1期（シカ年度表記）		第2期					第3期					第4期			備 考	
実行計画		2010s (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)		
〔特 4〕 知 床 岬	Ⅰ.航空カウント調査 モニタリングユニット M00（約3.23km ² ）	上段：ヘリ発見頭数	246	265	第 1 段階目標：5頭/km ² 以下 ※ 1					第 3 期目標：5～10頭/km ² 以下 ※ 1					第 4 期目標：10頭/km ² 以下			岬地区捕獲前(2～3月)に調査実施 旧第 1 段階目標：1980年代と同程度 (知床岬先端部のみの航空カウント発見密度 5 頭/km ² 以下) 旧第 2 段階目標：広義知床岬地区(U-01,11)発見密度5頭/km ² 以下
		下段：ヘリ発見密度 ※ 1	76.9	82.8	75 23.4	87 27.2	139 43.4	57 17.8	88 27.5	40 12.5	74 22.9	52 16.1	188 58.2	254 78.64	205 63.47	302 93.50	470頭 145.51頭/km ²	
	Ⅱ.捕獲頭数	目標 ※ 2	－	－	45	30	110	34	51	20	20	44	10	20	メス成獣56頭	メス成獣71頭	メス成獣65頭以上	
		実績(うちメス成獣)	57 (20)	216 (133)	32 (4)	9 (2)	73 (34)	24 (10)	38 (10)	8 (2)	11 (3)	3 (0)	14 (3)	7 (2)	51 (23)	22 (16)	5頭 (0頭)	
捕獲手法・検討事項		○ヘリによる 厳冬期捕獲	○仕切柵設置 ○仕切柵を活用 した捕獲 ・ヘリ1回 ・船2回	○仕切柵を活用 した捕獲 ・ヘリ1回 ・船1回	○仕切柵を活用 した捕獲 ・船2回	○仕切柵を活用 した捕獲 ・ヘリ1回 ・船4回 (無雪期宿泊2回)	○仕切柵を活用 した捕獲 ・ヘリ1回 ・船2回 (無雪期宿泊あり)	○仕切柵を活用 した捕獲 ・ヘリ1回 ・船2回 (無雪期宿泊1回)	○仕切柵を活用 した捕獲 ・ヘリ1回 ・船2回 (無雪期宿泊あり)	○くくりわな、狙撃 ・ヘリ1回 ○待伏せ狙撃 ・船3回 ・船3回 (無雪期宿泊あり)	○くくり、囲いわな ・ヘリ1回 ○待伏せ狙撃 ・船1回 ・船1回 (無雪期日帰り)	○捕獲手法検討 ○忍び猟 ・船3回 (無雪期宿泊あり)	○捕獲手法検討 ○忍び猟ほか ・船2回 (無雪期宿泊あり)	○捕獲手法検討 ○待伏せ狙撃ほか ・船16回(33日) (無雪期宿泊あり)	○捕獲手法検討 ○待伏せ狙撃ほか ・船7回(13日) (無雪期宿泊あり)	○待伏せ狙撃 ・船3回(4日) (無雪期宿泊あり)	2007（H19）シカ年度～個体数調整開始 2011（H23）シカ年度 仕切柵整備	
〔B 2〕 ル サ ー 相 泊	Ⅰ.航空カウント調査 モニタリングユニット R13（24.68km ² ）	上段：ヘリ発見頭数	156	－	第 1 段階目標（R13-U13s）※ 3： 89以下 5 以下			同左（高標高域含む）： 123以下 5 以下		第 3 期目標： 123頭以下 5 頭/km ² 以下				第 4 期目標： 同左			旧第 1 段階目標：発見密度 5 頭/km ²	
		下段：ヘリ発見密度	8.72		181 10.1	105 5.9	61 3.4	141 5.7	70 2.8	48 1.9	76 3.1	128 5.2	152 6.2	98 3.97	75 3.04	78 3.16		183頭 7.41頭/km ²
	Ⅱ.ライトセンサス	秋期：個体数指標〔頭/km〕	12.1	11.4	4.0	2.3	2.9	0.8	災害中止	1.4	2.0	1.7	2.6	5.3	4.8	5.8	4.3頭/km	ショウジ川～アイドマリ川 調査距離10.2km
		春期：個体数指標〔頭/km〕	19.4	9.5	13.2	6.2	5.5	5.4	距離短縮実施 (災害理由)	7.1	6.2	5.4	8.5	距離短縮実施 (一部通行止)	10	11	7.8頭/km	
Ⅲ.標識再捕獲法によるメス成獣推定個体数 (捕獲後春)		327.7 ± 94.2	184.0 ± 46.5	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－	－		
Ⅳ.捕獲頭数	目標	－	－	300	220	215	210	20+α	80	75	70	55	30	21	16	17頭以上		
	実績(うちメス成獣)	125 (49)	188 (84)	78 (42)	208 (125)	88 (49)	79 (41)	13 (6)	78 (34)	80 (32)	42 (17)	20 (6)	18 (5)	33 (16)	17 (5)	19頭 (6頭)		
捕獲手法・検討事項		○囲いわな 1 基 ○定点 S S	○囲いわな 2 基 ○巻狩り ○流し猟式 S S	○囲いわな 1 基 ○流し猟式 SS	○囲いわな 2 基 ○流し猟式 SS	○囲いわな 1 基 ○流し猟式 SS	○囲いわな 2 基 ○流し猟式 SS	○囲いわな 1 基 ○くくりわな ○船上狙撃（R12）	○囲いわな 1 基 ○くくりわな ○箱わな	○くくりわな ○待伏せ狙撃 ○流し猟式 SS	○くくりわな ○待伏せ狙撃 ○流し猟式 SS	○くくりわな ○流し猟式 SS	○捕獲手法検討 ○くくりわな	○くくりわな (中標高含む)	○くくりわな (5)	○くくりわな (6頭)	2009（H21）シカ年度～個体数調整開始	
〔B 6〕 幌 別 イ 岩 尾 別	Ⅰ.航空カウント調査 モニタリングユニット S04（29.08km ² ）	上段：ヘリ発見頭数	1257	－	第 1 段階目標： 360以下 12.4以下			第 2 段階目標： 145以下 5 以下		第 3 期目標： 145頭以下 5 頭/km ² 以下				第 4 期目標： 同左			旧第 1 段階目標：2003年水準の航空カウント値	
		下段：ヘリ発見密度	43.2		306 10.5	289 9.9	184 6.3	176 6.1	134 4.6	56 1.9	130 4.5	49 1.7	170 5.8	299 10.28	80 2.75	203 6.98		134頭 4.61頭/km ²
	Ⅱ.ライトセンサス	秋期：個体数指標〔頭/km〕	8.5	7.8	3.6	2.7	2.3	2.9	1.6	1.9	2.1	1.4	1.7	3.3	3	3.5	2.1頭/km	調査距離 合計9.4km 岩尾別：4.5km 幌 別：4.9km
		春期：個体数指標〔頭/km〕	11.8	4.5	6.6	9.7	3.9	9.1	5.1	5.2	5.1	5.1	5.2	6.9	3.9	3.9	9.6頭/km	
Ⅲ.捕獲頭数		目標	－	－	1,060	400	165	130	100	85	125	100	60	70	48	17	43頭以上	
		実績(うちメス成獣)	0	447 (247)	418 (251)	207 (110)	177 (94)	106 (49)	102 (44)	109 (53)	126 (55)	55 (26)	72 (26)	174 (50)	54 (10)	45 (10)	67頭 (21頭)	
捕獲手法・検討事項			○囲いわな 1 基 ○くくりわな ○流し猟式 SS (冬・春)	○囲いわな 1 基 ○流し猟式 SS (秋～春)	○大型仕切柵 ○囲いわな 2 基 ○流し猟式 SS (冬・春)	○大型仕切柵 ○囲いわな 2 基 ○流し猟式 SS(冬) ○高架木道狙撃	○大型仕切柵 ○囲いわな1基 ○流し猟式 SS(冬)	○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃 ○囲いわな1基 ○箱わな ○流し猟式 SS (冬・春)	○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃 ○くくり・箱わな ○流し猟式 SS(春)	○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃 ○くくり・箱わな ○流し猟式 SS(春)	○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃 ○くくりわな ○流し猟式 SS(春)	○捕獲手法検討 ○大型仕切柵 ○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃 ○くくりわな ○流し猟式 SS(春)	○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃 ○くくりわな	○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃	○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃	○大型仕切柵 ○待伏せ狙撃 ○待伏		

6. 2024(R06)シカ年度 エゾシカ個体数調整・捕獲実施結果一覧

事業 主体	管理計画 地区区分	取組内容				捕獲状況						生息状況	
		[事業No.]地区名	期間 ※1	捕獲手法	捕獲回数 わな基数	捕獲目標頭数 (内メス成)	捕獲頭数計	メス 成獣	メス 0 歳	オス 0 歳	オス成獣 不明	目標密度	直近の航空センサス調査結果 発見密度（該当ユニットNo.）
環境省	特定管理 地区	[特 4] 知床岬 (内訳)				(65)	5 (0)	0	1	0	4	10 頭/k㎡	145.51 頭/k㎡ (前年度：93.50 頭/k㎡) (M00)
		※2024 年非積雪期 は捕獲を一時休止	待ち伏せ式狙撃	—	—		—	—					
				4/24~5/22	4 日(4 回)		5	0	1	0	4		
	B 地区	[B 2] ルサ-相泊 (内訳)				17 (5)	19 (6)	6	0	1	12	5 頭/k㎡	7.41 頭/k㎡ (前年度：3.16 頭/k㎡) (R13)
		1/8~1/29	くくりわな	30 基	19		6	0	1	12			
		[B 6] 幌別-岩尾別 (内訳)				43 (13)	67 (21)	21	4	1	41	5 頭/k㎡	4.61 頭/k㎡ (前年度：6.98 頭/k㎡) (S04)
		12/2~2/19	大型仕切柵	7 回	12		0	0	0	12			
			12/2~2/18	待ち伏せ式狙撃	12 回		41	15	1	1	24		
			2/6~2/18	くくりわな	20 基		12	5	2	0	5		
			2/6~2/19	簡易囲いわな試行	2 回		2	1	1	0	0		
		隣接地域	[C 4] 春苅古丹	12/2~2/12	くくりわな	20 基	20	42 (22)	22	4	6	10	—
	[C 9] ウトロ東		1/6~2/12	くくりわな	14 基	25	14 (3)	3	2	3	6	—	3.27 頭/k㎡ ※2 (S07)
	[C 9] オシンコシン周辺		1/6~2/12	くくりわな	24~40 基	35	39 (12)	12	8	5	14	—	5.34 頭/k㎡ ※2 (S08)

※1 実際に捕獲を行った期間の他、誘引期間も含む

※2 隣接地域の数値は 2020 年度調査時の観測値

2024(R06)シカ年度 エゾシカ個体数調整・捕獲実施結果一覧（捕獲手法別状況）

事業 主体	管理計画 地区区分	地区概要	捕獲手法	捕獲頭数	狙撃実施時間[hour] トラップナイト[TN]※	捕獲効率 (昨年度参考)	シーズン	今年度取組における手法別課題等
環境省	特定管理 地区	〔特 4〕 知床岬 ・ 2007(H19)シカ年度の個体数調整開始から累計 捕獲数は 982 頭（内メス成獣 513 頭：52.2%）	待ち伏せ式狙撃	5 頭	延べ 11 人日 （射手のみ）	0.45 頭/人日 （0.63） * R4 シカ年度	5 年目 * R5 シカ年 度休止	・ 2023 年 6 月にヒグマによる人身事故発生。 ・ シカが再高密度化する現状も踏まえ、対策手法の再検討の結果、 仕切柵延伸のほか、冬期捕獲再開の方針。
	B 地区	〔B 2〕 ルサ-相泊 〔B 6〕 幌別-岩尾別 ・ 2009(H21)シカ年度の個体数調整開始から累計 捕獲数は 1,108 頭（内メス成獣 531 頭：47.9%） ・ 2011(H23)シカ年度の個体数調整開始から累計 捕獲数は 2,159 頭(内メス成獣 1,045 頭:48.4%)	くくりわな	19 頭	540 TN 30 基	0.04 頭/TN （0.03）	8 年目	・ おおむね計画どおり実施。
			大型仕切柵	12 頭	12 TN	1.00 頭/TN （0.34）	12 年目	・ 前年度に引き続きオスが主体の群れが確認された。 ・ ただし、12 月中に知床五湖側の扉を開放したところ、メス主 体の群れを含む多数のシカの流入を確認。この扉を用いた捕獲 を実施した場合大量捕獲の見込みあり。 ・ 現地視察を行った稲富委員より、誘引餌をより柵中央に配置す るなどの工夫をすればより効果的な捕獲が可能になるのでは との提言あり。
			待ち伏せ式狙撃	41 頭	59.6h 12 回実施	0.7 頭/h （0.4）	9 年目	・ より効果的かつ効率的な捕獲を行うため、同日に複数人の射手 を手配し複数箇所と同時に捕獲を行う運用を行った。また、開 始時期も例年 2 月から前倒しし 1 月上旬から開始した。
			くくりわな	12 頭	240 TN 20 基	0.05 頭/TN （0.02） * R4 シカ年度	7 年目	・ R4（2022）シカ年度以来の実施。 ・ 1 月中旬までヒグマの活動が確認されたため、予定より 1 か月 遅れ 2 月 6 日より開始。
			簡易囲いわな試行	2 頭	8TN	0.25 頭/TN	－	・ 低密度維持を目的とした手法として、非積雪期の知床岬地区で の実施を見据えた試験的試行。
林野庁	隣接地域	〔C 4〕 春荊古丹	くくりわな	42 頭	520TN 20 基	0.08 頭/TN （0.03）	7 年目	・ 春荊古丹地区の捕獲効率が昨年度を上回った理由として餌の 撒布を前年度比 75%増やしたためと考えられる。 ・ ウトロ東地区の捕獲効率が昨年度を上回った理由として餌の 撒布のみを行った期間がエゾシカの馴化につながったと考え られる。 ・ オシンコシン地区の捕獲効率が昨年度を下回った理由として ミズナラ堅果の豊作等により天然餌資源が豊富だったためと 考えられる。 ・ 本事業全体で 95 頭のエゾシカを捕獲し、雌雄内訳はメス 51 頭・オス 44 頭であり、生息個体数を確実に減少させるために 重要なメス成獣の捕獲数は 37 頭（38.9%）であった。
		〔C 9〕 ウトロ東	くくりわな	14 頭	202TN 14 基	0.07 頭/TN （0.04）	7 年目	
		〔C 9〕 オシンコシン周辺	くくりわな	39 頭	1137 TN 24~40 基	0.03 頭/TN （0.05）	7 年目	

※トラップナイト[TN]：1 基のわなを 1 晩稼働させた捕獲努力量

7. 2024(R6)シカ年度エゾシカ捕獲結果(隣接地域)

<全体>

- ・隣接地域全体で合計95頭(メス51頭、オス44頭)を捕獲。
- ・事業実施期間は1月～2月の冬期間。
- ・捕獲手法はくくりわな(全60基)により実施。
- ・メス成獣(1歳以上)の捕獲頭数については2023(R5)シカ年度の19頭から37頭に増加。
- ・スノーモービルの利用を継続し、移動時間の短縮及び捕獲個体の運搬の労力の軽減を図った。
- ・止め刺しは原則電気止め刺しで実施した。

表1. 隣接地域の捕獲数の推移(捕獲手法別)

	2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	計
くくりわな									32	44	118	75	127	73	95	564
モバイルカリング					7	0	6									13
罠わな	4	96	56	35	83	155	77	61	26	8	0					601
遠距離狙撃						4	6		6	3						19
巻狩					27	15		7		0						49
箱わな					2	12	10	12	15	2	1					54
計	4	96	56	35	119	186	99	80	79	57	119	75	127	73	95	1300

表2. 隣接地域の捕獲数の推移(植生モニタリングユニット別)

植生モニタリング ユニット		2010 (H22)	2011 (H23)	2012 (H24)	2013 (H25)	2014 (H26)	2015 (H27)	2016 (H28)	2017 (H29)	2018 (H30)	2019 (R1)	2020 (R2)	2021 (R3)	2022 (R4)	2023 (R5)	2024 (R6)	計
S07宇登呂	0歳				22	9	34	21	20								106
	オス				3	10	6	7		14	3	9	16	10	12	9	99
	メス				10	22	44	19	7	15	11	18	24	9	11	5	195
	不明					1											1
S08遠音別	0歳					12	23	11	6								52
	オス					16	20	9	7	9	4	27	17	25	15	19	168
	メス					20	40	21	7	12	8	31	12	14	17	20	202
	不明																
S10真壁	0歳					3	9	7	3								22
	オス					3	2	1	4	3							13
	メス					19	8	3	10	6							46
	不明					4											4
R20春菊古丹	0歳		30	20					7								57
	オス		24	6					2	7	10	15	6	20	12	16	118
	メス	4	42	30					7	13	21	19		49	6	26	217
	不明																
計		4	96	56	35	119	186	99	80	79	57	119	75	127	73	95	1300

注：平成30シカ年度以降、0歳齢個体も性別を区別して記録した。

表3. 2024(R6)シカ年度の隣接地域におけるエゾシカ捕獲結果

R6

地区名	地域	手法	捕獲結果				比率(%)		TN	捕獲効率 頭/TN	備考
			メス1歳以上	オス1歳以上	0歳メス	0歳オス	計	メス1歳以上			
S07宇登呂	ウトロ東	くくりわな	3	6	2	3	14	21.4%	202	0.069	計14頭<*25頭(目標)
S08遠音別	オシンコシンB	くくりわな	5	11	4	0	20	25.0%	600	0.033	計39頭>*35頭(目標)
	オシンコシンC	くくりわな	7	3	4	5	19	36.8%	537	0.035	
R20春菊古丹		くくりわな	22	10	4	6	42	52.4%	520	0.081	計42頭>*20頭(目標)
総計			37	30	14	14	95	38.9%	1,859	0.051	計95頭>*80頭(目標)

*R6シカ年度実行計画目標値

1 宇登呂 (ウトロ) 地区 (モニタリングユニット S07)

2023 (R5) シカ年度捕獲頭数	23 頭
2024 (R6) シカ年度実行計画目標値	25 頭
2024 (R6) シカ年度捕獲頭数	14 頭
(内訳: メス 1 歳以上 3 頭、オス 1 歳以上 6 頭、0 歳 5 頭)	

表 4. 2024 (R6) シカ年度の隣接地域におけるエゾシカ捕獲結果(宇登呂)

R6

地区名	地域	手法	捕獲結果					比率(%)	TN	捕獲効率 頭/TN	備考		
			メス 1 歳以上	オス 1 歳以上	0 歳メス	0 歳オス	計	メス 1 歳以上					
S07宇登呂	ウトロ東	くくりわな	3		6	2	3	14	21.4%	202	0.069	14基	1/6~2/12

1-1) 実施状況

- ・ウトロ東 (ウトロ東囲いわな周辺、キャンプ場周辺)、
H30 ウトロ東囲いわな周辺でくくりわなによる捕獲開始
捕獲頭数 2022 (R5) 23 頭 (くくりわな) → 2024 (R6) 14 頭

1-2) まとめ

宇登呂地区の捕獲頭数は減小

→ウトロ東囲いわな周辺、キャンプ場周辺でくくりわなを実施。

捕獲頭数は減少しているが捕獲効率は前年度を上回っておりその原因として、捕獲を見合わせ餌の撒布のみを行った期間がありエゾシカの馴化につながったと考えられるほか、捕獲期間の短さにより結果的にエゾシカの警戒度が高まる前に捕獲を終了できた可能性も考えられる。

2 遠音別地区 (モニタリングユニット S08)

2023 (R5) シカ年度捕獲頭数	32 頭
2024 (R6) シカ年度実行計画目標値	35 頭
2024 (R6) シカ年度捕獲頭数	39 頭
(内訳: メス 1 歳以上 12 頭、オス 1 歳以上 14 頭、0 歳 13 頭)	

表 5. 2024 (R6) シカ年度の隣接地域におけるエゾシカ捕獲結果(遠音別)

R6

地区名	地域	手法	捕獲結果					比率(%)	TN	捕獲効率 頭/TN	備考	
			メス1歳以上	オス1歳以上	0歳メス	0歳オス	計	メス1歳以上				
S08遠音別	オシンコシンB	くくりわな	5	11	4	0	20	25.0%	600	0.033	15~20基	1/6~2/12
	オシンコシンC	くくりわな	7	3	4	5	19	36.8%	537	0.035	9~20基	1/6~2/12

注: オシンコシン地区をオシンコシン B (ウトロ高原側) とオシンコシン C (オシンコシンの滝側) に区分

2-1) 実施状況

・オシンコシン B (ウトロ高原側)

くくりわなによる捕獲は 2020 (R2) 年度より開始

2023 (R5) 捕獲頭数 15 頭 → 2024 (R6) 捕獲頭数 20 頭

・オシンコシン囲いわなについては休止

・オシンコシン以南の可猟区では 2024 (R6) 年度は捕獲実施なし。

・オシンコシン C (オシンコシンの滝側)

2023 (R5) 捕獲頭数 17 頭 → 2023 (R5) 捕獲頭数 2024 (R6) 19 頭

2-2) まとめ

2023 (R5) 年度と比べ 2024 (R6) 年度は遠音別地区の捕獲数は横這い。

→

捕獲頭数は横這いだが捕獲効率が前年度を下回っており原因として、当該地区でミズナラ堅果の豊作等により天然餌資源が豊富であったことが考えられる。

3 春荊古丹地区 (モニタリングユニット R20)

2023 (R5) シカ年度捕獲頭数 18 頭

2024 (R6) シカ年度実行計画目標値 20 頭

2024 (R6) シカ年度捕獲頭数 42 頭

(内訳: メス 1 歳以上 22 頭、オス 1 歳以上 10 頭、0 歳 10 頭)

表 6. 2024 (R6) シカ年度の隣接地域におけるエゾシカ捕獲結果(春荊古丹)

R6

地区名	手法	捕獲結果					比率(%)		TN	捕獲効率 頭/TN	備考	
		メス 1 歳以上	オス 1 歳以上	0 歳メス	0 歳オス	計	メス 1 歳以上					
R20 春荊古丹	くくりわな	22	10	4	6	42	52.4%		520	0.081	20基	12/6~2/12

3-1) 実施状況

・くくりわな

2023 (R5) 年度捕獲頭数 18 頭 → 2024 (R6) 年度捕獲頭数 42 頭

3-2) まとめ

春荊古丹での捕獲数は増加

→

捕獲頭数及び捕獲効率が前年度を上回っており原因として、誘引期間(12 月)に餌の撒布を前年度比で 75% 増やしたため捕獲地域付近へのエゾシカの定着を図ることができたと考えられる。

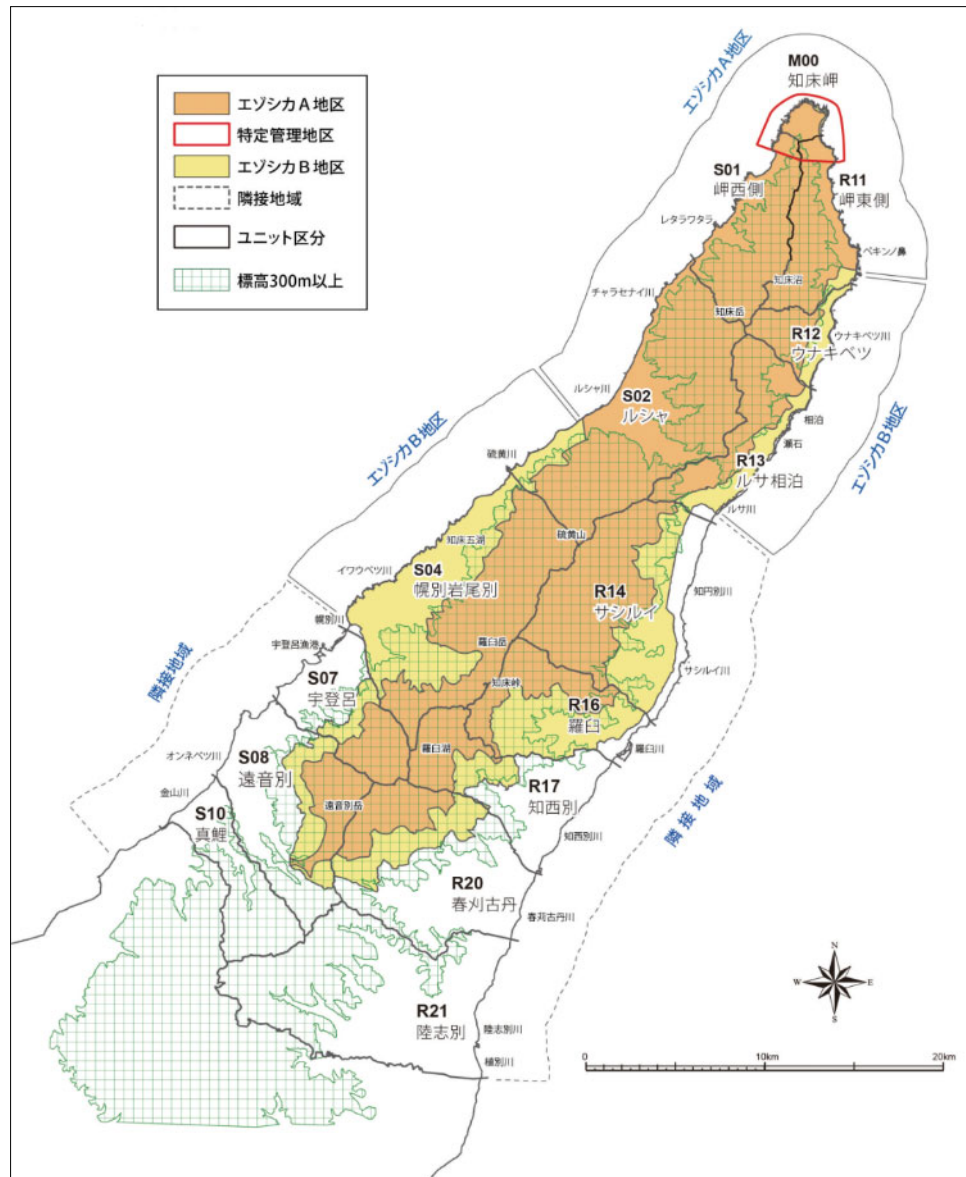


図1. 知床半島エゾシカ管理計画に係るモニタリングユニット図

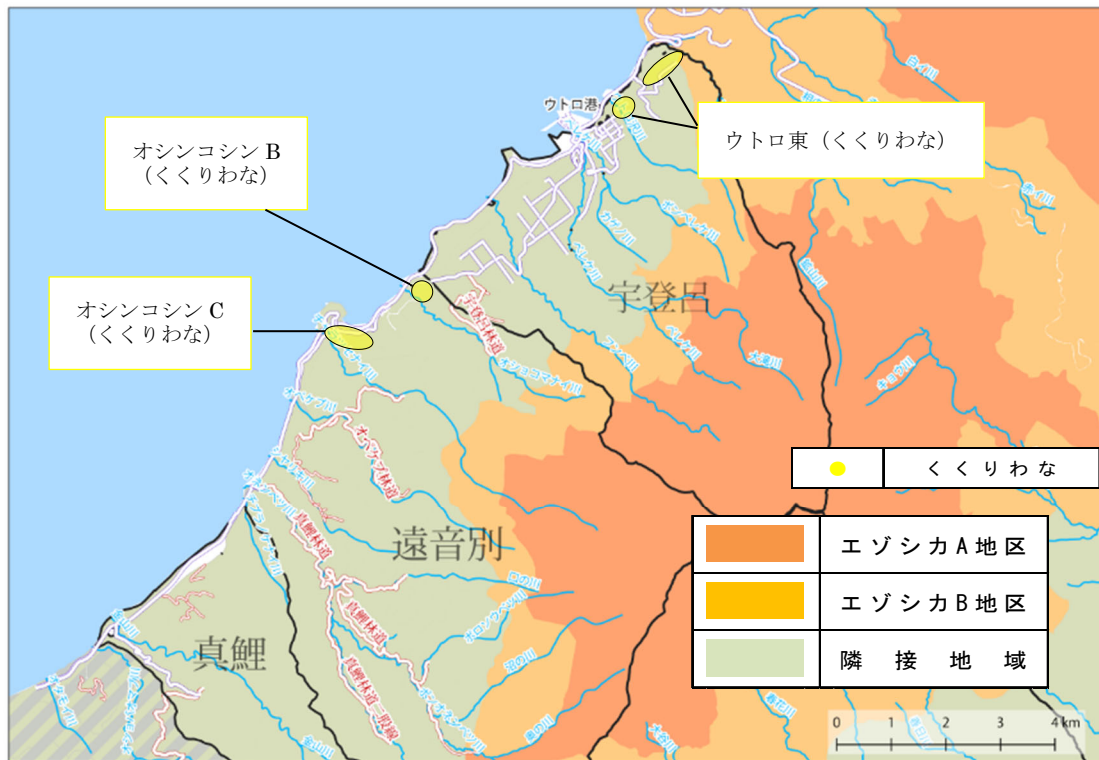


図2. 2024 (R6)シカ年度知床世界自然遺産隣接地域(斜里側)捕獲実施箇所



図3. 2024 (R6)シカ年度知床世界自然遺産隣接地域(羅臼側)捕獲実施箇所

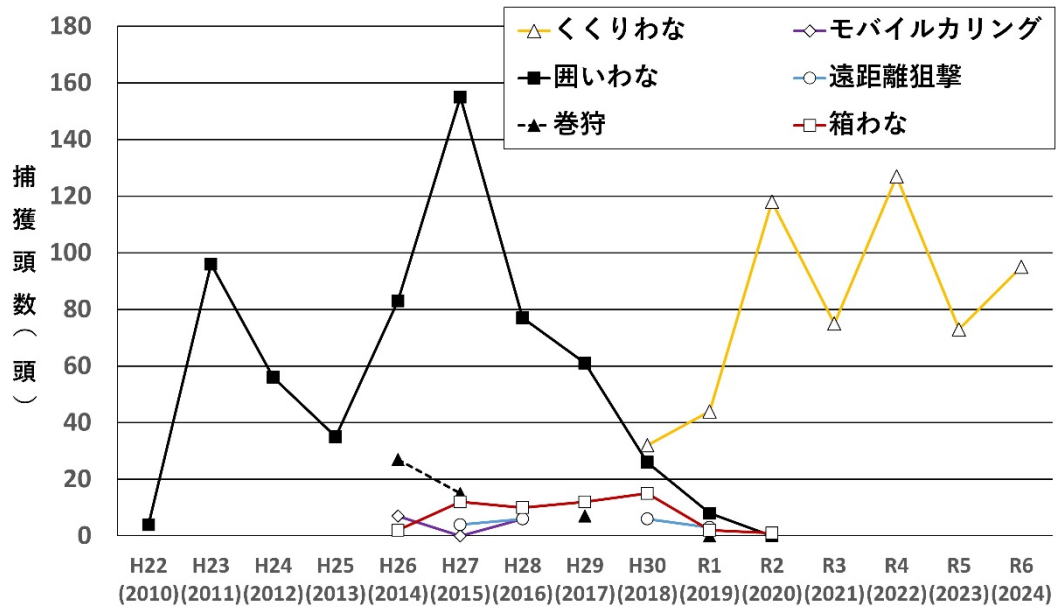


図 4. 隣接地域の捕獲頭数の推移（捕獲手法別）

8. 隣接地域におけるエゾシカ捕獲頭数推移

表 1. 隣接地域におけるエゾシカ捕獲頭数（シカ年度・捕獲主体別）

	第 1 期		第 2 期					第 3 期					第 4 期			
捕獲主体	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	計
一般狩猟	364	363	177	292	254	240	159	110	110	72	103	172				
斜里町	115	105	51	76	74	89	41	21	52	71	79	75	147	84	143	1,223
羅臼町		146	117	76	111	137	81	142	112	52	136	89	130	88	195	1,612
林野庁	4	96	56	35	119	186	99	80	79	57	119	75	127	73	95	1,300
総計	483	710	401	479	558	652	380	353	353	252	437	411				
計画期間計	1,193		2,470					1,806								

注 1：斜里町、羅臼町、林野庁における捕獲頭数は有害捕獲事業による捕獲頭数。

注 2：斜里町における捕獲頭数のうち、2010 年から 2012 年の捕獲頭数は、農林水産省緊急捕獲補助金による捕獲頭数（北海道庁所有のデータ）を集計。2013 年以降の捕獲頭数は斜里町所有のデータを集計。

注 3：羅臼町の捕獲頭数は羅臼町所有のデータを集計。

注 4：一般狩猟の捕獲頭数は北海道庁所有のデータを集計。

注 5：北海道庁所有のデータは非公表のため、WG 出席者のみに提示（色付きセル）。

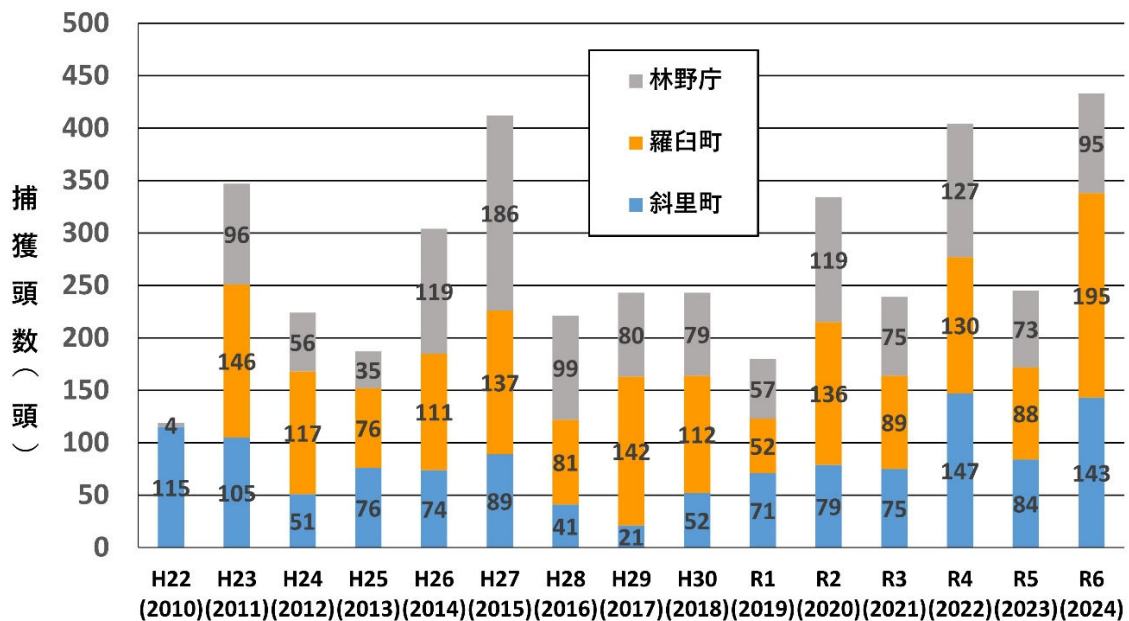


図 1. 隣接地域におけるエゾシカ捕獲頭数（捕獲主体別）

注：羅臼町及び斜里町は各町所有の捕獲頭数データを集計。

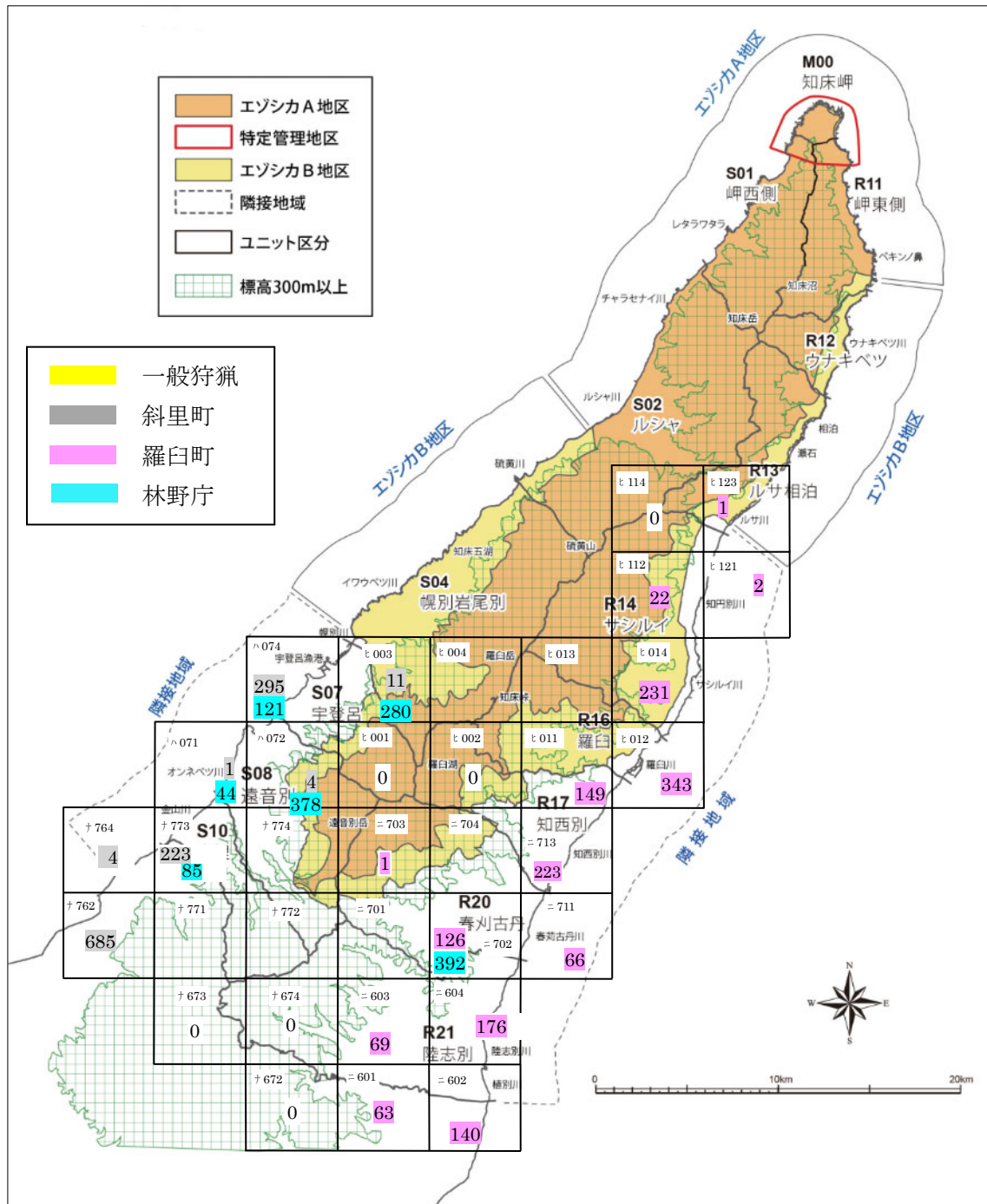


図2. 過去14年間の隣接地域における狩猟メッシュ（5km×5km）別、捕獲主体別の捕獲頭数（集計対象とした狩猟メッシュ）

注：羅臼町及び斜里町は各町所有の捕獲頭数データを集計。

表 2. 過去 14 年間の隣接地域におけるエゾシカ捕獲頭数 (捕獲メッシュ・捕獲主体別)

捕獲メッシュ(※)	捕獲主体	2010年 (H22)	2011年 (H23)	2012年 (H24)	2013年 (H25)	2014年 (H26)	2015年 (H27)	2016年 (H28)	2017年 (H29)	2018年 (H30)	2019年 (R1)	2020年 (R2)	2021年 (R3)	2022年 (R4)	2023年 (R5)	2024年 (R6)	計
762(日の出)	一般狩猟	29	44	34	43	6	34	22	13	34	6	9	7				
	斜里町	72	26	37	23	29	32	31	13	32	47	64	27	56	73	123	685
764(日の出)	一般狩猟	5	10	11	6	14	13	8	1	0	0	1	7				
	斜里町		1													3	4
771(真鯉)	一般狩猟	15	9	1	8	2	4	8		0	0		9				
772(真鯉)	一般狩猟										0						
773(真鯉)	一般狩猟	135	100	48	92	107	60	23	13	1	8	4	49				
	斜里町	33	78	14			2	1	2				31	60		2	223
	林野庁	-	-	-	-	29	19	11	17	9	0	-	-	-	-	-	85
774(遠音別)	一般狩猟	23	16	2	1	1			0								
601(植別川)	一般狩猟												10				
	羅臼町	-	-	-	-	-	1	-	1	1	-	10	10	14	10	16	63
602(植別川)	一般狩猟												1	12			
	羅臼町	-	-	-	8	3	12	-	14	4	3	19	18	23	15	21	140
603(陸志別)	一般狩猟	9	8	10	14	3	4	4	6	14	4	1					
	羅臼町	-	-	-	-	-	-	-	4	9	8	19	15	10	3	1	69
604(陸志別)	一般狩猟	31	38	13	32	17	58	30	46	34	18	34	36				
	羅臼町	-	4	-	10	2	10	14	8	11	6	34	11	23	18	25	176
701(春刈古丹川)	一般狩猟	2	5				0			0	0						
702(春刈古丹)	一般狩猟	8	8	4	10	9	9	9	6	1	5	5	2				
	羅臼町	-	2	20	3	4	17	1	7	5	9	16	4	14	10	14	126
	林野庁	4	96	56	-	-	-	-	16	20	31	34	6	69	18	42	392
703(春刈古丹)	羅臼町	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-				1
704(春刈古丹)	一般狩猟	6															
711(春刈古丹)	一般狩猟	8	19	4	4	5	1	2	0	2	3	2	6				
	羅臼町	-	42	5	-	10	1	-	1	-	-	2	3		1	1	66
713(知西別)	一般狩猟	34	49	18	17	17	15	7	16	12	7	13	13				
	羅臼町	-	27	10	5	26	17	10	21	18	1	15	23	12	18	20	223
	一般狩猟	38	32	18	27	34	17	8	5	0	17	28	19				
701(遠音別)	斜里町												1				1
	林野庁	-	-	-	-	7	12	12	4	6	3	-	-	-	-	-	44
	一般狩猟	21	20	9	36	37	24	36	3	12	4	5	1				
702(遠音別)	斜里町												3	1			4
	林野庁	-	-	-	-	41	71	29	16	15	9	58	29	39	32	39	378
	一般狩猟												1				
704(宇登呂)	斜里町				53	45	55	9	6	20	24	15	13	29	11	15	295
	林野庁	-	-	-	-	19	58	18	11	8	7	-	-	-	-	-	121
	斜里町																0
703(宇登呂)	斜里町	10												1			11
704(林野庁)	林野庁	-	-	-	35	23	26	29	16	21	7	27	40	19	23	14	280
	一般狩猟		5	5	2		1		1								
701(羅臼)	羅臼町	-	-	18	1	6	5	23	19	44	15	3	1	8	6		149
	一般狩猟					2		2			0						
702(羅臼)	羅臼町	-	58	44	27	37	37	21	50	4	7	1	4	13	2	38	343
	一般狩猟	-	12	16	22	21	37	11	9	15	3	8	-	13	5	59	231
703(サシルイ)	羅臼町	-	-	4	-	1	-	1	7	1	-	8	-				22
704(知内別川)	羅臼町	-	1	-	-	1	-	-	-	-	-	-	-				2
705(ルサ)	羅臼町	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-				1
小計	一般狩猟	364	363	177	292	254	240	159	110	110	72	103	172				
	斜里町	115	105	51	76	74	89	41	21	52	71	79	75	147	84	143	1,223
	羅臼町		146	117	76	111	137	81	142	112	52	136	89	130	88	195	1612
	林野庁	4	96	56	35	119	186	99	80	79	57	119	75	127	73	95	1300
計		483	710	401	479	558	652	380	353	353	252	437	411				

注 1 : 羅臼町及び斜里町は各町所有の捕獲頭数データを集計。

注 2 : 一般狩猟は北海道庁所有の捕獲頭数データを集計、羅臼町及び斜里町は各町の所有の捕獲頭数データを集計。

注 3 : 一般狩猟による捕獲頭数について、数値の「0」は出猟はあったが捕獲がなかったもの。空欄は、出猟がなかったもの、または、出猟はあったが捕獲がなかったもの、の両方を含む。注：羅臼町及び林野庁の有害捕獲頭数における「-」は、出猟がなかったもの。斜里町及び羅臼町の有害捕獲頭数における空欄は、出猟がなかったもの、または、出猟はあったが捕獲がなかったもの、の両方を含む。

注 4 : 北海道庁所有のデータは非公表のため、WG 出席者のみに提示 (色付きセル)。

9. 2024 (R6) シカ年度 エゾシカ個体数モニタリング実施結果

1. 航空カウント調査 (環境省事業)

- ・2025 年 2 月 26 日～3 月 4 日のうち 4 日間、世界自然遺産地域内に設定された調査区計 10 区画において、292 群 1,560 頭のエゾシカを確認。遺産地域内の確認頭数は、前年結果 (234 群 1,290 頭) と比較して増加。
- ・最も発見密度が高かったのは、知床岬先端部(ユニット M00)で 145.51 頭/km²。次いでウナキベツ(ユニット R12)で 22.39 頭/km²、岬東側(R11)で 16.00 頭/km²、ルシヤ (S02) で 15.83 頭/km²の順。
- ・過年度の調査データについて、以下の 2 つの視点から改めて分析整理を行った。
 - ①知床岬先端部と周辺部におけるエゾシカ発見頭数並びに範囲別割合の推移状況
 - ②知床岬先端部におけるエゾシカ発見頭数の性齢別構成の推移状況

2. スポットライトセンサス (羅臼町事業・斜里町事業)

- ・羅臼町ルサ-相泊地区の 1km あたり発見頭数は、秋期 4.3 頭/km、春期は 7.8 頭/km。前回結果 (秋期 5.8 頭、春期 11.3 頭) と比較すると、秋期と春期ともに減少した。
- ・斜里町幌別コースの 1km あたり発見頭数は、秋期 4.3 頭/km、春期 14.5 頭/km。前回結果 (秋期 4.1 頭、春期 6.0 頭) と比較すると、秋期・春期ともに増加した。
- ・斜里町岩尾別コースの 1km あたり発見頭数は、秋期 1.4 頭/km、春期 4.7 頭/km。前回結果 (秋期 2.9 頭、春期 1.6 頭) と比較すると、秋期は減少、春期は増加した。

3. オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査 (知床財団独自調査事業)

- ・2025 年の 2～3 月に、調査を 2 回実施。最大発見頭数は 256 頭 (20.8 頭/km)。過去 5 年間の最大頭数の平均は 290 頭であり、今年は平年よりもやや少ない年であった。

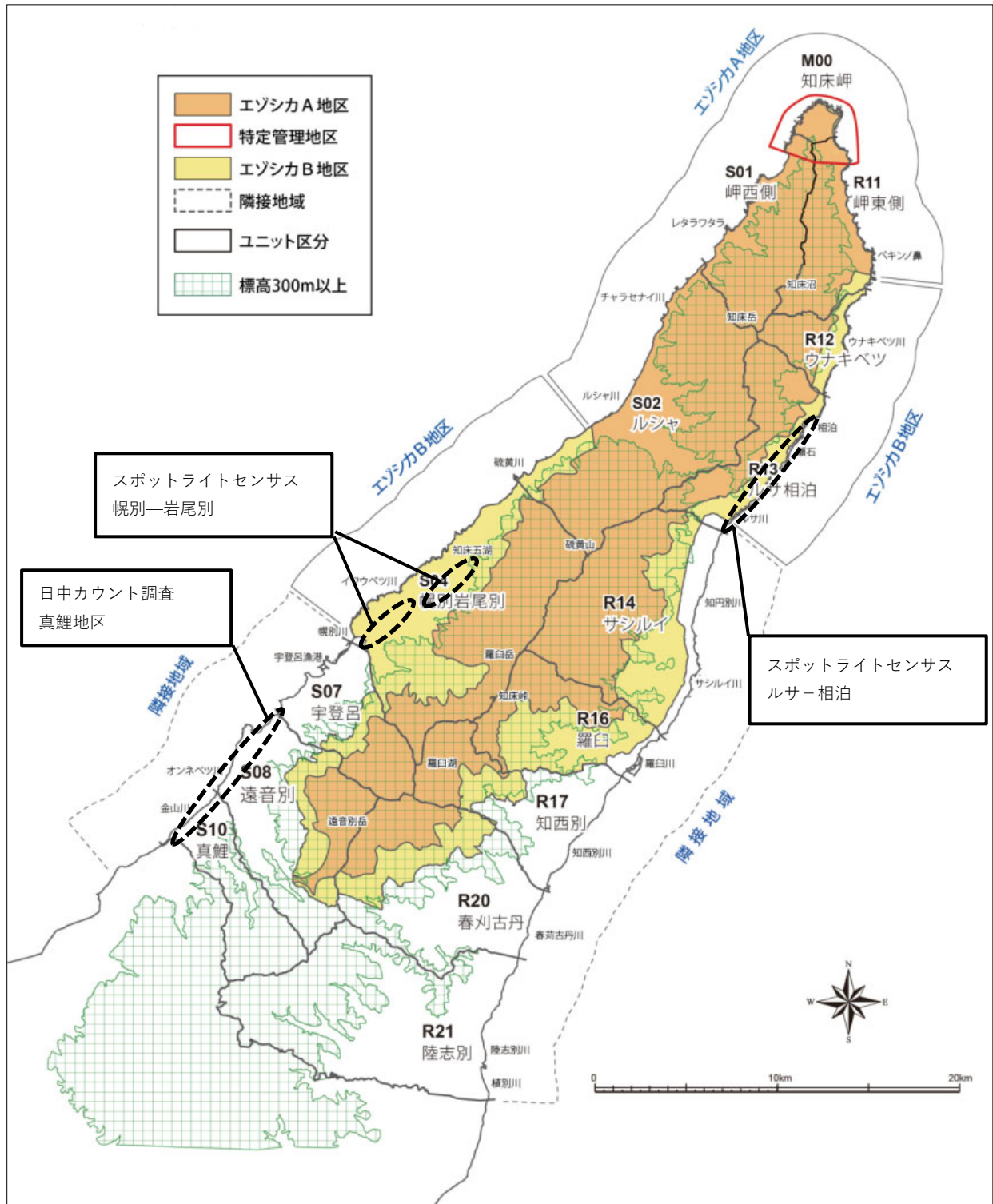


図1. モニタリングユニット区分図及びエゾシカ個体数モニタリング実施位置図

1. 航空カウント調査 (環境省事業)

【概要】

- ・知床半島の世界自然遺産地域を対象に、航空カウント調査区(計 10 区画図 1 参照)において、2025 年 2 月 26 日～3 月 4 日の期間中の計 4 日間、調査を実施した。
- ・世界自然遺産地域内に設定された調査区計 10 区画において、292 群 1,560 頭のエゾシカを確認。遺産地域内の確認頭数は、前年結果(234 群 1,290 頭)と比較して増加した。
- ・モニタリングユニットごとに再集計した調査結果については表 2 のとおり。最も発見密度が高かったのは、知床岬先端部(ユニット M00)で 145.51 頭/km²。次いでウナキベツ(ユニット R12)で 22.39 頭/km²、岬東側(R11)で 16.00 頭/km²、ルシャ (S02) で 15.83 頭/km²の順。

【個体数調整実施地区の傾向】

- ・知床岬地区は、個体数調整を開始した 2007 年以降、2012 シカ年度までは大きく減少傾向、2013 ～2020 シカ年度の期間は横ばい又はやや減少傾向にあったが、2020 シカ年度年以降急増し、高止まりで継続していた。今回の調査結果は 145.51 頭/km²であり、2010 シカ年度以降初めて 100 頭/km²を超え、過去最大値であることが確認された。
- ・ルサー相泊地区は 2016～2018 シカ年度の期間、おおよそ目標値(5 頭/km²)以下で推移するも、2019～2020 シカ年度の調査では目標値を上回り、2021～2022 シカ年度は目標値以下で推移していた。今回の調査結果は 7.14 頭/km²であり、2020 シカ年度以来 4 年振りに目標値を超え、かつ過去最大値を記録する結果となった。
- ・幌別-岩尾別地区は、2016～2019 シカ年度までは、シカの発見密度が目標値(5 頭/km²)以下の水準で維持していたが、2020 シカ年度以降は目標値を超える年が見られるようになったが、今回の調査結果は 4.61 頭/km²であり、2023 シカ年度以来 2 年振りに目標値を下回る結果となった。

表 1. 2024 年(2023(R5)シカ年度)エゾシカ航空カウント調査結果

	面積 (km ²)	捕獲圧 の有無	2025 (2024s) 年調査				2024 (2023s) 年調査			
			発見 頭数	発見密度 (頭/km ²)	2024(2023s)年比		発見 頭数	発見密度 (頭/km ²)	2023(2022s)年比	
					実測値	%			実測値	%
M00 知床岬	3.23	○ ^{※1}	470	145.51	+168	156%	302	93.50	+97	147%
S01 岬西側	8.33	×	129	15.49	+6	105%	123	14.77	+68	224%
S02 ルシャ	25.46	×	403	15.83	-33	92%	436	17.12	+291	301%
S04 幌別-岩尾別	29.08	○	134	4.61	-69	66%	203	6.98	+123	254%
R11 岬東側	8.75	×	140	16.00	-5	97%	145	16.57	+25	121%
R12 ウナキベツ	4.51	○ ^{※2}	101	22.39	+98	3367%	3	0.67	-23	12%
R13 ルサー相泊	24.68	○	183	7.41	+105	235%	78	3.16	+3	104%
計			1560				1290			

※1. 知床岬では、2023 年 7 月から 2025 年 3 月までシカの捕獲作業は未実施。

※2. R12 ウナキベツ地区において捕獲圧が存在したのは 2017 年(2016 シカ年度)のみ。

※ 表中、前年の調査結果と比べ 25%以上増加が確認されたところは桃色、25%以上減少が確認されたところは水色でそれぞれ表示。

そのほか各地区の概況については下表のとおり。

地区名 (ユニット呼称)	概況
知床岬 (M00)	・ 詳細 (旋回) 調査では 426 頭のシカを確認。前シカ年度 (316 頭) より増加し、2000 年代後半とほぼ同等の値。
ルシャ (S02)	・ 年変動が特に大きく、増加・減少を定期的に繰り返している。 ・ 以下 2 地区とシカ往来 (避難又は供給) の可能性も考えられる。
幌別-岩尾別 (S04)	・ 年変動が大きく、増加・減少を定期的に繰り返している。
ルサ-相泊 (R13)	・ ゆるやかな減少傾向にあったが、一転して過去最大値を記録。

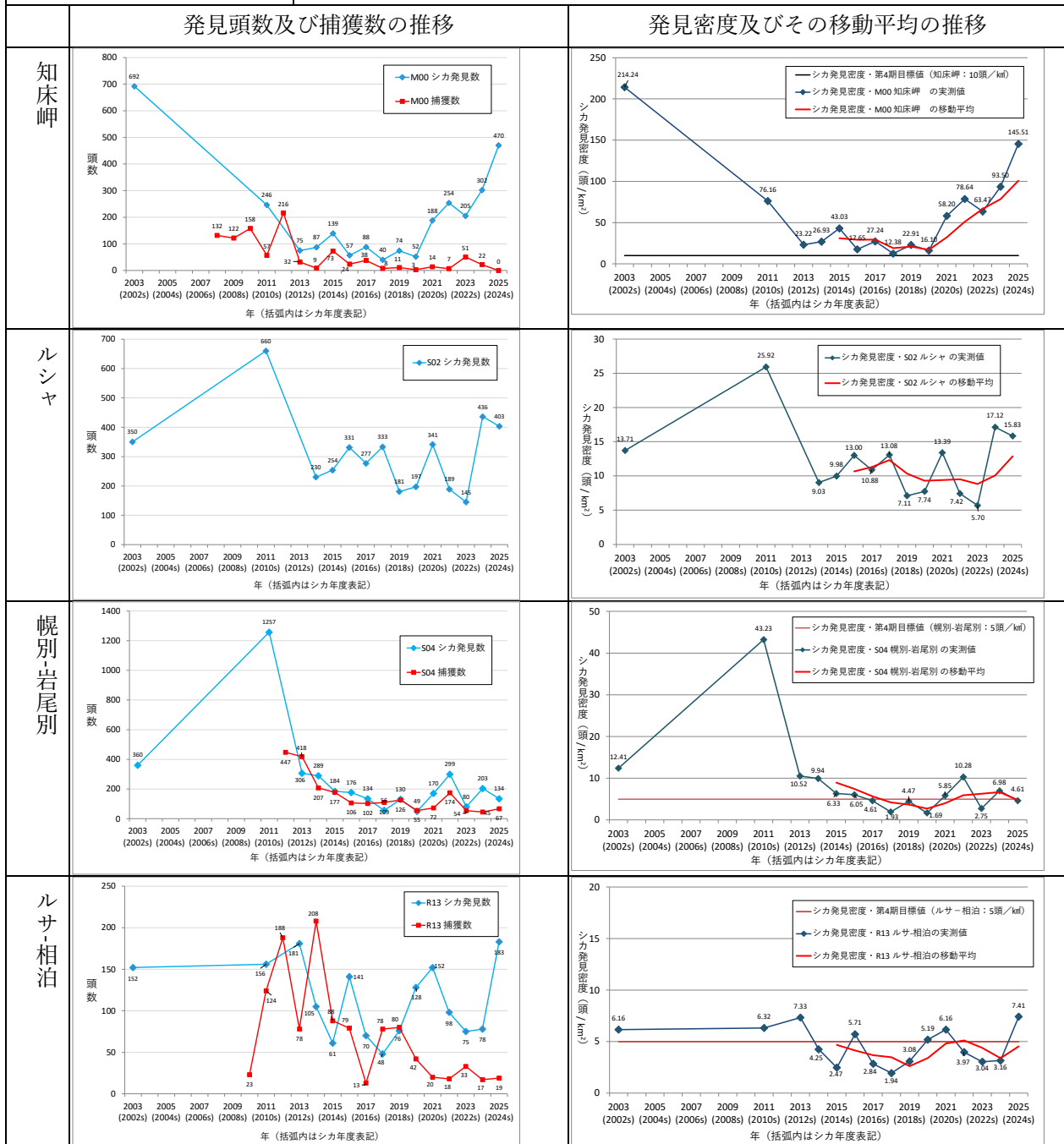


図 2. 遺産地域内の主要越冬地 4 ヶ所のエゾシカ発見状況等の推移。

※なお、ルサ-相泊地区内に含まれる標高 300m~500m の高標高エリア (U13s) は 2016 年より調査範囲として設定されたため、2015 年以前の数値には含まれていない。

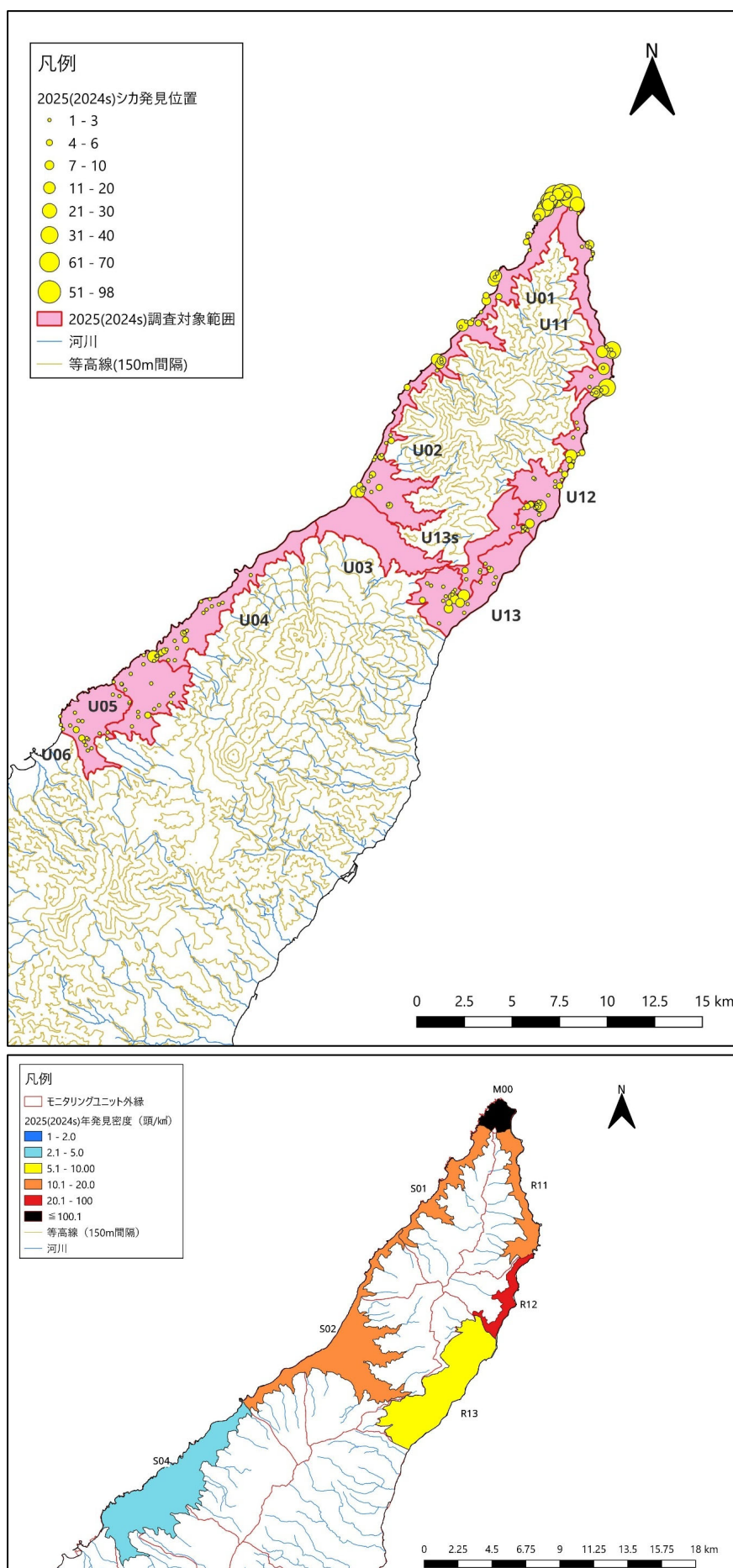


図 3. エゾシカの発見位置、群れ規模、ユニットごと発見密度概況

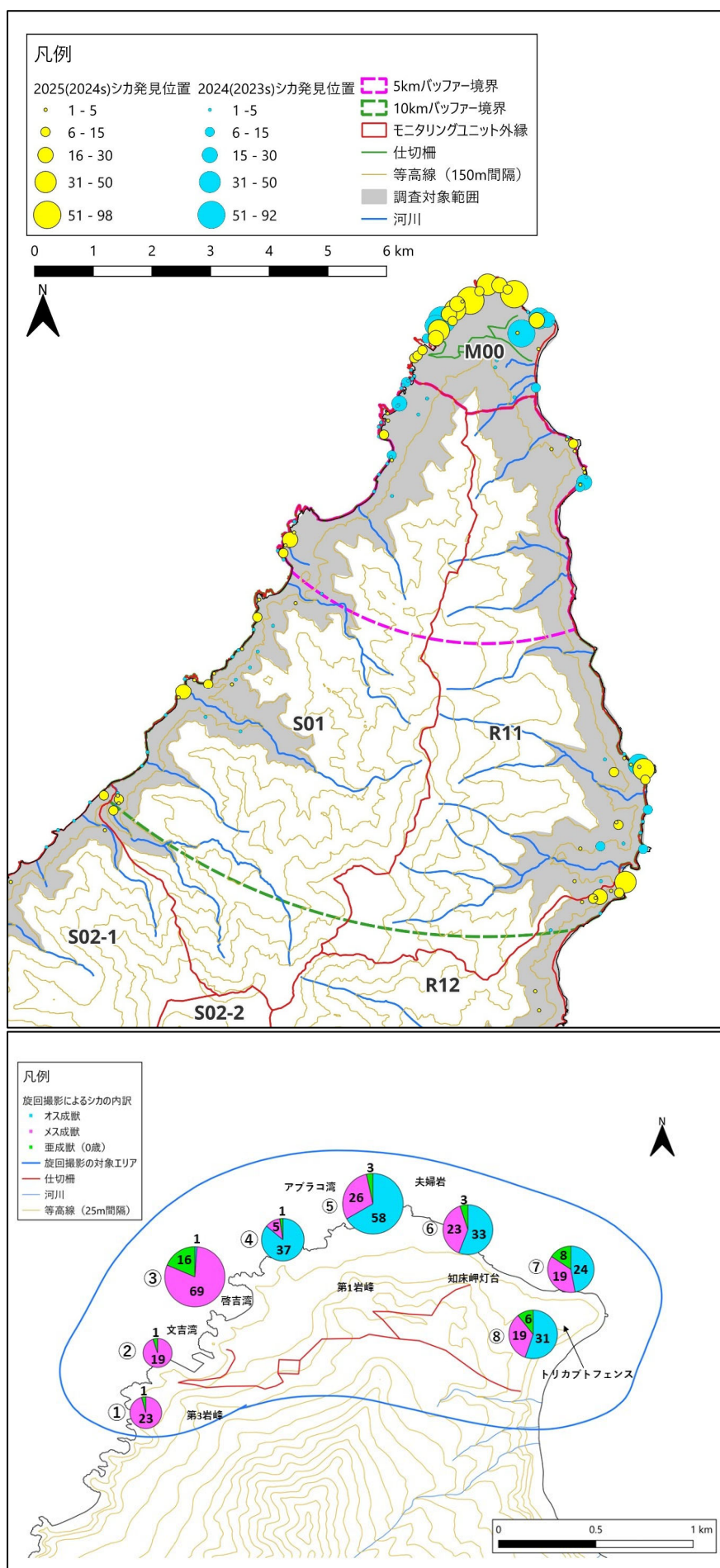


図4. 知床岬地区におけるエゾシカ発見状況概況

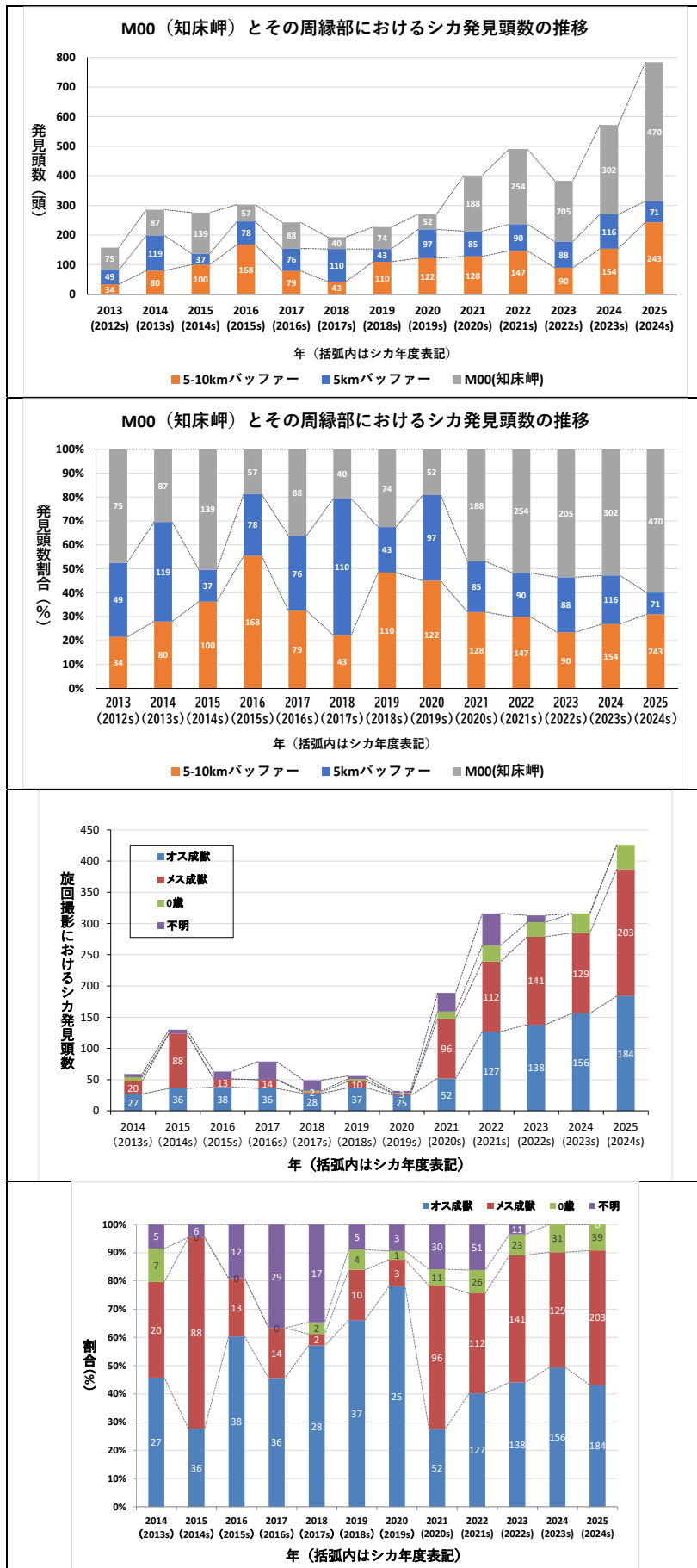


図 5. 知床岬地区における距離範囲ごとエゾシカ発見頭数並びに性齢構成の年推移

2. スポットライトセンサス（羅臼町事業・斜里町事業）

< 2-1. ルサー相泊地区 >

表 2. 2024(R6)シカ年度調査概要

調査時期	調査日	一日当たり 平均発見頭数	密度指標値※1	100 メス仔比※2	一日当たり 最多発見頭数
2024 年秋期	10 月 25、26、27、29、 30 日の計 5 日間	43.6 頭/日	4.2 頭/km	34.9 頭	57 頭
2025 年春期	4 月 20、21、22、23、 27 日の計 5 日間	79.6 頭/日	7.8 頭/km	17.1 頭	102 頭

※1 1 km 当たりの平均発見頭数 ※2 メス成獣 100 頭当たり 0 歳仔シカ発見頭数

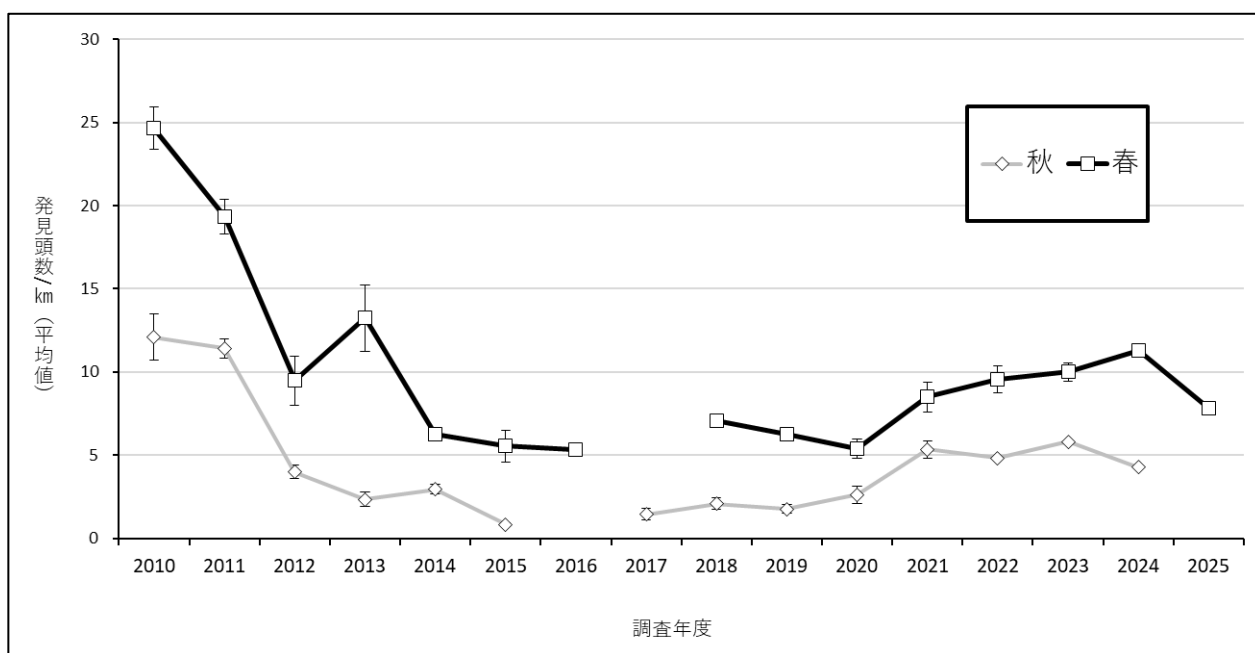


図 6. ルサー相泊地区のスポットライトセンサスによる 1km あたりの発見頭数の経年変化

※グラフ中、密度指標値は 5 日間の平均値±標準誤差を示す。なお、ルサー相泊地区は、2009 (H21) シカ年度から個体数調整を実施している。

表 3. これまでの実施経緯

年度	経緯概要
1998(H10)～2008(H20)	月 1 回、通年で実施
2009(H21)	年二期（春・秋）、各期 5 日間集中で実施する方式に変更 調査コースは道道沿い 10.2 km の区間
2016(H28)秋期	同年夏に調査コースを含む道道で土砂崩れが発生 通行止めとなったため調査を中止
2017(H29)春期	春期に調査区間を 4 km に短縮して実施
2017(H29)秋期	全区間開通、既定コース（10.2 km）で調査再開
2018(H30)春期～2021(R3)秋	規定コースで調査実施
2022(R4)春期	積雪により昆布浜～相泊間が通行止めとなったため、調査区間を 6.8 km に短縮して実施
2023(R5)春期～2025(R7)春期	規定コースで調査実施

< 2 - 2 . 幌別 - 岩尾別地区 >

表 4 . 2024(R6)シカ年度調査概要

調査時期	調査日	一日当たり 平均発見頭数	密度指標値※1	100 メス仔比※2	一日当たり 最多発見頭数
2024 年秋期	10 月 25、26、29、 30、31 日の計 5 日間	21.0 頭/日	4.3 頭/km	37.5 頭	28 頭
		6.4 頭/日	1.4 頭/km	66.7 頭	12 頭
2025 年春期	4 月 22、23、24、 27、28 日の計 5 日間	71.0 頭/日	14.5 頭/km	37.9 頭	93 頭
		21.0 頭/日	4.7 頭/km	11.1 頭	28 頭

※1 1 km 当たりの平均発見頭数 ※2 メス成獣 100 頭当たり 0 歳仔シカ発見頭数

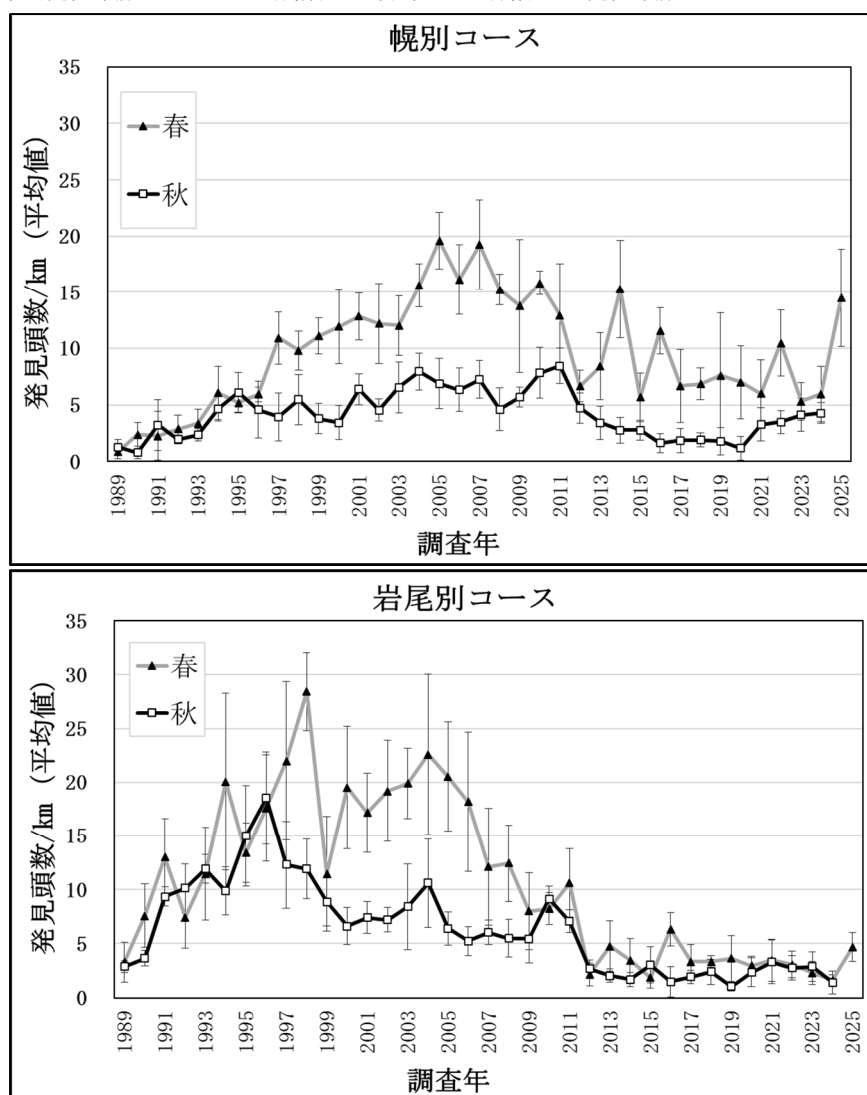


図 7 . 幌別-岩尾別地区のスポットライトセンサスによる、1km あたりの発見頭数の経年変化

※グラフ中、密度指標値は 5 日間の平均値±標準誤差を示す。なお、幌別 - 岩尾別地区では、2012 年から
個体数調整を実施している。

表 5 . これまでの実施経緯

年度	経緯概要
1980 年代末～	春と秋に継続して複数回実施。調査コースは幌別コース（距離 4.9 km）、 岩尾別コース（距離 4.5 km）の 2 コースを設定

オシンコシン～真鯉地区の日中カウント調査（知床財団独自調査事業）

- ・斜里側隣接地域の三段の滝（オショコマナイ川）～オチカバケ川の国道 334 号沿い、延長 12.0 km において、越冬期のエゾシカの日中カウント調査を 2008 年 1 月より実施。
- ・国指定知床鳥獣保護区内に相当する区間(三段の滝～オペケプ川)の調査距離が 3.5km、鳥獣保護区外（オペケプ川～オチカバケ川）が 8.5 km。
- ・天候の良い日の午後、国道沿い斜面等にいるエゾシカを低速で走行する車内よりカウント。2025 年 2 月から 3 月までの期間に計 2 回実施。調査は基本的に可猟期間外（狩猟中断期間含む）に実施。
- ・最大発見頭数は 256 頭（2025 年 3 月 11 日）（前年 370 頭：2 月 7 日）で、その日の密度指標値は 20.8 頭/km（前年 30.1 頭/km）。

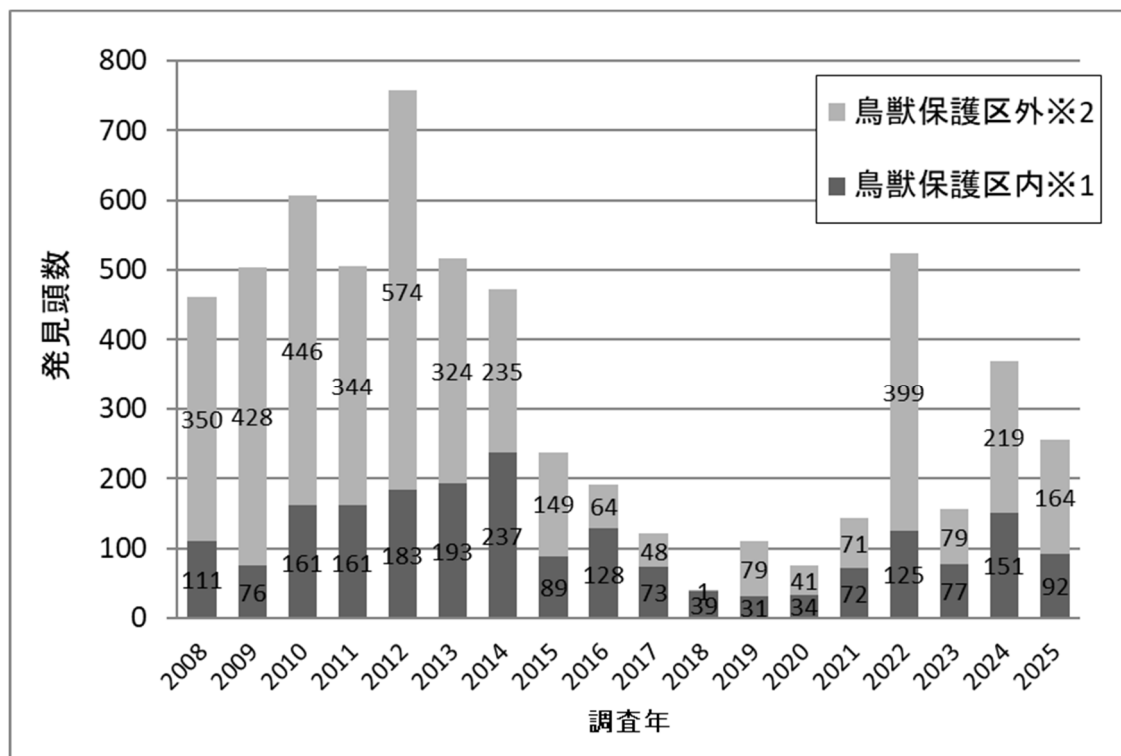


図 8 斜里町オシンコシン～真鯉地区の日中センサス（午後のロードサイドカウント）における

シカ年度別最大発見頭数の年次推移（2008～2025 年）.

※1. オチカバケ川～オペケプ

※2. オペケプ～三段の滝

2024(R06)シカ年度 植生モニタリング実施結果

これまでの実施成果とモニタリング計画を基にした 2024 年度調査の実施状況を下表にまとめた。

表 第 4 期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画

評価	項目	モニタリング 項目	実施 主体	No.	調査地区	植生 タイプ	第 4 期計画期間					基本的な考え方等
							2022 (R04)	2023 (R05)	2024 (R06)	2025 (R07)	2026 (R08)	
植生	詳細調査	簡易的な手法による指標種の回復量調査	環境省	V01	知床岬	森林・草原	○	○	●	○	○	毎年実施
					幌別-岩尾別	森林・草原	○	○	●	○	○	
					ルサ-相泊	草原	○	○	●	○	○	
					ルシヤ	森林・草原		○				
		植生影響調査	林野庁	V02	知床岬	森林		○			△	毎木は 5 年間隔、 林床・稚樹・下枝は 隔年で実施
					幌別-岩尾別			○			△	
					ルサ-相泊		△		○			
					ルシヤ				○			
			環境省	V03	知床岬	草原	○		●		○	知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔で実施
					幌別					○		
					ルシヤ			○			○	
		植生保護柵を用いた回復過程調査	林野庁	V04	知床岬	森林		○				5 年間隔で実施
	幌別				(○)		○					
	斜里町		V05	幌別-岩尾別	森林	○	○	○	○	○	100㎡運動地ほか	
	環境省	V06	知床岬	草原	○		○		○	隔年程度で実施		
	エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	環境省	V07	知床岬	草原						終了	
				幌別-岩尾別								
ルサ-相泊												
広域調査	植生影響調査 (森林植生)	林野庁	V08	標高 300 未満(越冬地)、 標高 300 ～ 600m	森林	○ 25 区					5 年間隔で実施 調査計画を全体に調整して毎年 10～20 区を調査	
	植生影響調査 (海岸植生)	環境省	V09	斜里側	海岸				○		5 年間隔で実施 斜里側はV03を含む	
				羅臼側					○			
植生影響調査 (高山植生)	環境省	V10	全域	高山	○ 遠音別岳	○ 知床連山	● 羅臼湖	○ 知床岳		5 年間隔で実施		
			環境省		V11	硫黄山周辺	高山	○	○		○	○
土壌侵食	詳細	土壌侵食状況調査	環境省	E01	知床岬	草原						終了
	広域	土壌侵食状況広域調査	環境省 林野庁	E02	全域	森林						広域植生調査 V08 に合わせて実施
生態系への影響	詳細調査	陸上無脊椎動物 (主に昆虫類)の 生息状況調査	環境省	B01	知床岬	森林・草原			●		5 年間隔で実施	
					幌別-岩尾別				●			
					ルサ-相泊				●			
					半島基部				●			
		陸上鳥類生息状況調査	環境省	B02	知床岬				●		5 年間隔で実施	
幌別-岩尾別							●					

1. 簡易的な手法による指標種の回復量調査(V01): 知床岬、幌別、ルサの3地区

1.1 調査方法

2024年度は、知床岬地区、幌別地区、ルサ地区の各地区において、夏季(8月)にこれまでと同じ手法で植生調査を実施し、経年変化の傾向を把握した。また、知床岬地区については、初夏(6月下旬)にも開花期を持つ種を対象とした調査を実施した。

1.2 調査地

1.2.1 知床岬地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_ML1	550	大型囲い柵沿い、森林固定区まで
森林	F_ML2	1,500	大型囲い柵沿い、羅臼側
草原	G_ML1	1,330	文吉湾～アブラコ湾
草原	G_ML2～4	1,160	アブラコ湾～灯台～羅臼金属柵
草原	G_ML5	214	エオルシ柵内外

【詳細ライン概要】

植生	調査区名	距離m	タイプ
森林	F_M1	100	対照
森林	F_M1c	100	囲い
草原	G_M1	100	対照
草原	G_M2	100	対照
草原	G_M3	50	対照



1.2.2 幌別地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
森林	F_HL1	500	自然センター向かい
森林	F_HL2	500	森林固定区向かい
森林	F_HL3	500	岩尾別温泉途中
草原	G_HL1	920	フレベ遊歩道一周

【詳細ライン概要】

植生	調査区名	距離m	タイプ
森林	F_H1	100	対照
森林	F_H1c	100	囲い
森林	F_H2	100	対照
草原	G_H1	50	対照



1.2.3 ルサ地区

【長距離ライン概要】

植生	調査区名	距離m	場所の備考
草原	G_RL1	370	囲いわなに向かう作業道沿いの山側



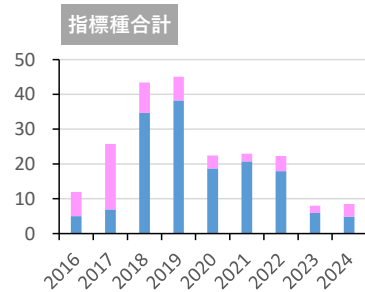
1.3 調査結果

1.3.1 知床岬地区

(1) 長距離ライン/森林植生【知床岬地区】

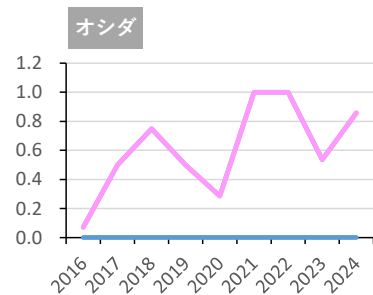
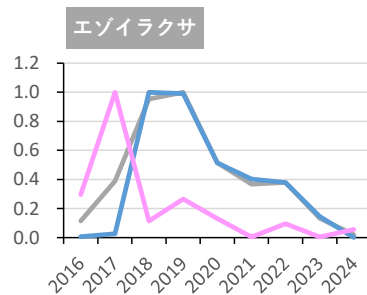
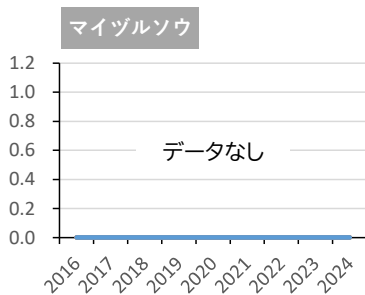
開花 非開花 開花+非開花

・指標種 株数合計(株数/100m)

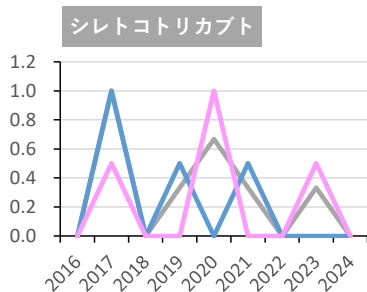
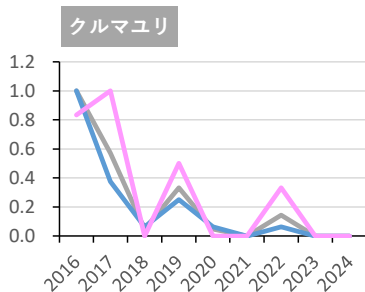
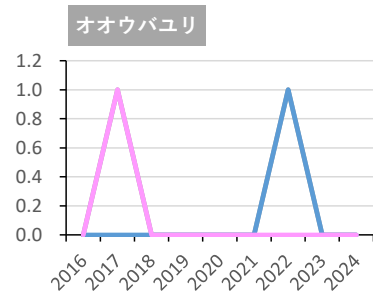
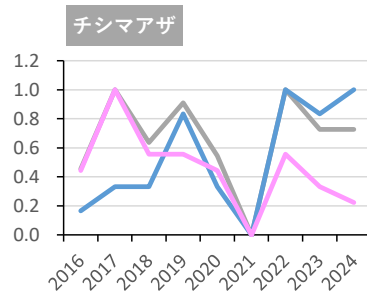
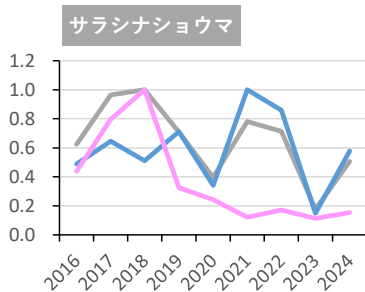


・優占型指標種 株数相対値※

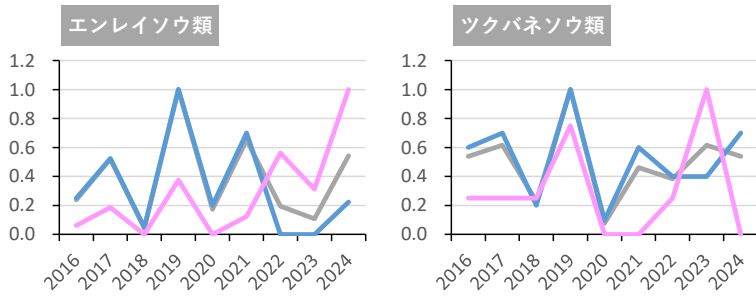
※各種株数最大値の年を 1 とした相対値



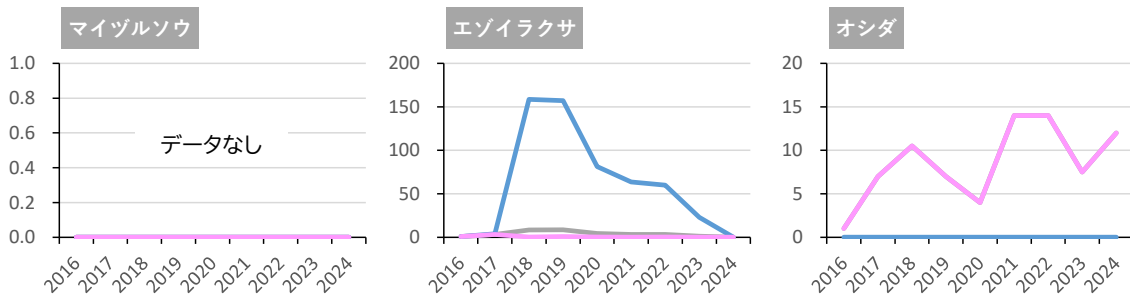
・嗜好大型指標種 株数相対値



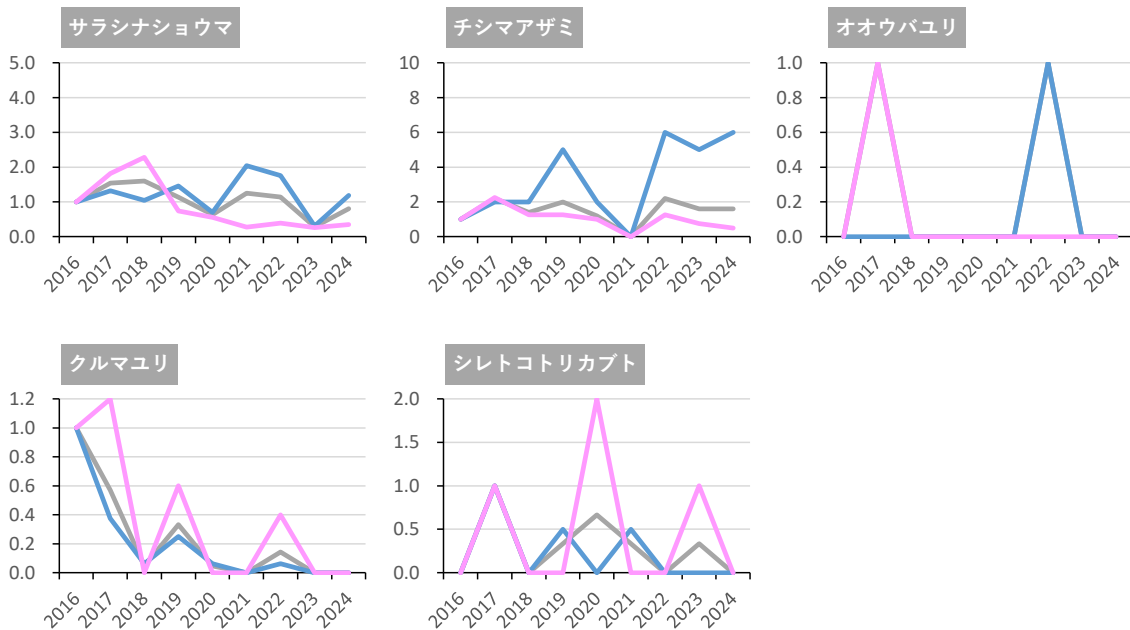
・ 消失型指標種 株数相対値



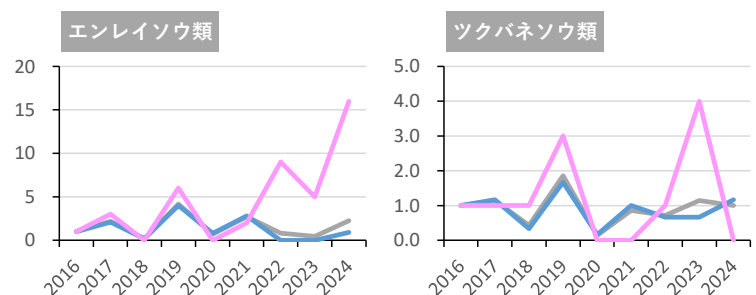
・ 優占型指標種 株数 LPI※ ※各種初確認の年の株数を 1 とした相対値



・ 嗜好大型指標種 株数 LPI



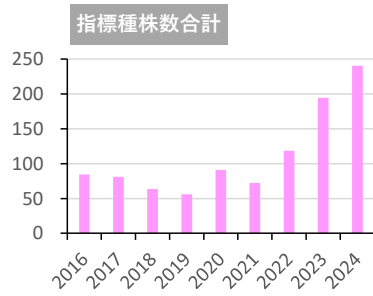
・ 消失型指標種 株数 LPI



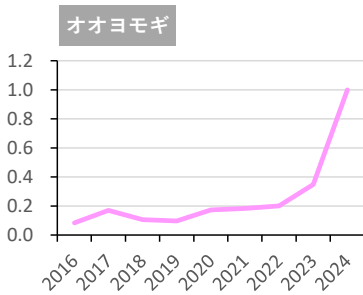
(2) 長距離ライン/草原植生【知床岬地区】

—— 開花

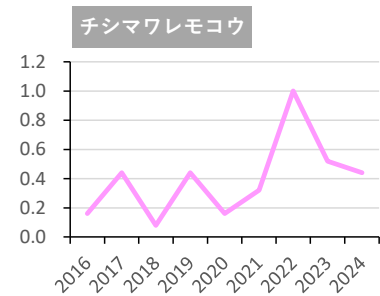
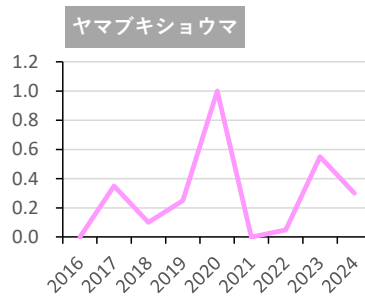
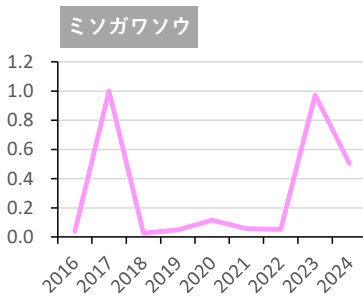
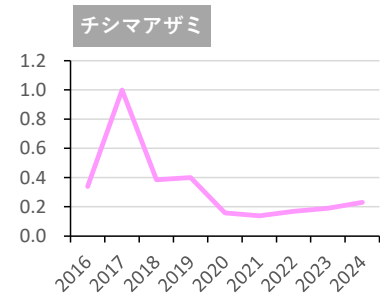
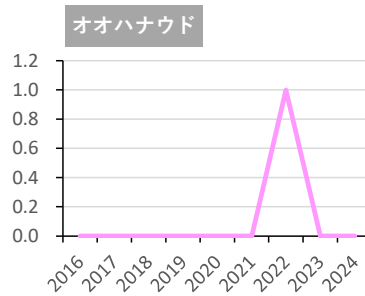
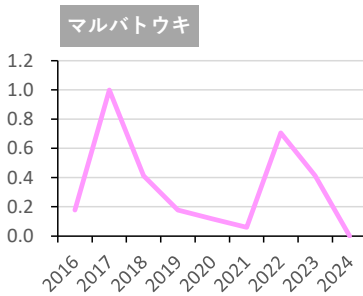
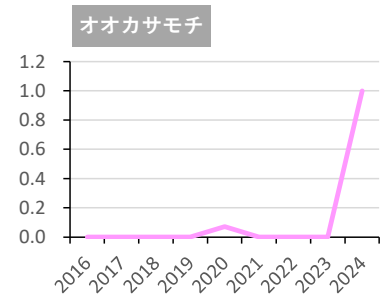
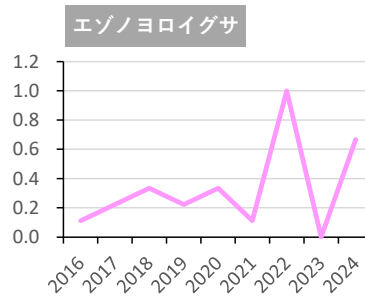
・ 指標種 株数合計 (株数/100m)

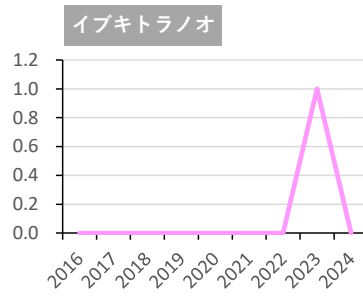
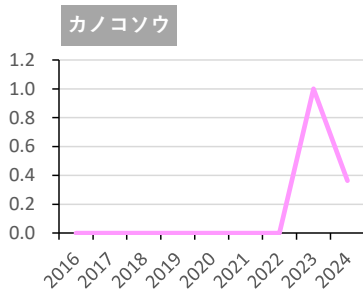


・ 優占型指標種 株数相対値※ ※各種株数最大値の年を 1 とした相対値

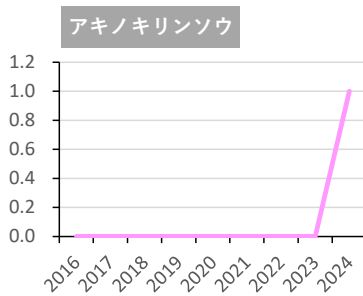
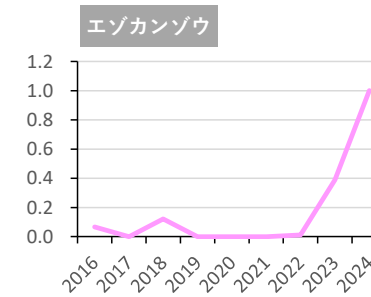
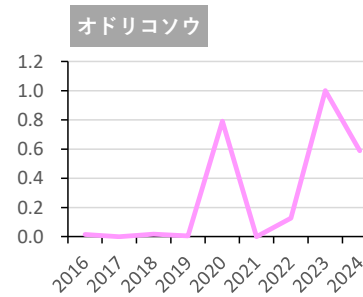
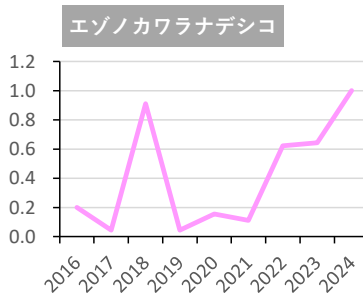
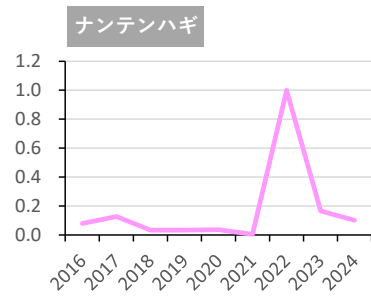
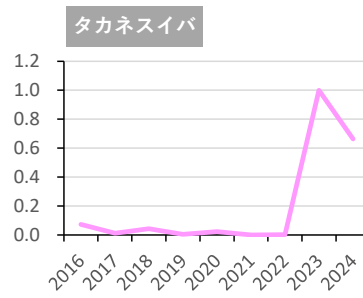
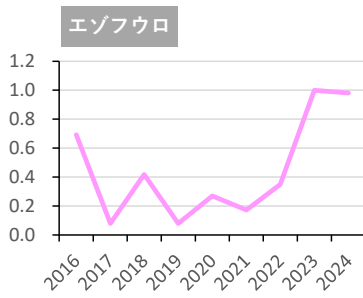
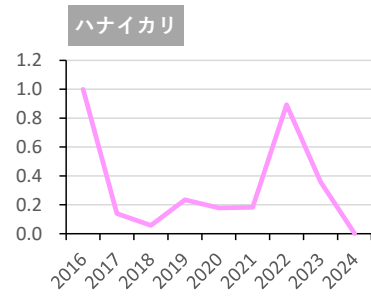
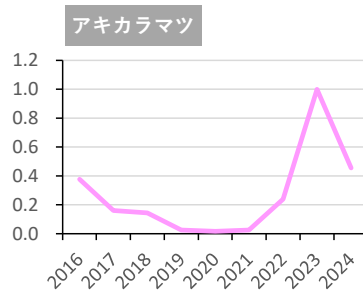
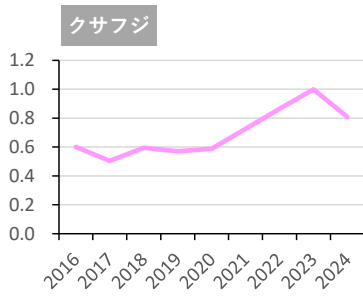


・ 嗜好大型指標種 株数相対値

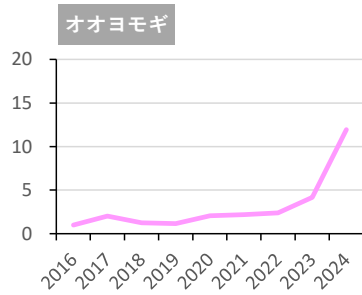




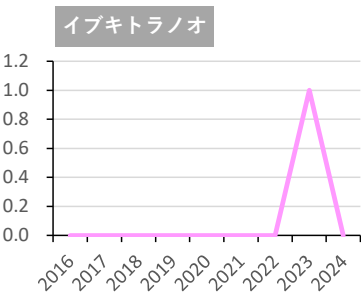
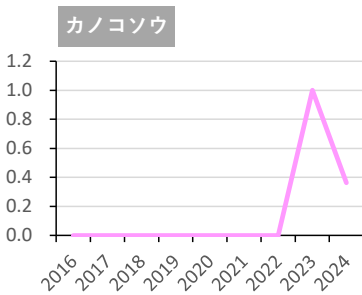
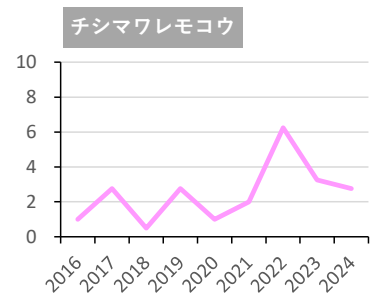
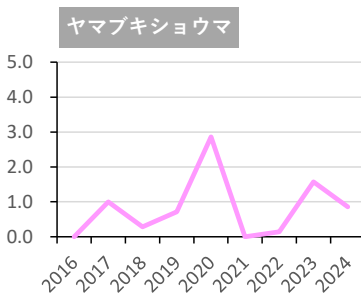
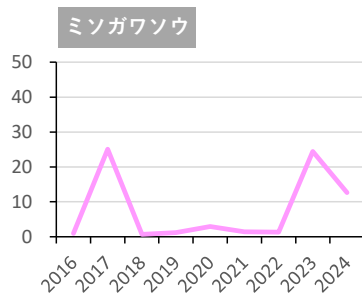
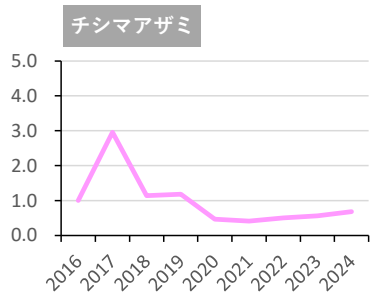
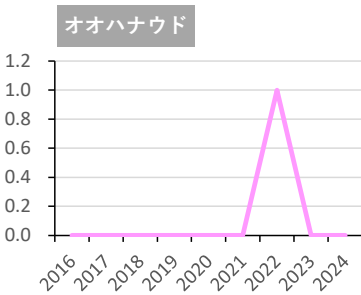
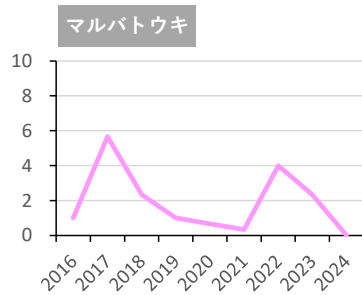
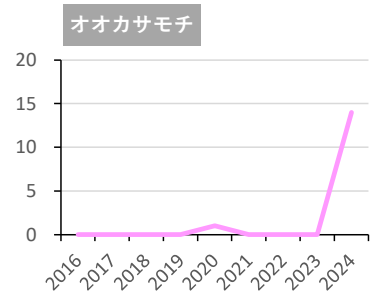
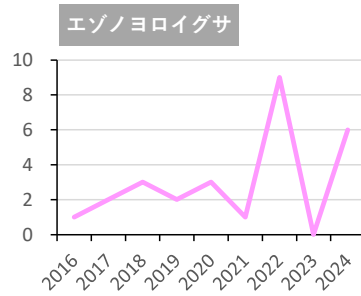
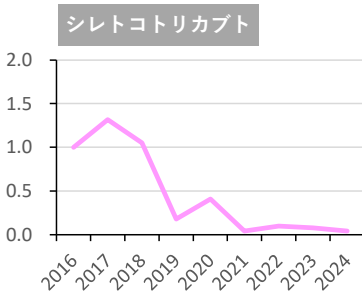
・消失型指標種 株数相対値



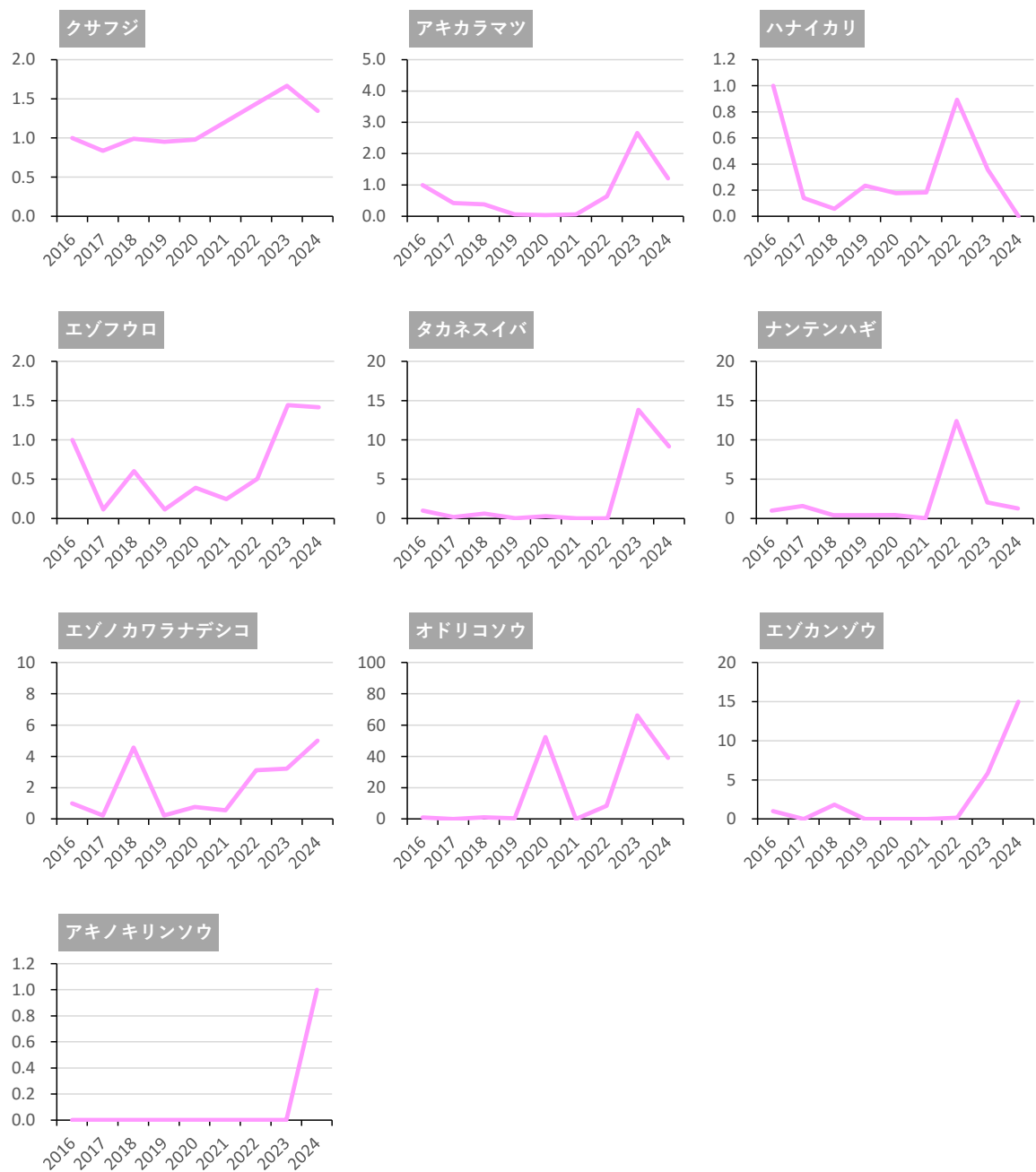
・ 優占型指標種 株数 LPI※ ※各種初確認の年の株数を 1 とした相対値



・ 嗜好大型指標種 株数 LPI

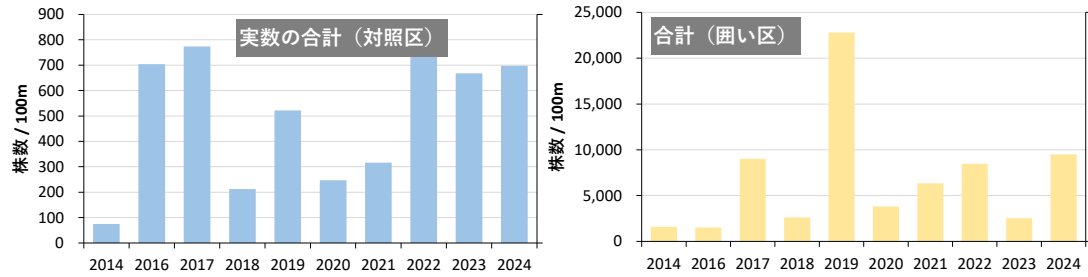


・ 消失型指標種 株数 LPI



(3) 詳細ライン/森林植生【知床岬地区】

・指標種 株数合計 (株数/100m)

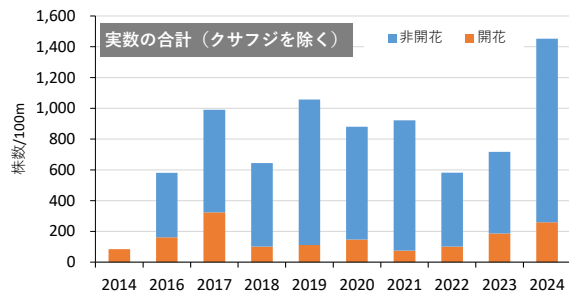


・指標種 株数相対値

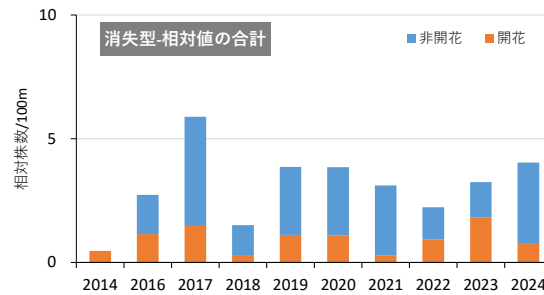
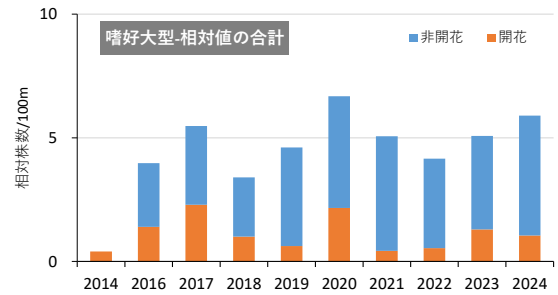
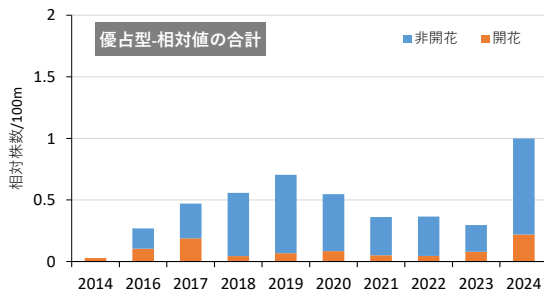
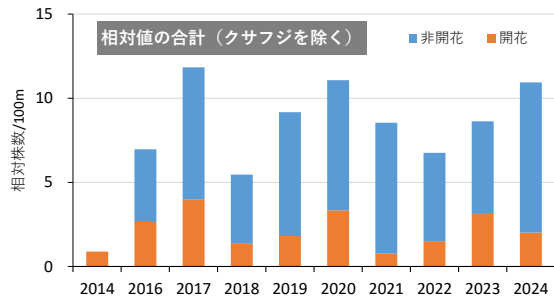


(4) 詳細ライン/草原植生【知床岬地区】

・指標種 株数合計(株数/100m)



・指標種 株数相対値

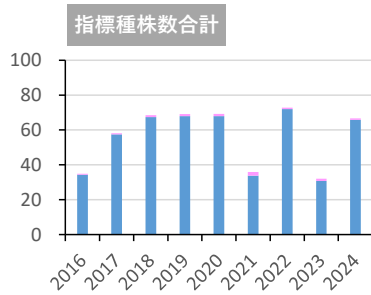


1.3.2 幌別地区

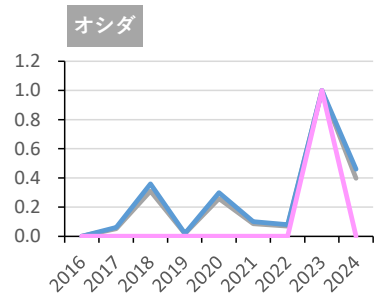
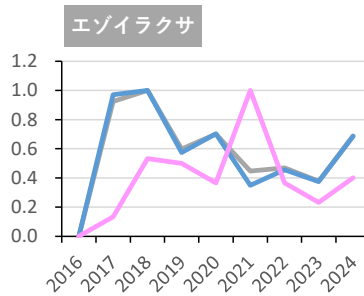
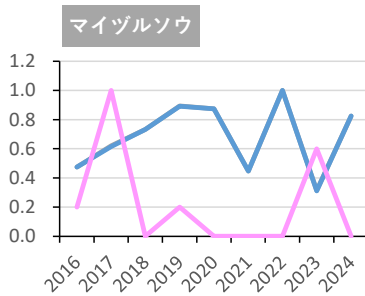
(1) 長距離ライン/森林植生【幌別地区】

開花 非開花 開花+非開花

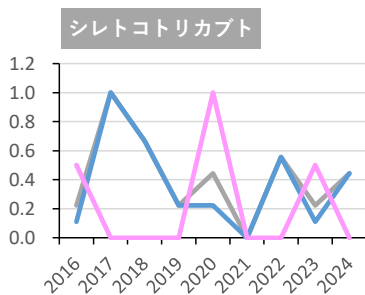
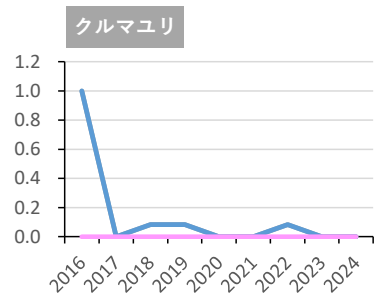
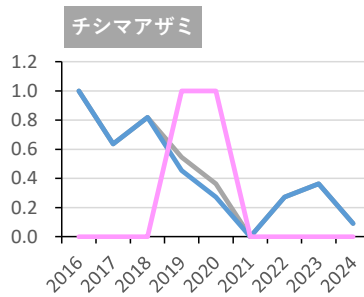
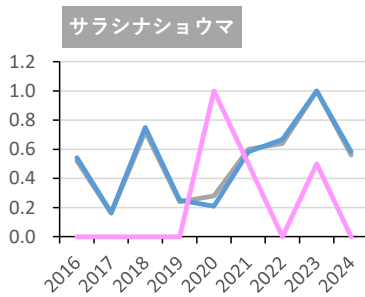
・指標種 株数合計(株数/100m)



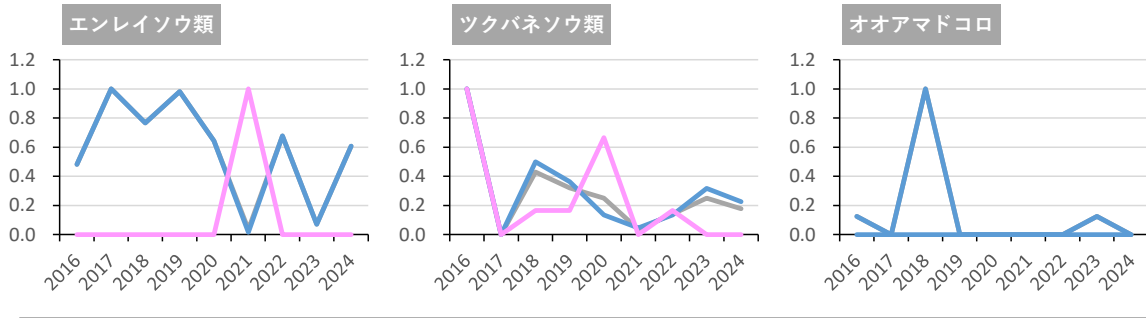
・優占型指標種 株数相対値※ ※各種株数最大値の年を 1 とした相対値



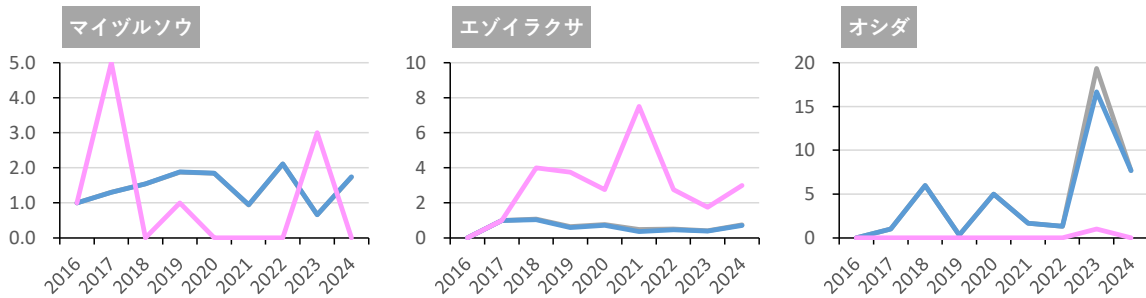
・嗜好大型指標種 株数相対値



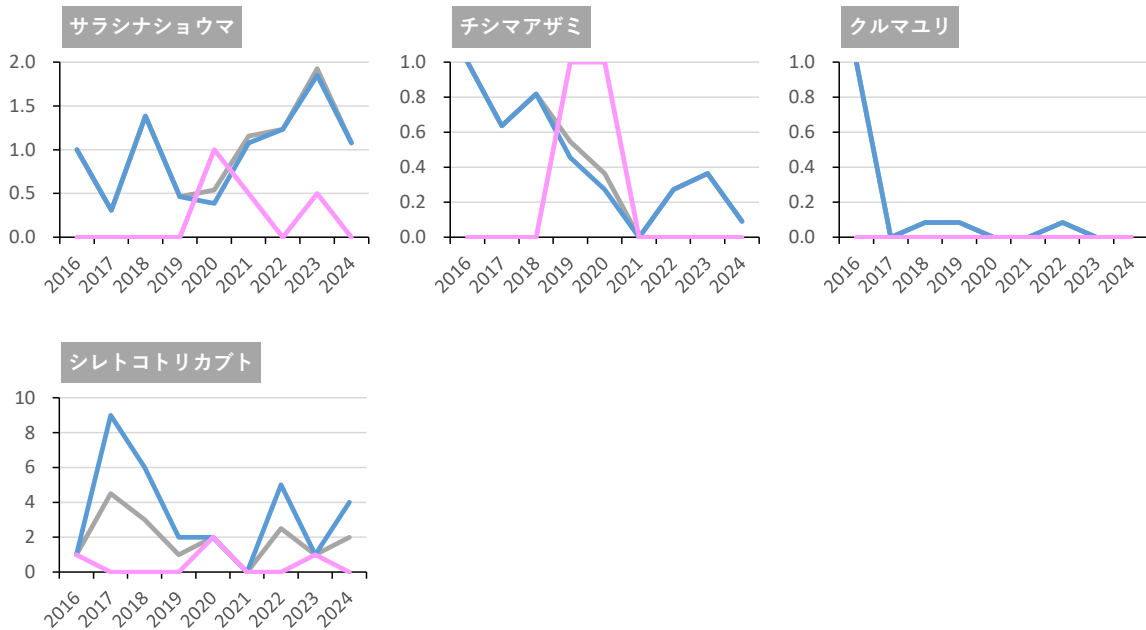
・ 消失型指標種 株数相対値



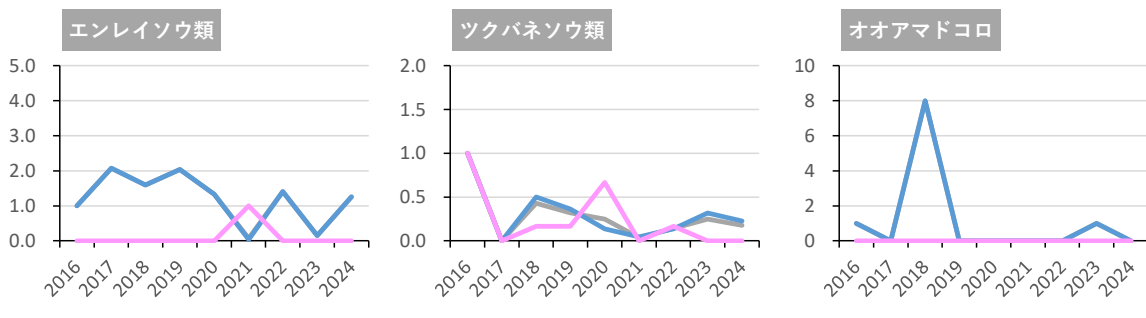
・ 優占型指標種 株数 LPI※ ※各種初確認の年の株数を 1 とした相対値



・ 嗜好大型指標種 株数 LPI



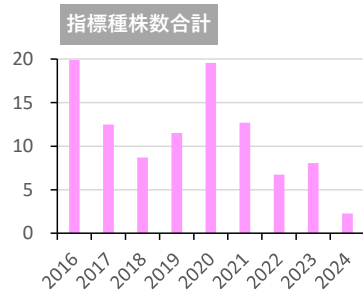
・ 消失型指標種 株数 LPI



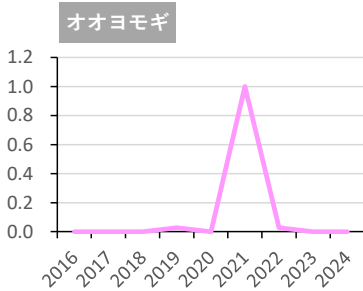
(2) 長距離ライン/草原植生【幌別地区】

—— 開花

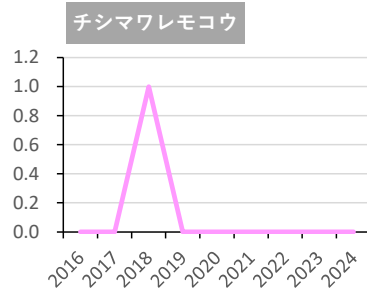
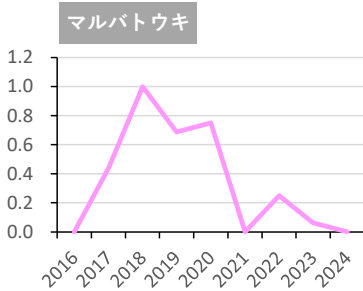
・ 指標種 株数合計 (株数/100m)



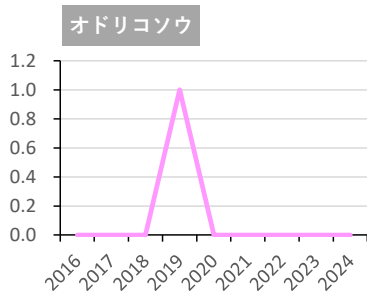
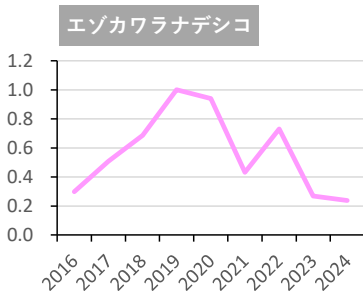
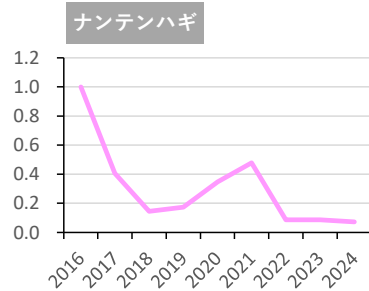
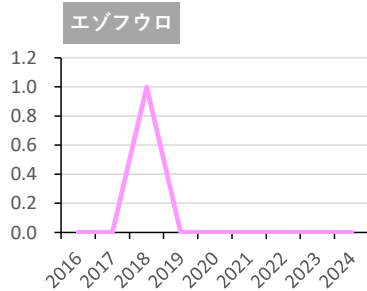
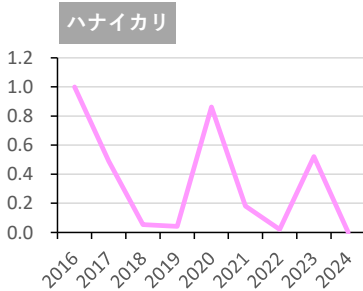
・ 優占型指標種 株数相対値※ ※各種株数最大値の年を 1 とした相対値



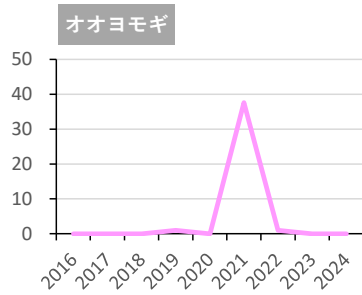
・ 嗜好大型指標種 株数相対値



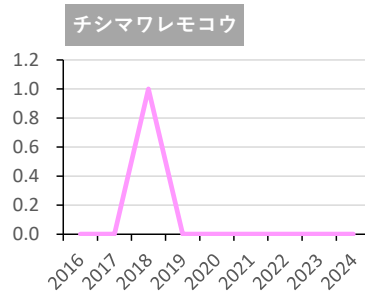
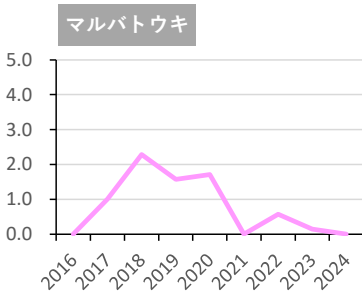
・ 消失型指標種 株数相対値



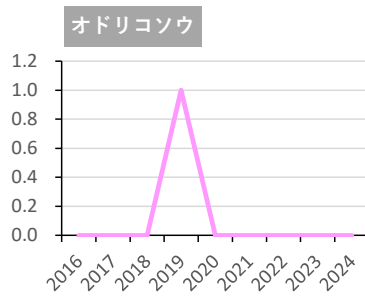
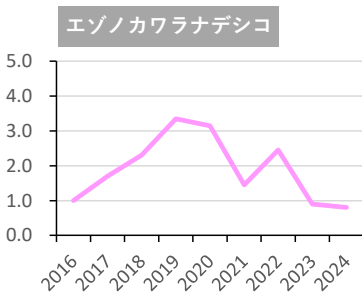
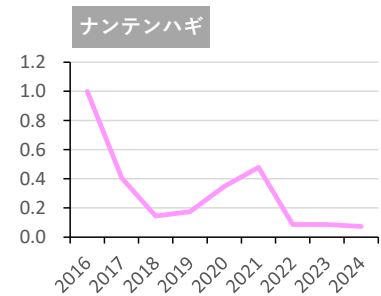
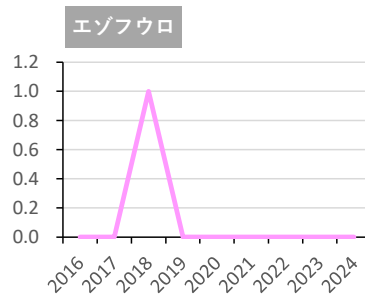
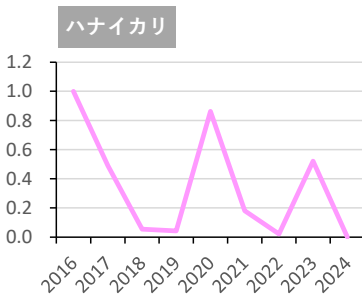
・ 優占型指標種 株数 LPI※ ※各種初確認の年の株数を 1 とした相対値



・ 嗜好大型指標種 株数 LPI

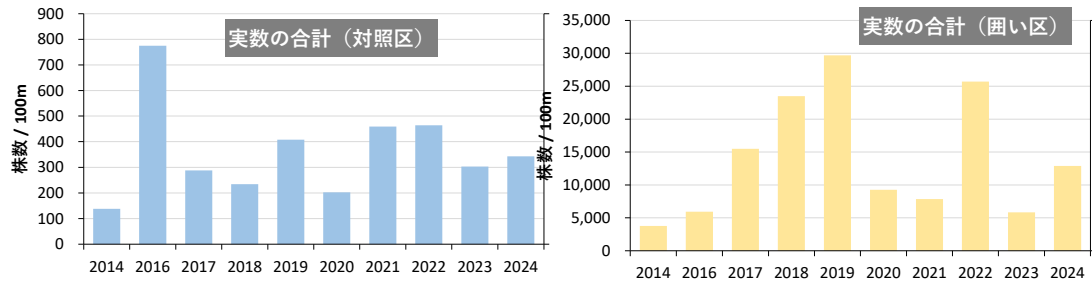


・ 消失型指標種 株数 LPI

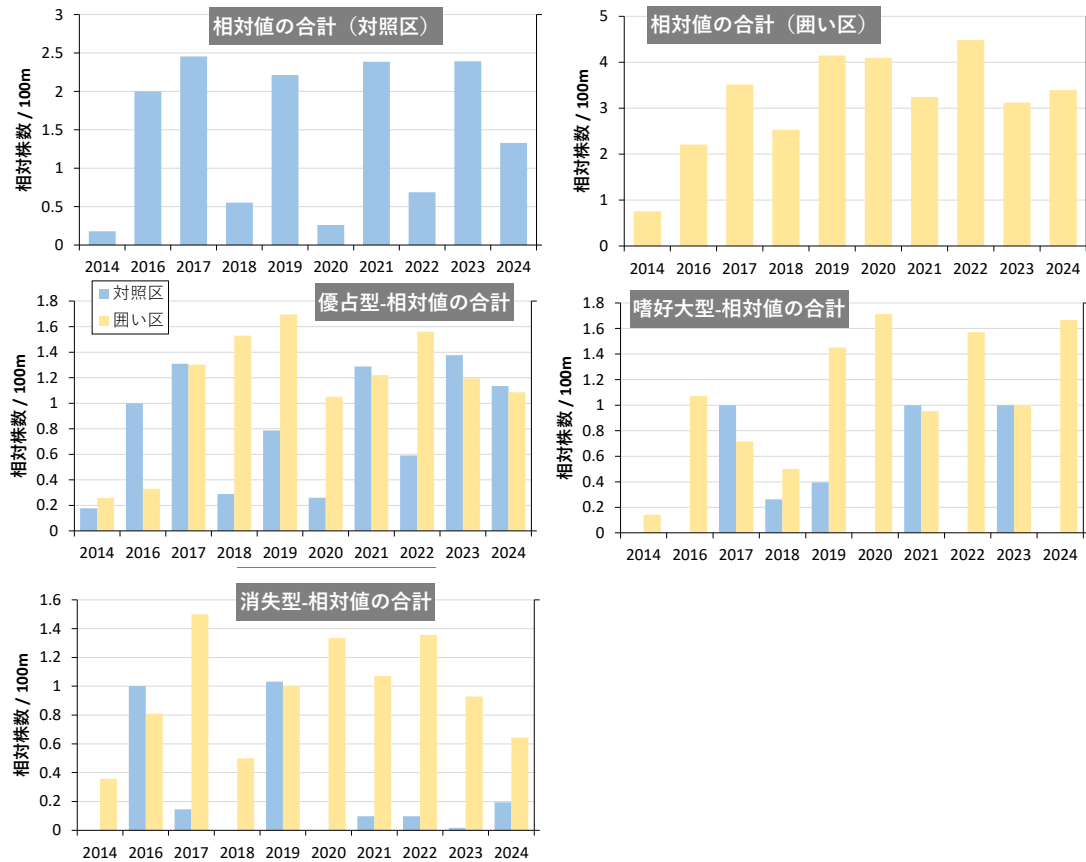


(3) 詳細ライン/森林植生【幌別地区】

・指標種 株数合計(株数/100m)

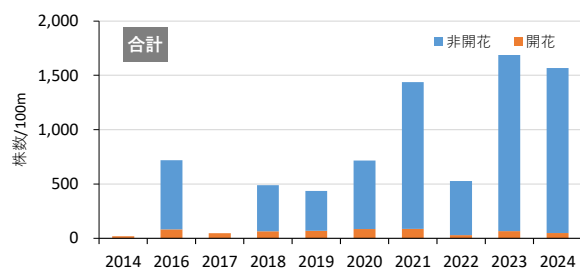


・指標種 株数相対値

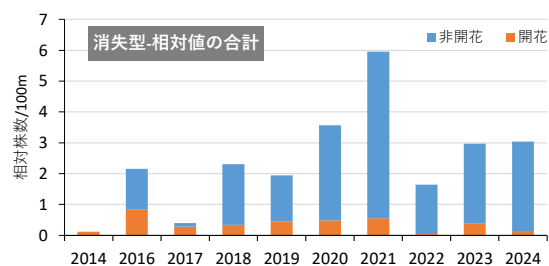
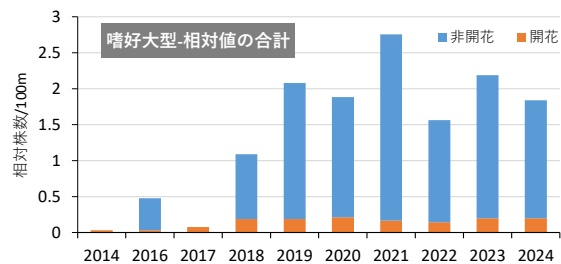
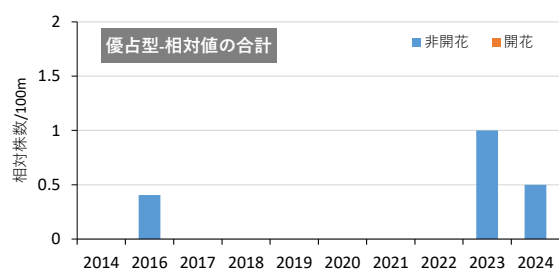
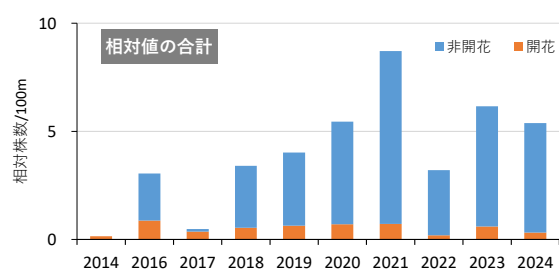


(4) 詳細ライン/草原植生【幌別地区】

・指標種 株数合計(株数/100m)



・指標種 株数相対値

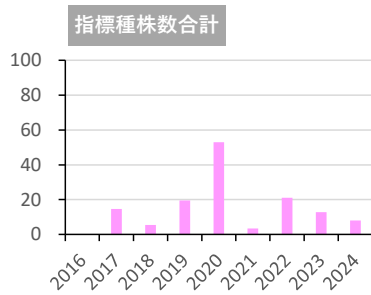


1.3.3 ルサ地区

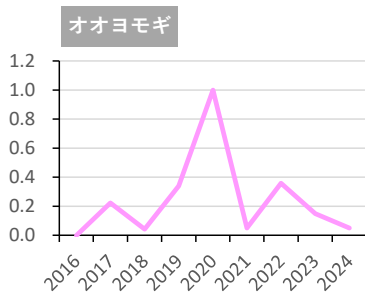
(1) 長距離ライン/草原植生【ルサ地区】

—— 開花

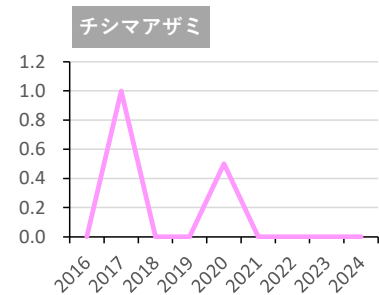
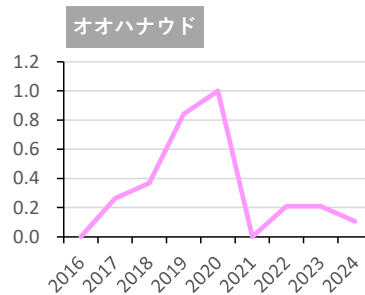
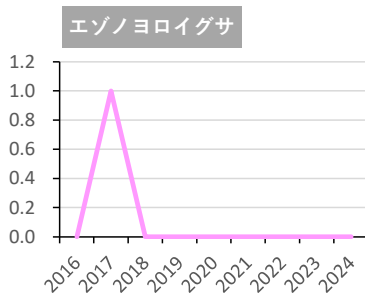
・指標種 株数合計(株数/100m)



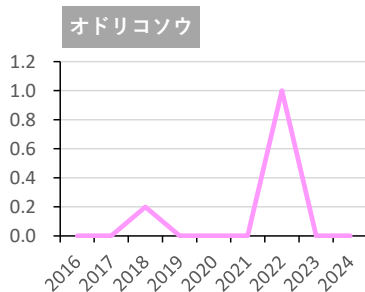
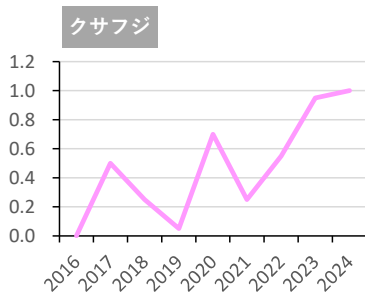
・優占型指標種 株数相対値※ ※各種株数最大値の年を 1 とした相対値



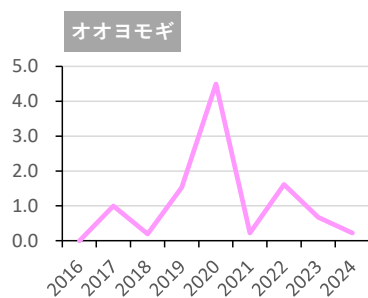
・嗜好大型指標種 株数相対値



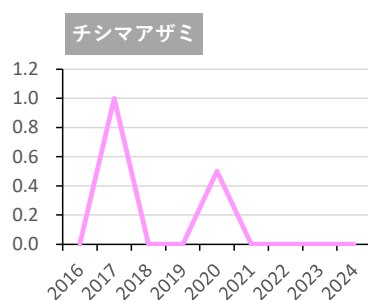
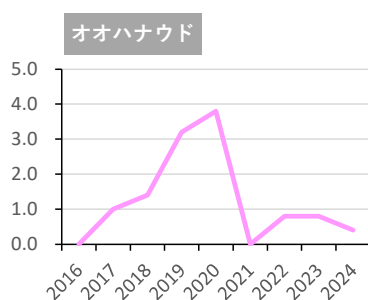
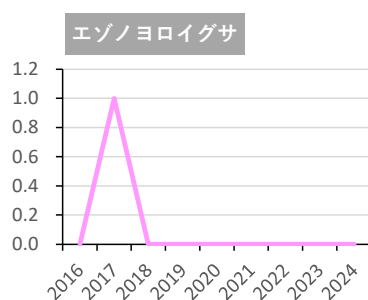
・消失型指標種 株数相対値



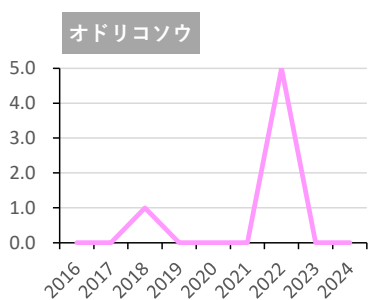
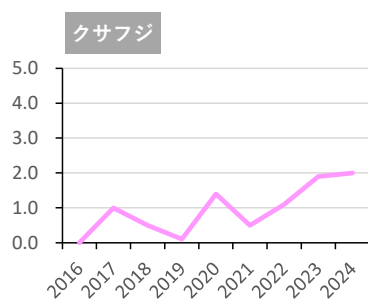
・ 優占型指標種 株数 LPI※ ※各種初確認の年の株数を 1 とした相対値



・ 嗜好大型指標種 株数 LPI



・ 消失型指標種 株数 LPI



2 植生影響調査・植生保護柵を用いた回復過程調査 (V03、06) : 知床岬地区

2.1 調査方法

2024 年度は、知床岬地区に設定された調査区において、夏季(8 月)にこれまでと同じ手法で植生調査を実施し、防鹿柵内外の植生回復について評価を行った。

2.2 調査地

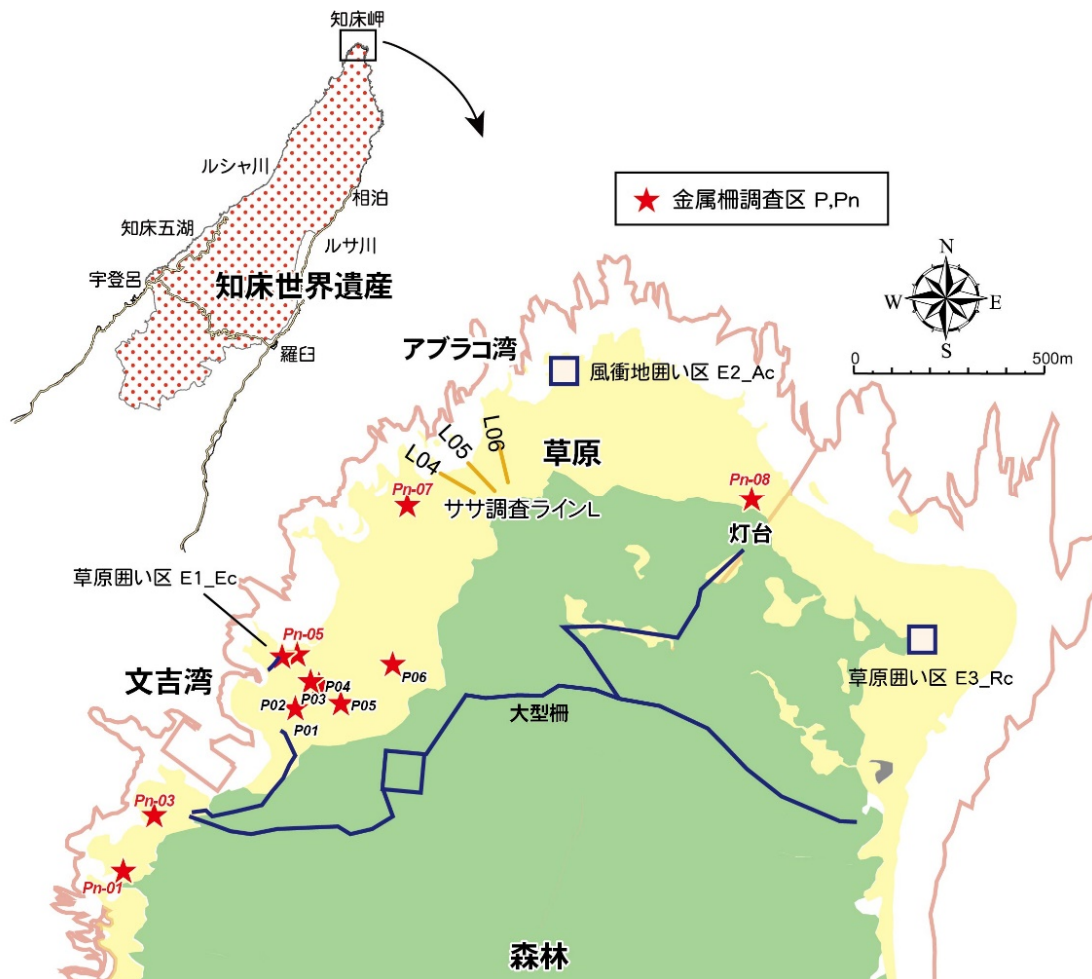


図 2-1 知床岬における防鹿柵を用いた植生回復試験地の位置

2.3 植生回復の評価手法

評価は、群落としてどの程度回復しているかを定量的に示すために、目標とする群落の種組成との非類似度 (Bray-Curtis 指数) を計算した。Bray-Curtis 指数は種組成が同じ場合には 0、全く異なる場合には 1 となることから、便宜的に「非類似度」と呼んだ。目標とする群落としては、これまでの議論を踏まえ、下記の 2 パターンとした。

- ① エゾシカの影響が顕著になる以前の植生データ ※次頁表参照
- ② エゾシカの影響を排除した柵内の植生データ

表 2-1 エゾシカの影響が顕著になる以前の植生(原植生)のリファレンスとした植生データ

地区	本調査地の群落名	過去の文献での群落名と方形区番号	
		館脇(1966)	佐藤(1981)
知床岬	アブラコ湾 ガンコウラン群落	ガンコウラン基群集 1. ii. A	ガンコウラン群落 324、325、328、346、349、353、355
	エオルシ岬 山地高茎草本群落(柵内)	エゾヨモギ基群集 1. iii. A、1. iii. B	—
	羅臼側台地 亜高山高茎草本群落		—
	金属柵外のイネ科草本群落	イワノガリヤス基群集 1. iv. A	—
	金属柵外のササ群落	クマイザサ基群集 1. v. A	—

表 2-2 各調査地の原植生の種組成

アブラコ湾ガンコウラン群落の原植生のリファレンスデータ		エオルシ岬山地高茎草本群落、羅臼側台地亜高山高茎草本群落、金属柵外のイネ科草本群落のリファレンスデータ		金属柵外のイネ科草本群落のリファレンスデータ		金属柵外のササ群落のリファレンスデータ	
種名	平均被度 (%)	種名	平均被度 (%)	種名	平均被度 (%)	種名	平均被度 (%)
ガンコウラン	87.5	オオヨモギ	79.81	イワノガリヤス	87.5	クマイザサ	79.17
シャジクソウ	14.08	チシマアザミ	2.34	アキカラマツ	4.87	ウラボ	14.27
キジムシロ	13.05	ヤマブキショウマ	2.2	アカネムグラ	0.86	イワノガリヤス	0.1
オオウシノケグサ	11.5	ナガバキタアザミ	1.46	エゾヨモギ	0.83	ヤマブドウ	0.07
ハマナス	5.76	アキカラマツ	1.12	オオヤマフスマ	0.81	ツルアジサイ	0.05
スズメノヤリ	4.41	オオイタドリ	0.76	エゾカワラマツバ	0.8	ホザキナナカマド	0.02
エゾオトギリ	2.78	イワノガリヤス	0.65	ツルフジバカマ	0.09	ツルウメモドキ	0.02
マイヅルソウ	1.88	シャク	0.58	シラオイハコベ	0.04		
エゾノカワラマツバ	1.44	エゾイラクサ	0.56	ツルウメモドキ	0.04		
チシマセンブリ	1.44	キオン	0.55	ナガボノシロワレモコウ	0.03		
ネムロシオガマ	1.4	ヨブスマソウ	0.55	チシマアザミ	0.01		
ハマニンニク	1.38	バイケイソウ	0.43	センダイハギ	0.01		
モイワシャジン	1.38	エゾボウフウ	0.25	エゾカンゾウ	0.01		
シコタンヨモギ	0.04	マイヅルソウ	0.23	エゾクサイチゴ	0.01		
ホタルサイコ	0.04	エゾミソガワソウ	0.22	スギナ	0.01		
アイヌタチツボスミレ	0.03	オオカサモチ	0.22	マルバケスミレ	0.01		
アサギリソウ	0.03	ギョウジャニンニク	0.22	コウゾリナ	0.01		
エゾノコギリソウ	0.03	シレトコトリカブト	0.22				
キリンソウ	0.03	ツタウルシ	0.22				
ナミキソウ	0.03	アイヌタチツボスミレ	0.02				
エゾノカワラナデシコ	0.03	イブキトラノオ	0.02				
エゾオオバコ	0.01	オドリコソウ	0.02				
ツリガネニンジン	0.01	チシマフウロ	0.02				
ハマオトコヨモギ	0.01	マルバケスミレ	0.02				
ミヤマスカボ	0.01	マルバトウキ	0.02				
レブンコザクラ	0.01	エゾイタヤ	0.01				
		キンミズヒキ	0.01				
		クサフジ	0.01				
		シコタンザサ	0.01				
		ヤマカモジグサ	0.01				
		ヤマハハコ	0.01				
		レンブクソウ	0.01				

2.4 調査結果

2.4.1 アブラコ湾 ガンコウラン群落

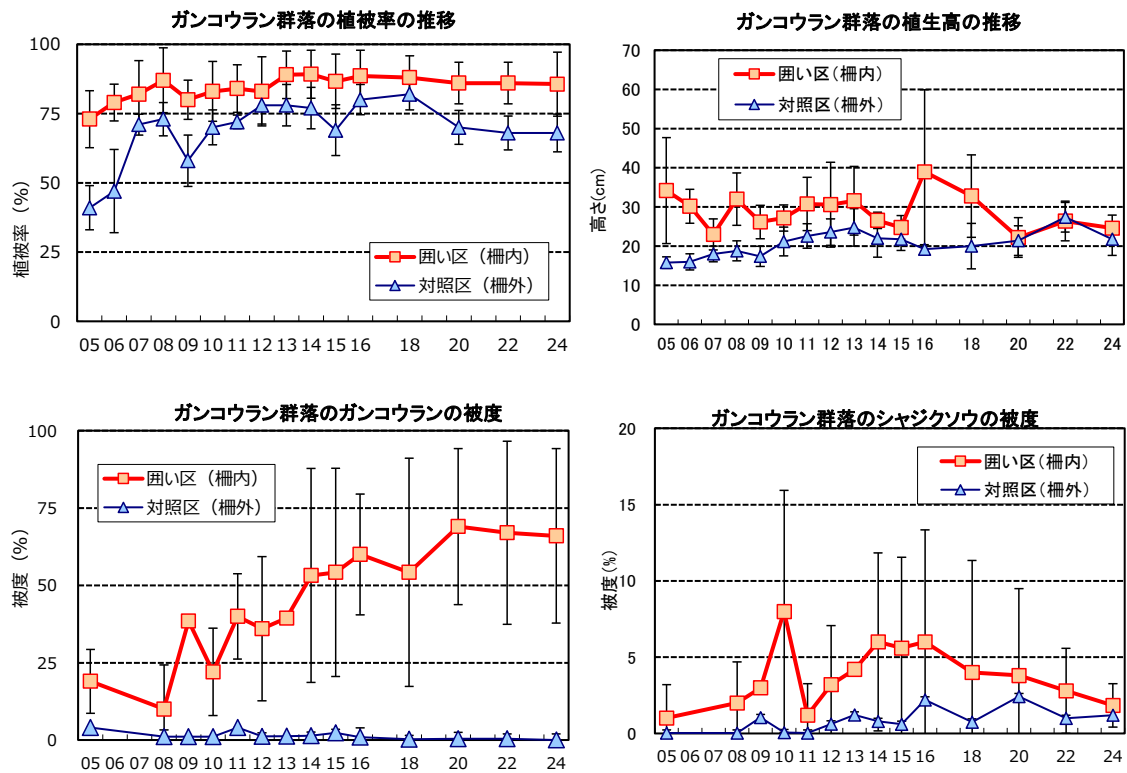


図 2-2 植被率、植生高、主要種の被度の推移

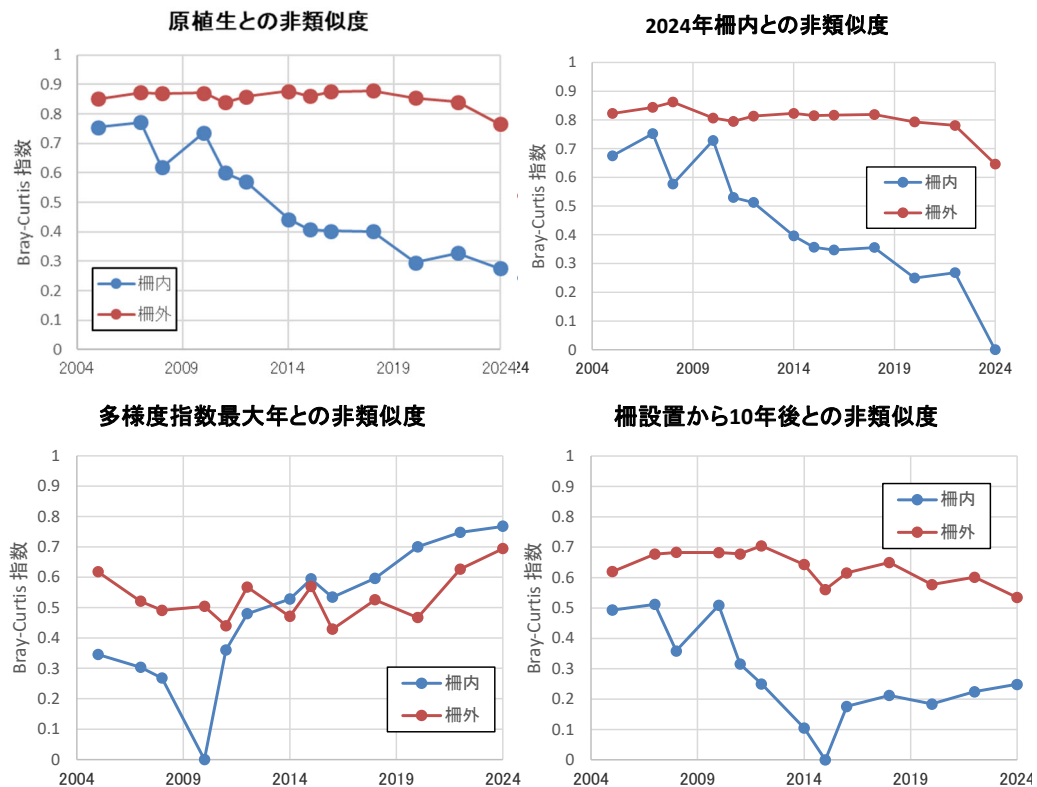


図 2-3 各リファレンスとの非類似度の推移

2.4.2 エオルシ岬 山地高茎草本群落

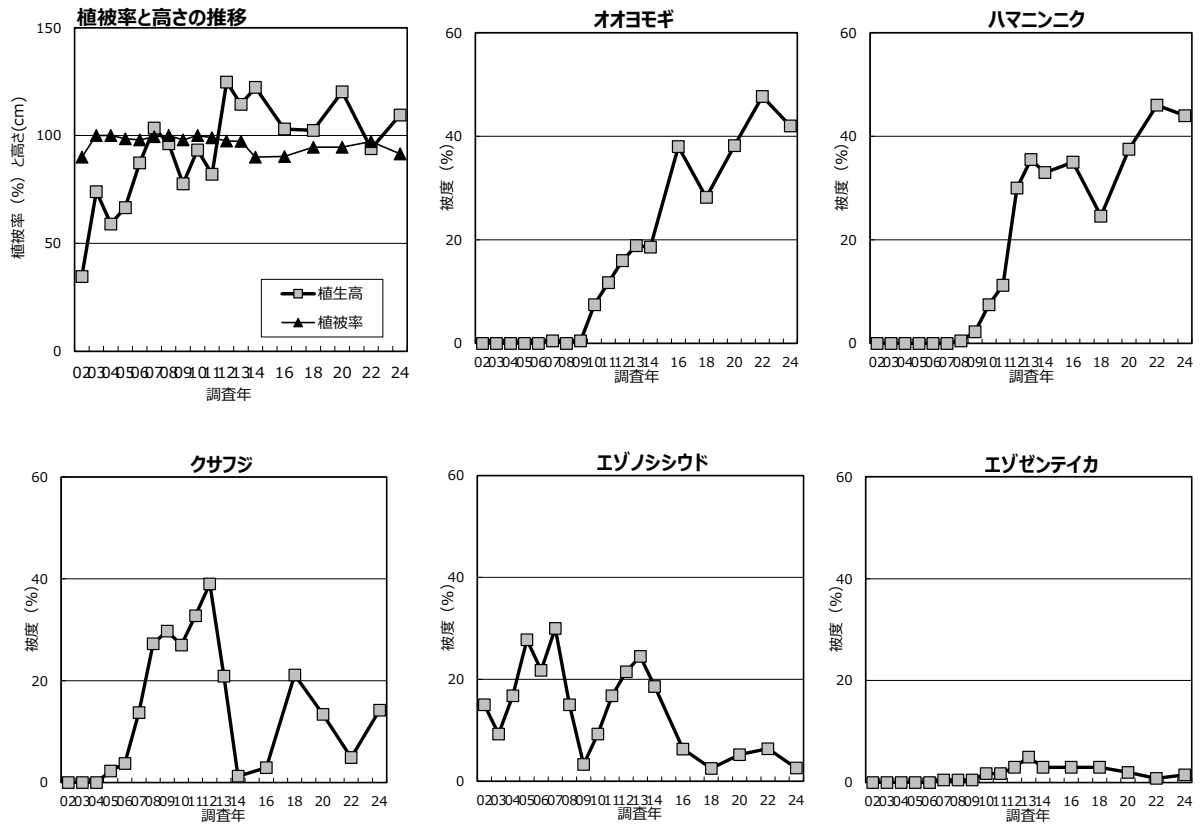


図 2-4 植被率、植生高、主要種の被度の推移

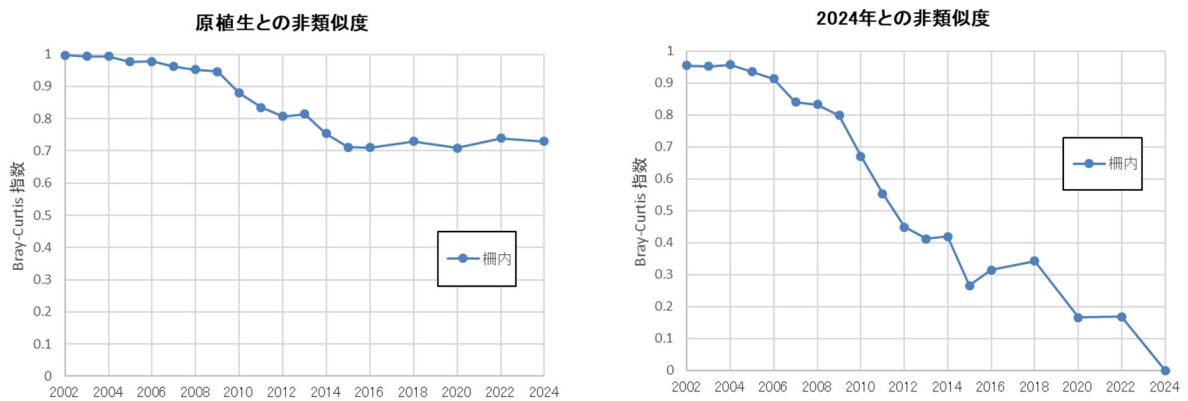


図 2-5 各リファレンスとの非類似度の推移

2.4.3 羅臼側台地 亜高山高茎草本群落

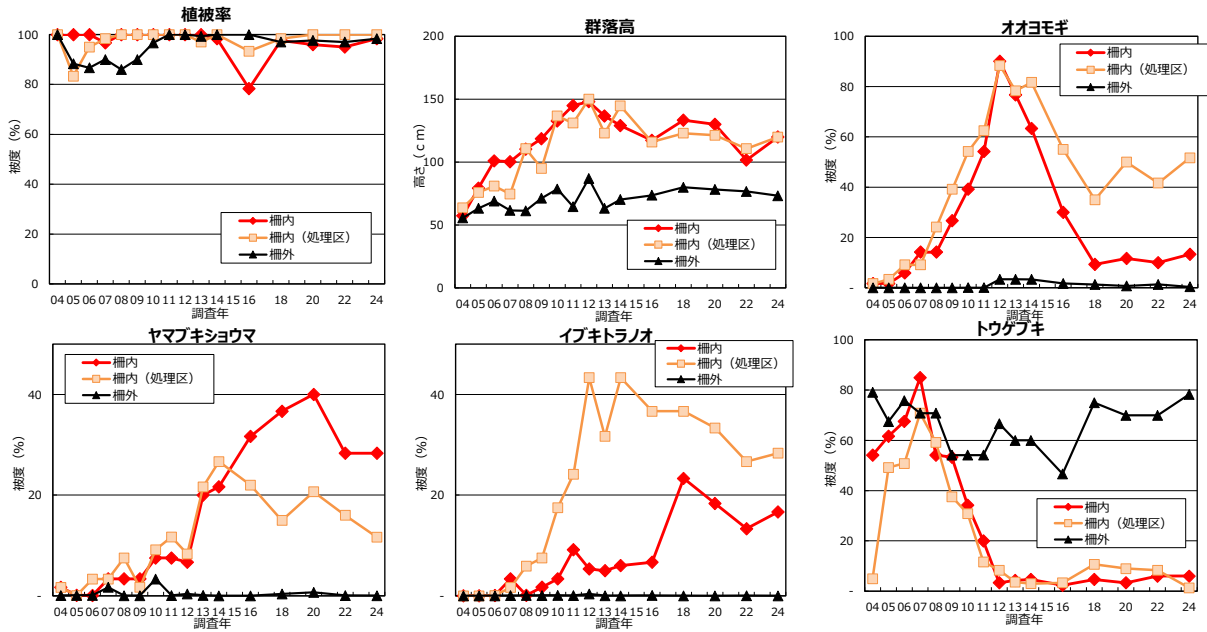


図 2-6 植被率、群落高、主要種の被度の推移

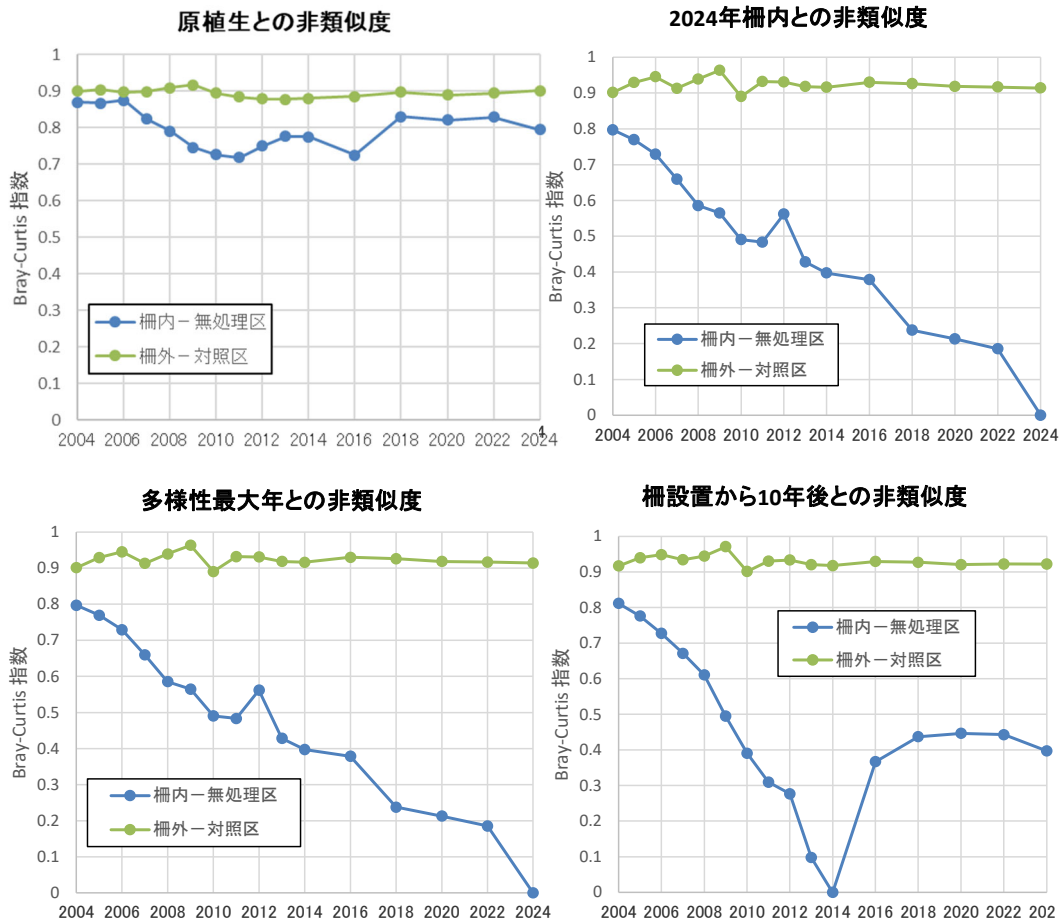


図 2-7 各リファレンスとの非類似度の推移

2. 4. 4 金属柵内外のイネ科草本群落

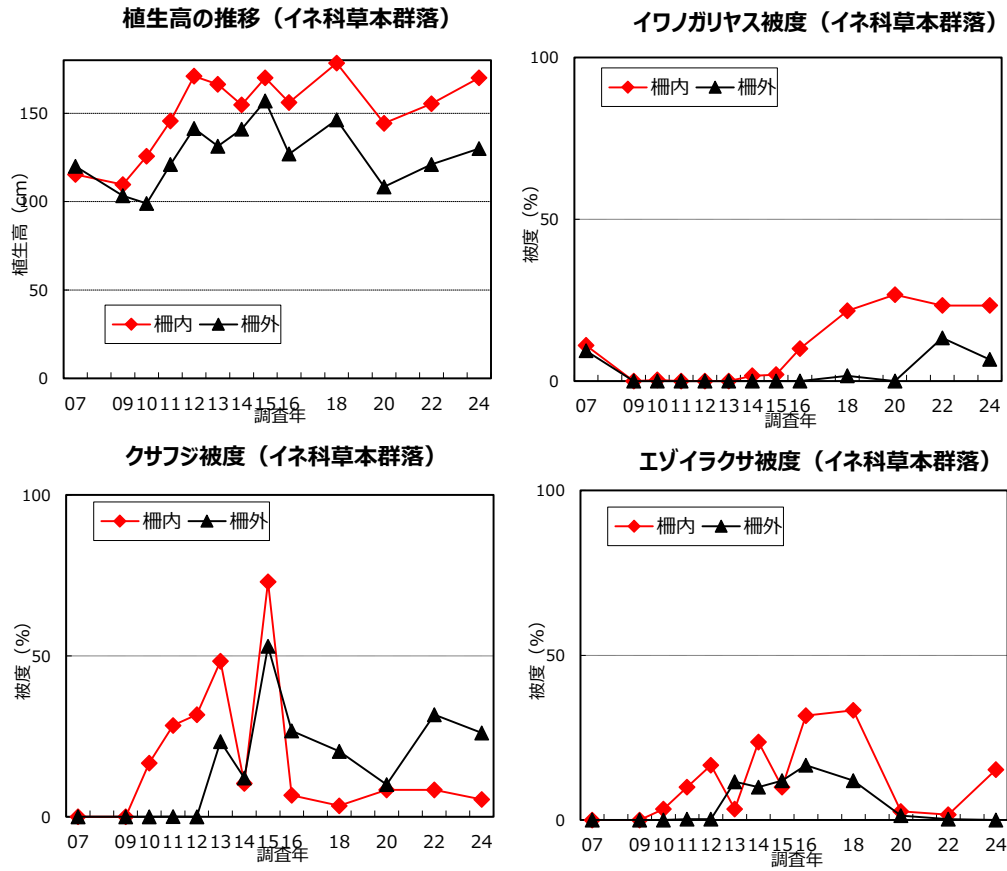


図 2-8 植生高、主要種の被度の推移

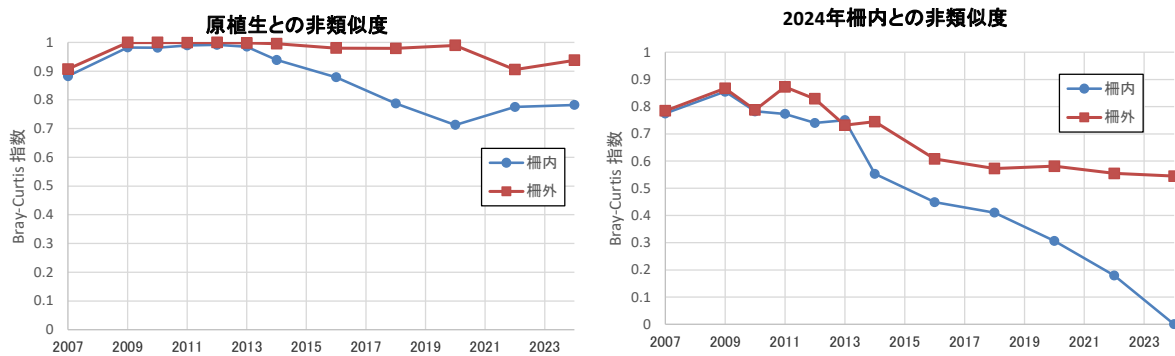


図 2-9 各リファレンスとの非類似度の推移

2.4.5 金属柵内外のクマイザサ群落

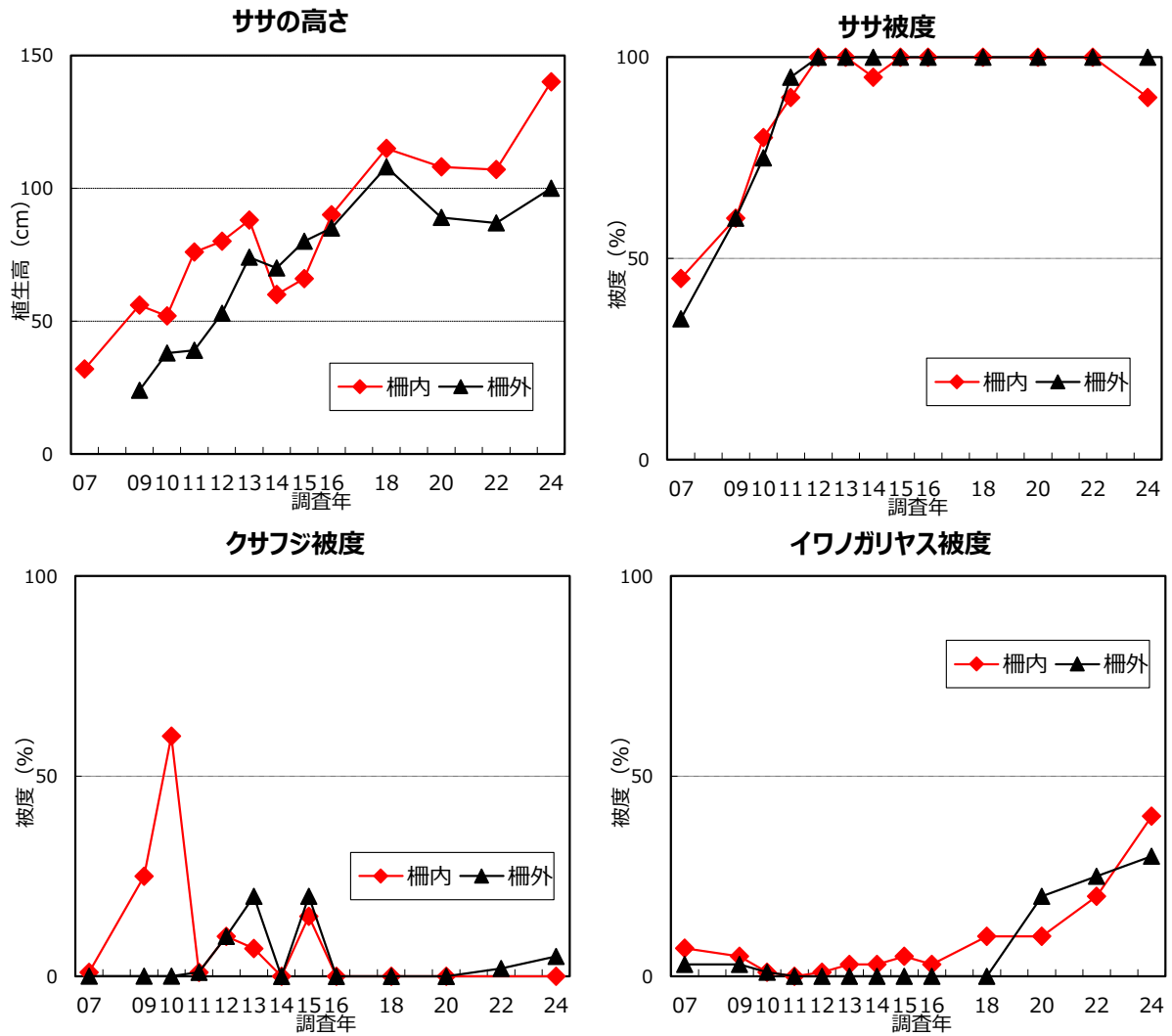


図 2-10 植生高、主要種の被度の推移

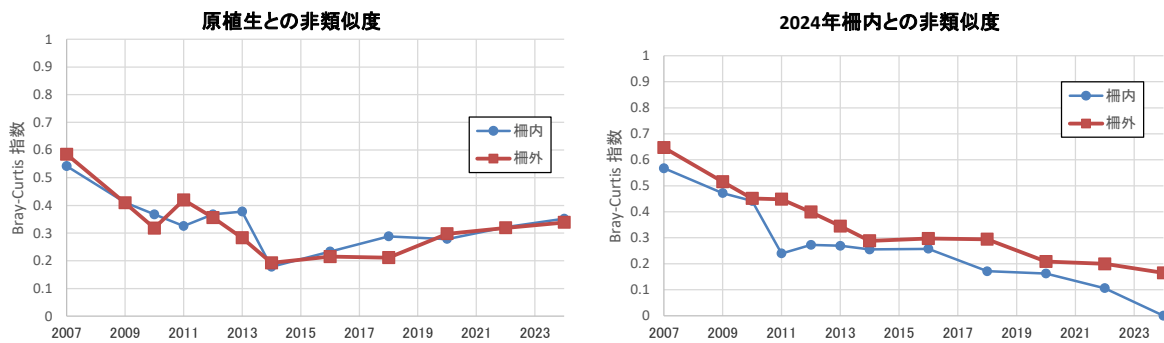


図 2-11 各リファレンスとの非類似度の推移

2.4.6 クマイザサ群落の推移・現存量調査

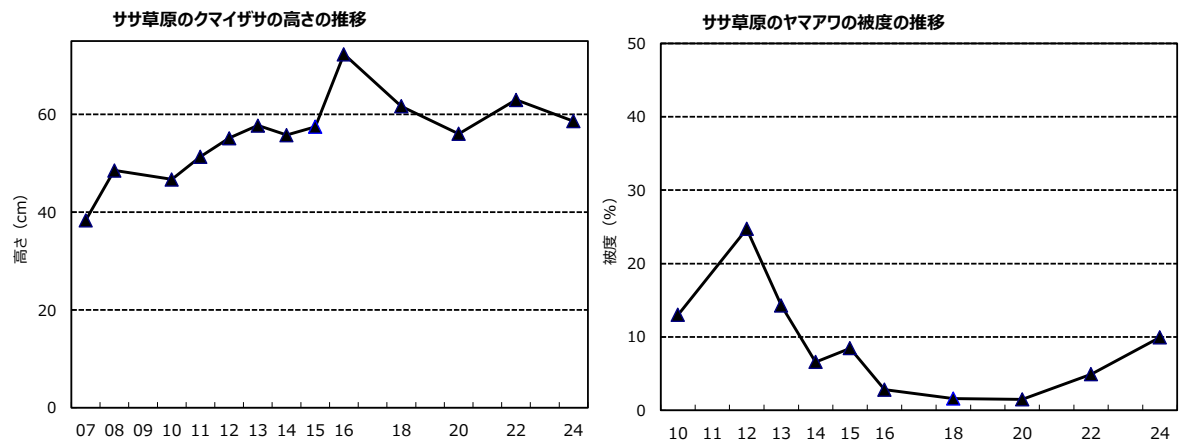


図 2-12 ササ群落のクマイザサの高さの推移

3 植生影響調査(高山植生) (V10) : 羅臼湖周辺地域

3.1 調査方法

知床半島の植物相を特徴づけるものの一つである高山植生を大きく 4 つの地区に分け、各地区 5 年間隔でモニタリングしている。2024 年度は羅臼湖周辺地域における調査を実施し(2010 年、2013 年、2019 年に続く調査)、2019 年までに被度の変化に傾向性が見られた種、乾燥化の指標となるササ類について被度の経年変化を示した。

表 3-1 羅臼湖周辺の調査ライントランセクトと方形区の設置状況

地点	ライン長 (m)	方形区数 (合計)	1m × 1m	2m × 1m	5m × 1m
羅臼湖	162	8	8	0	0
五の沼南岸	17	5	4	1	0
アヤマが原	21	3	2	1	0
三の沼	12	3	2	1	0
一の沼	77	16	14	1	1
計(個)	289	35	30	4	1
合計面積(m ²)		43	30	8	5

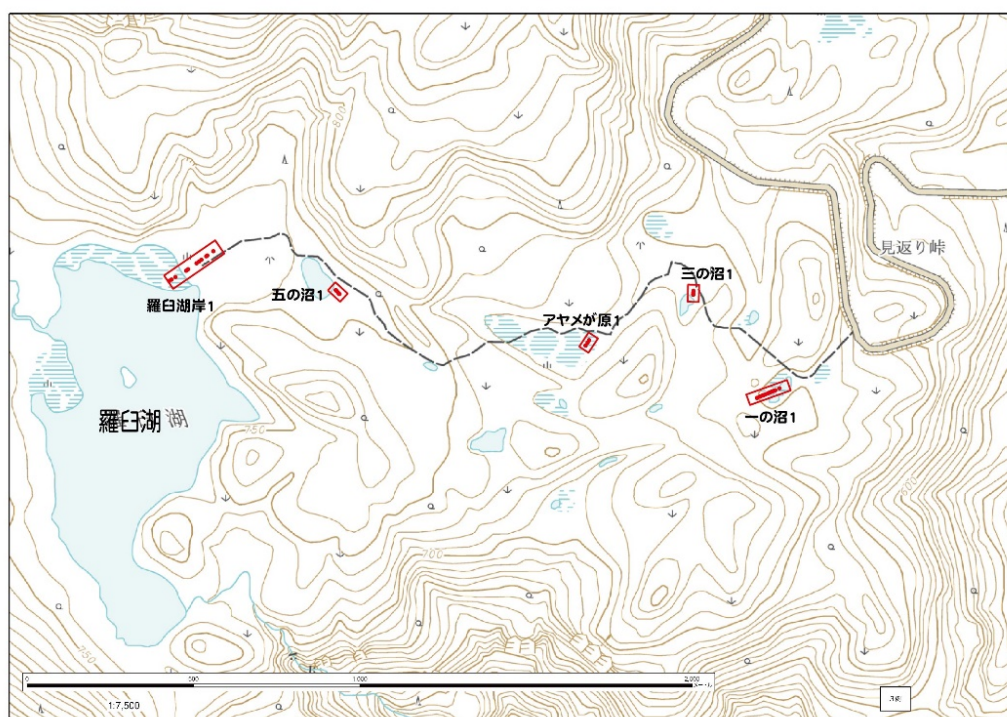


図 3-1 羅臼湖周辺の調査区の位置図

3.2 調査結果

3.2.1 羅臼湖岸

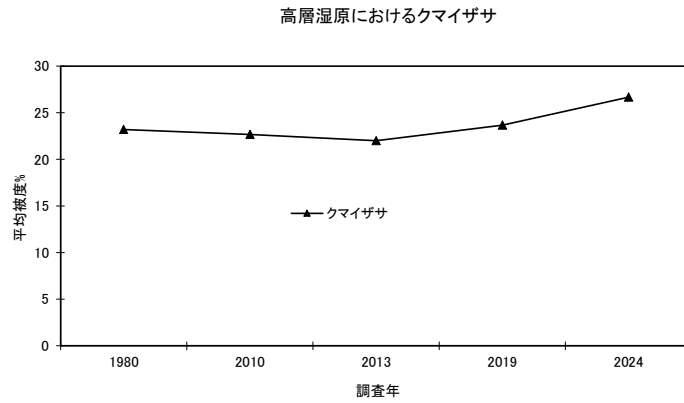


図 3-2 羅臼湖岸の高層湿原におけるクマイザサ被度の推移

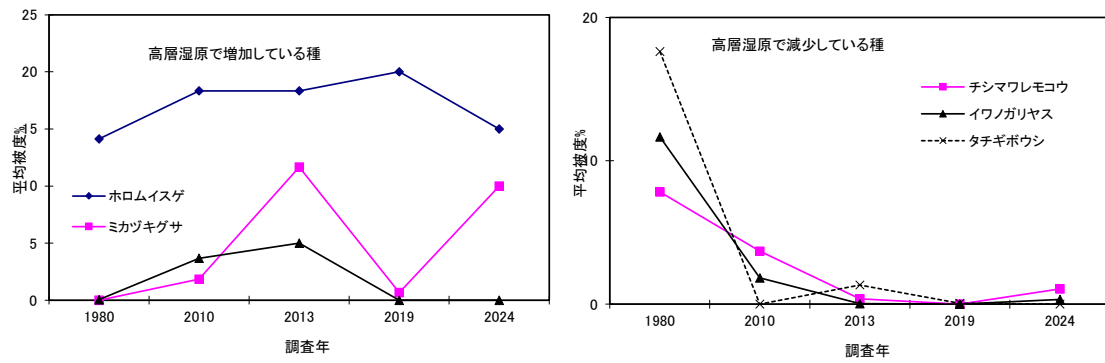


図 3-3 羅臼湖岸の高層湿原で被度の増加減少が認められた種

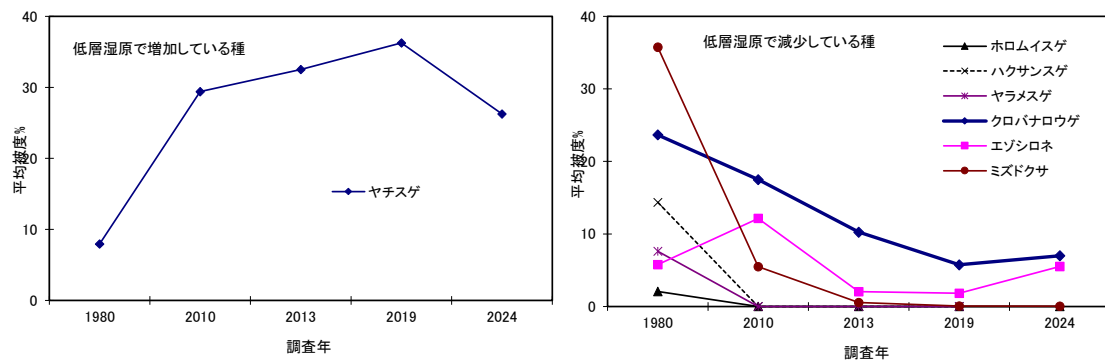


図 3-4 羅臼湖岸の低層湿原で被度の増加減少が認められた種

3.2.2 五の沼南岸

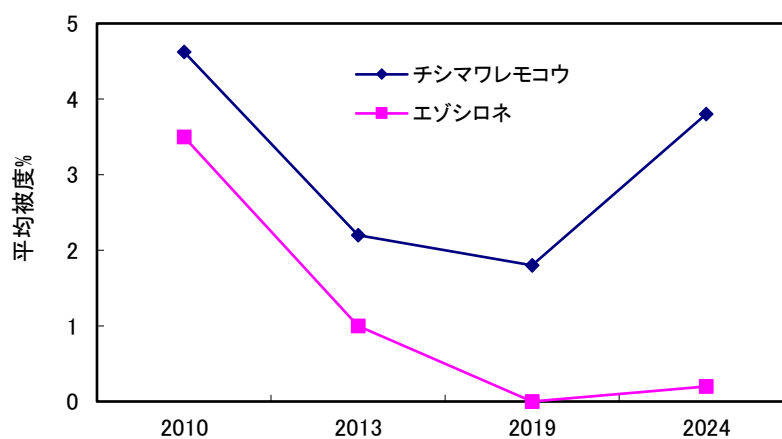


図 3-5 五の沼南岸で被度の減少が認められた種

3.2.3 アヤメが原

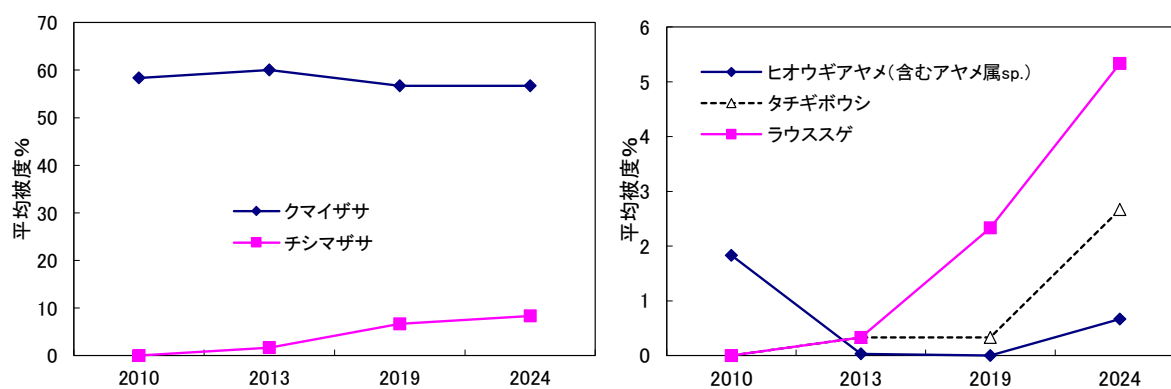


図 3-6 アヤメが原におけるササ類の被度(左)とシカ嗜好性植物等の平均被度(右)の推移

3.2.4 三の沼

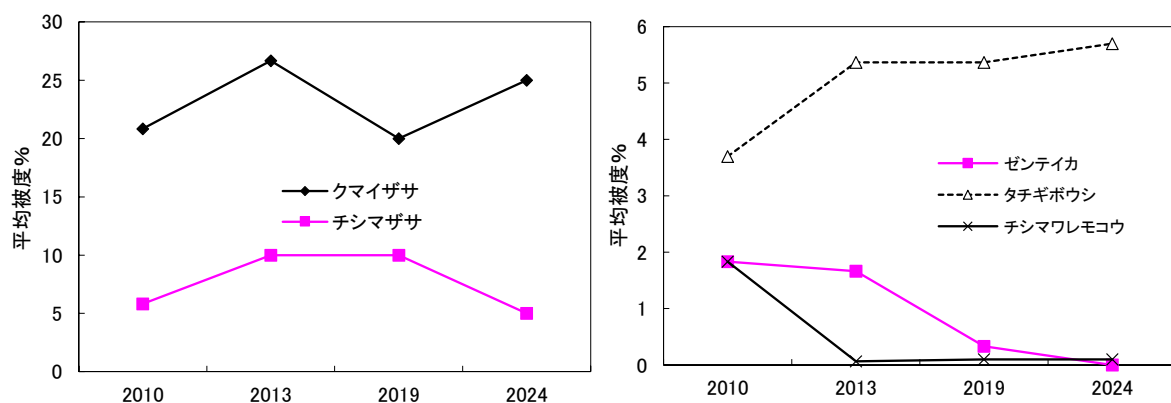


図 3-7 三の沼におけるササ類の被度の推移（左）とシカの嗜好性植物等の被度の推移（右）

3.2.5 一の沼

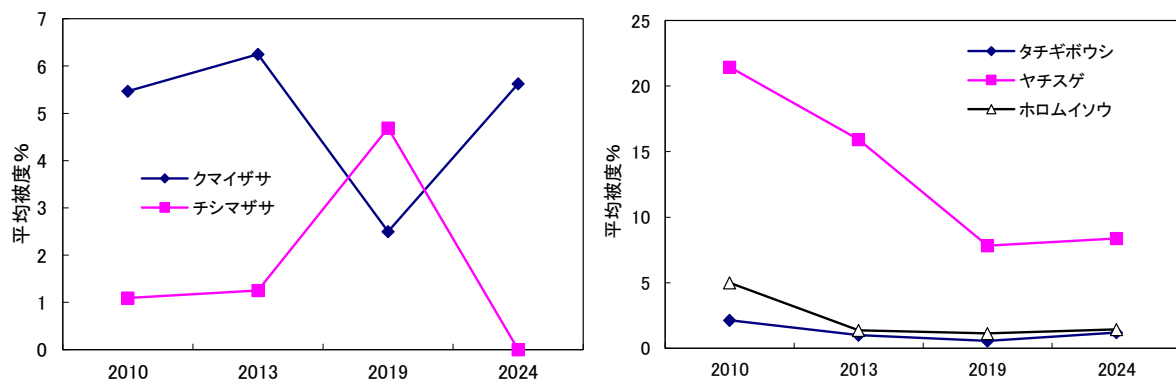


図 3-8 一の沼におけるササ類の被度(左)とシカ嗜好性植物等の被度(右)の推移

4. 陸上無脊椎動物(主に昆虫類)の生息状況調査 (B01)

4.1 地表性甲虫の生育状況調査

4.1.1 調査方法

高密度状態にあるエゾシカにより遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないことを把握し評価するため、昆虫類を対象にインベントリ調査を行った。

調査手法：ピットフォールトラップ法による調査。捕獲回収した個体については、種名、個体数などを記録した。

調査時期：夏期（8 月）

表 4-1 対象調査区

町域	地名	対象調査区 (植生調査区呼称)	植生環境	エゾシカ 利用状況
斜里町域	幌別	3 区 (S06-1, 3、E-Ho)	森林	高
		1 区 (E-Hc (囲い区柵内))	森林	なし
	真鯉	2 区 (S10-1～2)	森林	低
羅臼町域	ルサ	3 区 (R12-2, R13-1～2)	森林	高
	陸志別	3 区 (R21-1～3)	森林	低



図 4-1 対象調査区位置概略図

4.1.3 調査結果

表 4-2 捕獲した地表性昆虫リスト

科名	亜科名	種名	生息環境	学名	2012年	2019年	2024年
オサムシ科	オサムシ亜科	ヒメクロオサムシ	森林	<i>Carabus opaculus kurosawai</i>	1051	250	228
オサムシ科	オサムシ亜科	セダカオサムシ	森林	<i>Cychrus morawitzi</i>	158	44	20
オサムシ科	オサムシ亜科	オクエゾクロナガオサムシ	森林	<i>Carabus arboreus pararboreus</i>	143	41	105
オサムシ科	オサムシ亜科	コブスジアカガネオサムシ	森林	<i>Carabus conciliator hokkaidensis</i>	27	12	174
オサムシ科	オサムシ亜科	エゾアカガネオサムシ	森林	<i>Carabus granulatus yezoensis</i>	4		117
オサムシ科	オサムシ亜科	エゾマイマイカブリ	森林	<i>Carabus blaptoides rugipennis</i>	24	1	15
オサムシ科	オサムシ亜科	セアカオサムシ	草地	<i>Carabus tuberculatus</i>	1	6	18
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	コクロツヤヒラタゴミシ	森林	<i>Synuchus melantho</i>	1580	253	318
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	ツンベルグナガゴミシ	森林	<i>Pterostichus thunbergi</i>	500	175	819
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	エゾマルガタナガゴミシ	森林	<i>Pterostichus adstrictus</i>	279	78	176
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	オオクロツヤヒラタゴミシ	森林	<i>Synuchus nitidus</i>	184	11	162
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	アトマルナガゴミシ	森林	<i>Pterostichus orientalis jessoensis</i>	67	30	53
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	マルガタナガゴミシ	草地	<i>Pterostichus subovatus</i>	51	40	202
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	マルガタツヤヒラタゴミシ	森林	<i>Synuchus arcuaticollis</i>	22	5	5
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	クロツヤヒラタゴミシ	森林	<i>Synuchus cycloderus</i>		1	
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	コガシラナガゴミシ	草地	<i>Pterostichus microcephalus</i>	27	32	32
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	クロオオナガゴミシ	湿地	<i>Pterostichus prolongatus</i>	16	4	14
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	ヒメクロツヤヒラタゴミシ	森林	<i>Synuchus congruus</i>	7		
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	ウエノツヤヒラタゴミシ	森林	<i>Synuchus uenoi</i>	33		
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	エゾホソナガゴミシ	森林	<i>Pterostichus nigrita</i>		1	
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	オオキンナガゴミシ	草地	<i>Pterostichus samurai</i>	6		
オサムシ科	アオゴミシ亜科	アオゴミシ	草地	<i>Chlaenius pallipes</i>	12		29
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	セボシヒラタゴミシ	草地	<i>Agonum impressum</i>			1
オサムシ科	ナガゴミシ亜科	エゾヒメヒラタゴミシ	草地	<i>Agonum yezoanum</i>			1
オサムシ科	ミズギワゴミシ亜科	メダカチビカワゴミシ	湿地	<i>Asaphidion semilucidum</i>		2	
オサムシ科	ミズギワゴミシ亜科	ヨツボシミズギワゴミシ	湿地	<i>Bembidion morawitzi</i>		2	
オサムシ科	マルクビゴミシ亜科	キノカワゴミシ	森林	<i>Leistus niger alecto</i>	33	10	1
オサムシ科	マルクビゴミシ亜科	シレットコマルクビゴミシ	森林	<i>Nebria shibanaai shiretokoana</i>	1		
オサムシ科	ゴモクシ亜科	アイヌゴモクシ	森林	<i>Harpalus quadripunctatus ainus</i>	10	3	9
オサムシ科	ゴモクシ亜科	ケゴモクシ	草地	<i>Harpalus vicarius</i>	2	1	4
オサムシ科	ゴモクシ亜科	クビアカツヤゴモクシ	草地	<i>Trichotichnus longitarsis</i>	1	1	
オサムシ科	アトキリゴミシ亜科	オコックアトキリゴミシ	草地	<i>Cymindis vaporariorum immaculatus</i>	1	20	1
オサムシ科	チビゴミシ亜科	ヒラタキイロチビゴミシ	草地	<i>Trechus (Ephaphius) ephippiatus</i>	7	2	
シデムシ科	シデムシ亜科	ヒラタシデムシ	森林	<i>Silpha perforata venatoria</i>	217	143	887
シデムシ科	シデムシ亜科	クロヒラタシデムシ	森林	<i>Phosphuga atrata</i>	4	1	2
シデムシ科	シデムシ亜科	ヨツボシモンシデムシ	森林	<i>Nicrophorus quadripunctatus</i>	23		22
シデムシ科	シデムシ亜科	ヒメクロシデムシ	森林	<i>Nicrophorus tenuipes</i>	20	21	49
シデムシ科	シデムシ亜科	ツノグロモンシデムシ	森林	<i>Nicrophorus vespilloides</i>		1	163
センチコガネ科		センチコガネ	森林	<i>Geotrupes laevistriatus</i>	191	121	245
センチコガネ科		オオセンチコガネ	森林	<i>Geotrupes auratus</i>	1		3
合計個体数					4703	1312	3875
種数					33	30	30

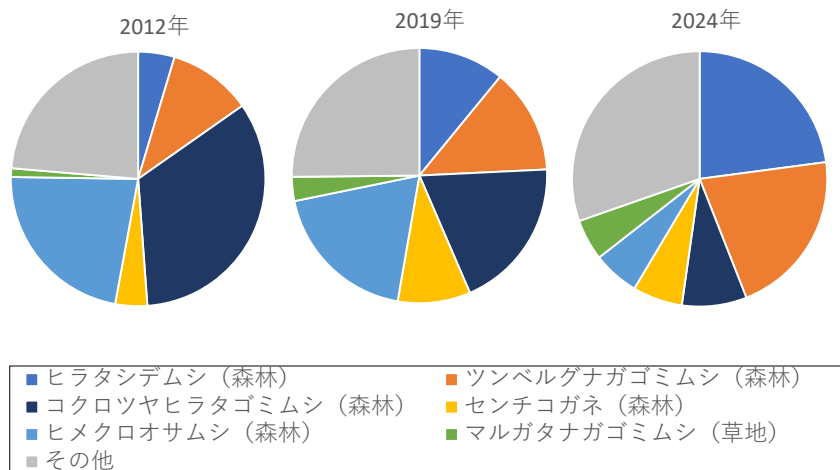


図 4-2 捕獲した地表性昆虫の主要種の個体数内訳の推移

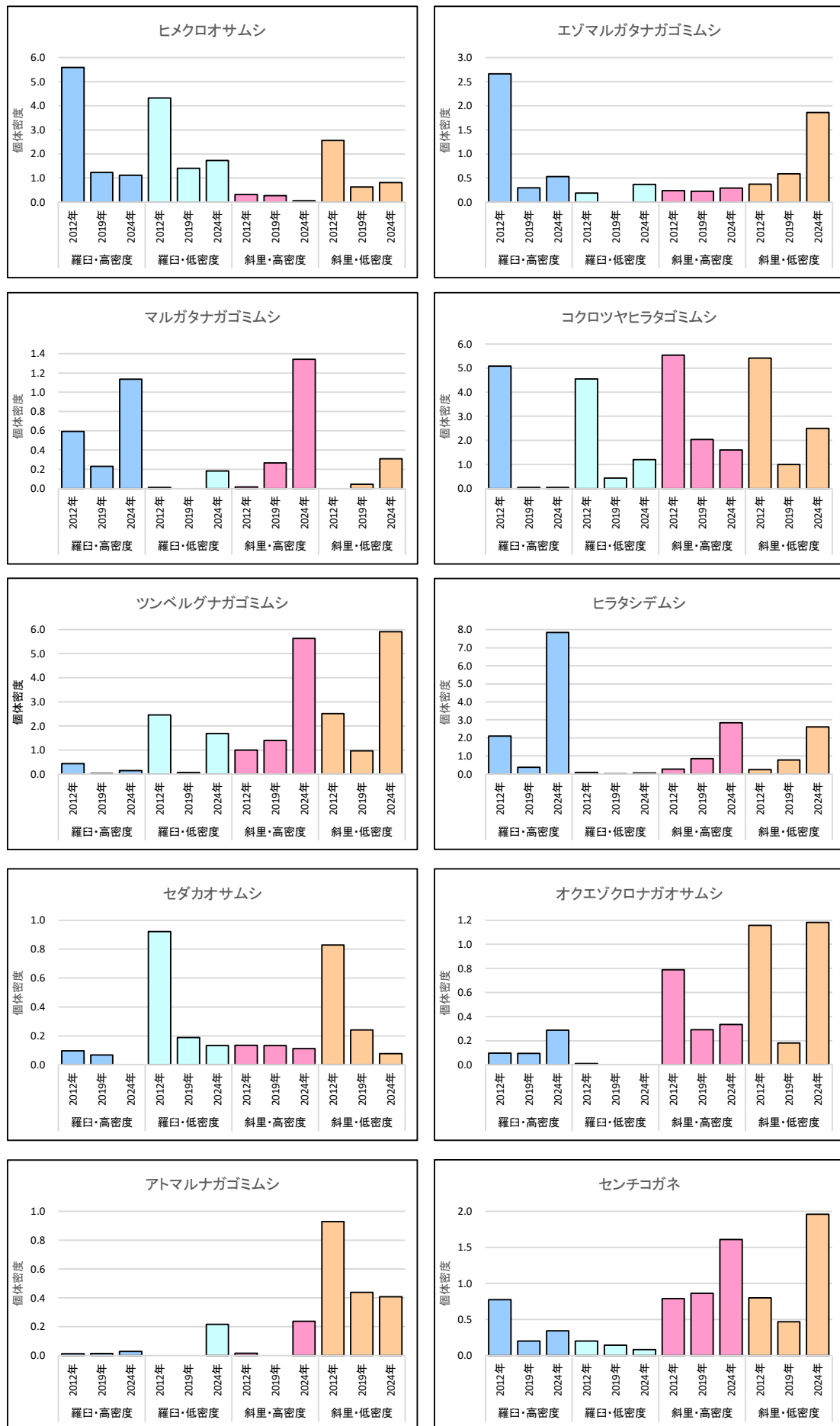


図 4-3 地域・エゾシカ密度別の年度別個体密度比較（優占種）

4.2 訪花性昆虫の生息状況調査

4.2.1 調査方法

スポットセンサス法による調査。原則、捕獲採集は行わず目視確認により虫種を同定したが、一部は捕虫網で捕獲し同定後に放逐した。また、訪花対象植物種も併せて記録した。

表 4-3 対象調査地

町域	地名	対象調査地 (標高目安)	植生環境	エゾシカ 利用状況
知床岬地区	—	8 地点 (80m) 3 地点 (25~40m)	草原 森林	高/なし 高
斜里町域	フレペの滝遊歩道 オロンコ岩遊歩道 幌別森づくりの小道 金山林道	1 地点 (110m) 1 地点 (50m) 1 地点 (190m) 1 地点 (160m)	草原 草原 森林 森林	高 なし 高 低
羅臼町域	道道沿線 (ルサ、相泊) 道道沿 線 (瀬石) 春茹古丹林道	2 地点 (7~10m) 1 地点 (10m) 1 地点 (30m)	草原 草原 森林	高 低 低

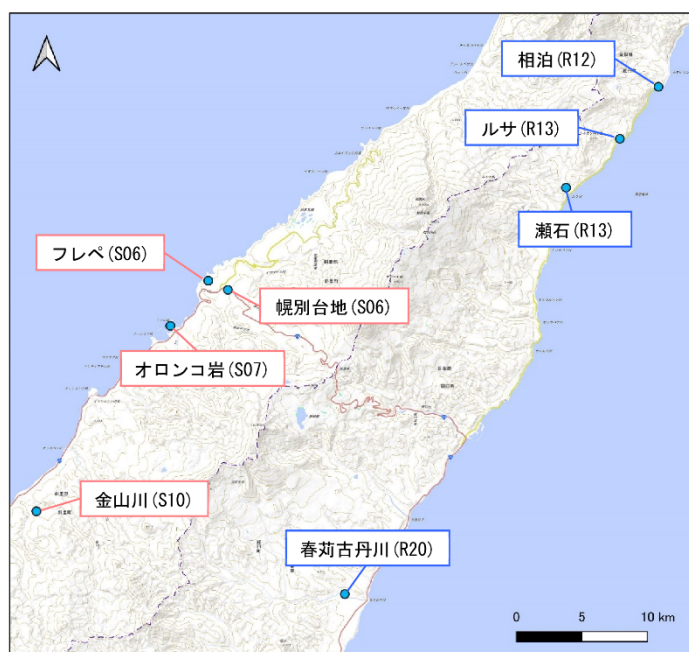
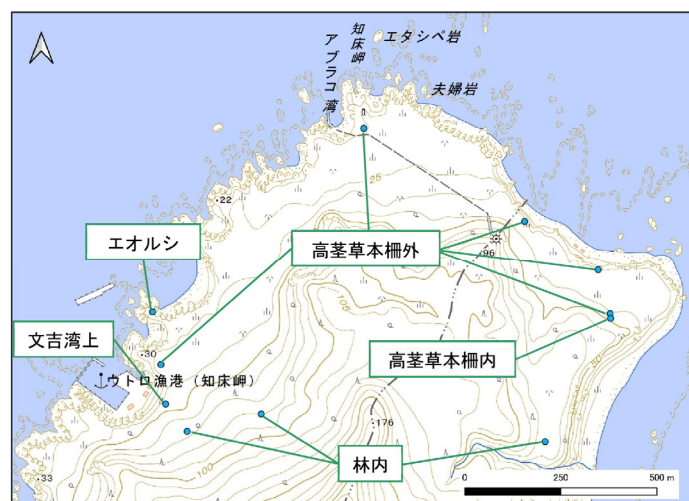


図 4-4 訪花昆虫生息状況調査地点

4.2.2 調査結果

表 4-4 確認されたマルハナバチ類

亜属	種名	2024 年	2019 年	2012 年	中舌長の タイプ	営巣期間	備考
ナガマルハナバチ亜属	エゾナガマルハナバチ	●	●	●	長舌	長期(初夏-秋)	高山性
トラマルハナバチ亜属	エゾトラマルハナバチ	●		●	長舌	長期(初夏-秋)	
ユーラシாமルハナバチ亜属	シュレンクマルハナバチ		●		中舌	長期(初夏-秋)	
コマルハナバチ亜属	アカマルハナバチ		●	●	中舌	短期(早春-初夏)	
コマルハナバチ亜属	エゾヒメマルハナバチ	●	●	●	中舌	短期(早春-初夏)または長期(早春-秋)	高山性
オオマルハナバチ亜属	エゾオオマルハナバチ	●	●	●	短舌	長期(早春-秋)	
オオマルハナバチ亜属	セイヨウオオマルハナバチ	●	●	●	短舌	長期(早春-秋)	

表 4-5 確認されたチョウ類

科名	種名	2024 年	2019 年	2012 年	食草	シカの影響
セセリチョウ科	コキマダラセセリ	●	●	●	ススキ、イワノガリヤス、スゲ類	大きい
セセリチョウ科	オオチャバネセセリ	●	●	●	クマイザサ	
セセリチョウ科	キバネセセリ	●	●	●	ハリギリ	小さい
アゲハチョウ科	キアゲハ	●		●	セリ科草本	大きい
アゲハチョウ科	ミヤマカラスアゲハ	●			キハダ	大きい
シロチョウ科	モンキチョウ	●	●		マメ科	大きい
シロチョウ科	モンシロチョウ	●			アブラナ科 (主にコンロンソウ)	大きい
シロチョウ科	エゾスジグロシロチョウ	●	●	●	アブラナ科 (主にコンロンソウ)	大きい
シジミチョウ科	ゴマシジミ		●		ナガボノシロワレモコウ	大きい
タテハチョウ科	サカハチチョウ			●	イラクサ類	大きい
タテハチョウ科	アカタテハ			●	イラクサ類	大きい
タテハチョウ科	ヒメアカタテハ		●		キク科	大きい
タテハチョウ科	クジャクチョウ			●	イラクサ類	大きい
タテハチョウ科	イチモンジチョウ			●	スイカズラ科	小さい
タテハチョウ科	ウラギンヒョウモン	●	●	●	スミレ類	大きい
タテハチョウ科	オオウラギンスジヒョウモン			●	スミレ類	大きい
タテハチョウ科	ミドリヒョウモン	●	●	●	スミレ類	大きい
タテハチョウ科	メスグロヒョウモン		●		スミレ類	大きい
タテハチョウ科	ヒメキマダラヒカゲ		●	●	チシマザサ・クマイザサ	
タテハチョウ科	ジャノメチョウ	●※	●	●	イネ科・カヤツリグサ科	小さい?
種 数		11	12	14		

※調査時間外に確認

表 4-6 訪花昆虫の地区別確認個体数

地区	マルハナバチ					
	エゾナガ	エゾトラ	エゾヒメ	エゾオオ	セイヨウ	不明
知床岬	1	0	1	9	3	0
ウトロ	0	1	1	1	0	0
羅臼	2	0	0	1	0	2

地区	チョウ				
	タテハチョウ科	シロチョウ科	セセリチョウ科	アゲハチョウ科	その他
知床岬	26	18	0	9	0
ウトロ	4	3	1	1	1
羅臼	8	15	4	1	1

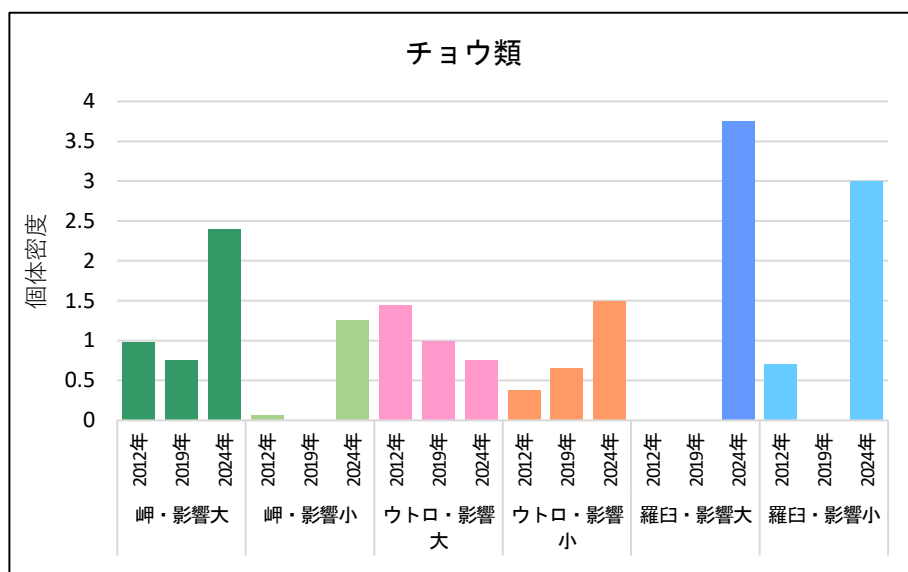
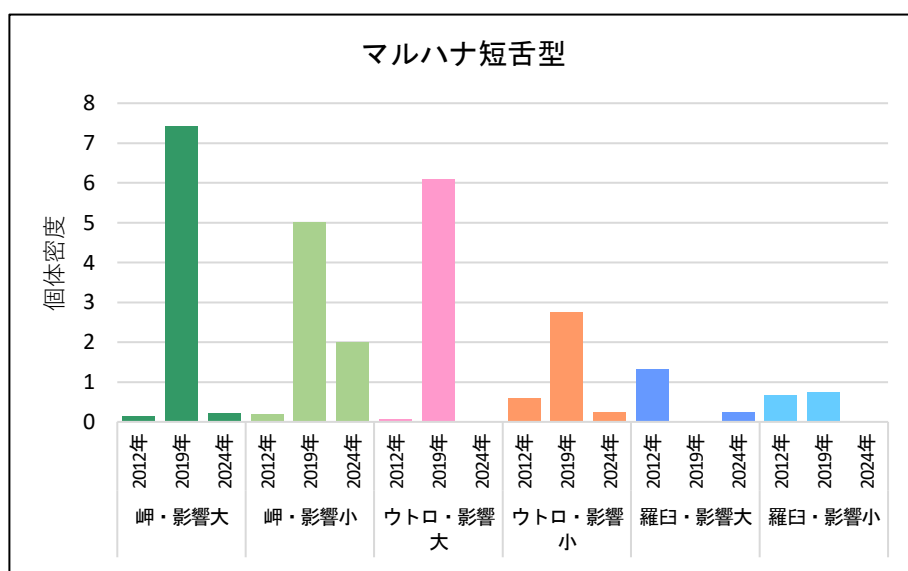
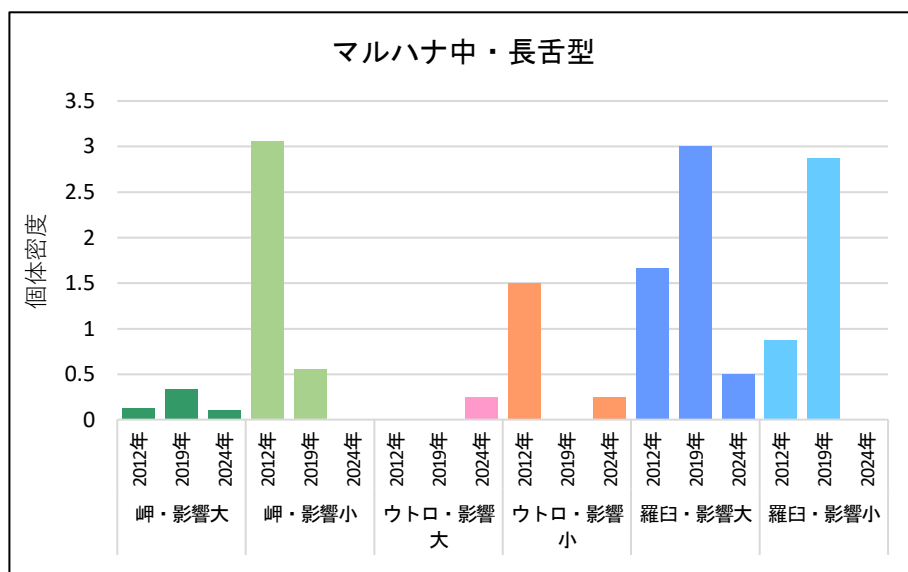


図 4-4 地区別・エゾシカ密度別の訪花昆虫の個体密度

5 陸生鳥類生息状況調査 (B02)

5.1 調査方法

高密度状態にあるエゾシカにより遺産地域の生態系への過度な影響が発生していないことを把握し評価するため、鳥類を対象にインベントリ調査を行った(6月下旬繁殖期)。

ラインセンサス法による調査。調査ルート上の片側 25m、幅計 50m の带状区内で確認した鳥種、個体数などを記録。加えてレコーダによる音声記録によりデータを補足した。

表 5-1 対象調査ルート

地区名	ルート名	区間	距離目安	植生環境
知床岬地区	MG1-1	文吉湾～植生変化点	724m	草原
	MG1-2	植生変化点～アブラコ湾	605m	草原
	MG1-3	アブラコ湾～灯台下	504m	草原
	MF1-1	文吉湾～1ha 柵	581m	森林
	MF1-2	1ha 柵～仕切柵分岐	791m	森林
	MF1-3	仕切柵分岐～灯台	496m	森林
幌別地区	HG1	フレペの滝散策路	925m	草原
	HF1	歩道入口～知床自然センター前	1,627m	森林
	HF2	町道沿い	1,141m	森林
岩尾別地区	HF3-1	道道直線区間 (至知床五湖)	1,504m	森林
	HF3-2	道道分岐～知床五湖	375m	森林

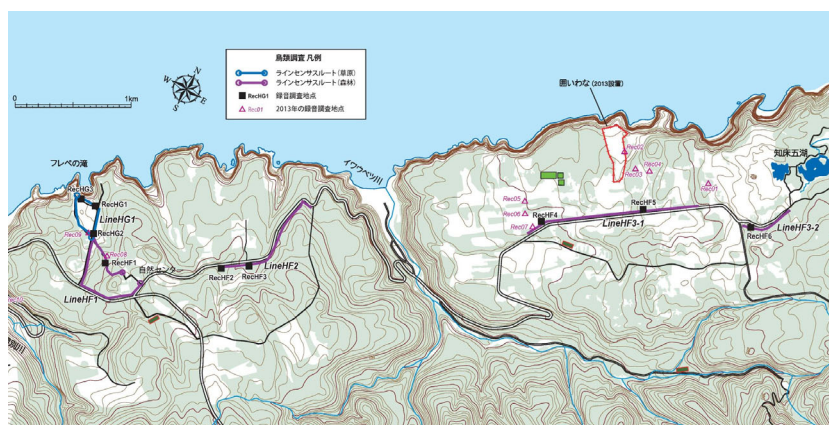
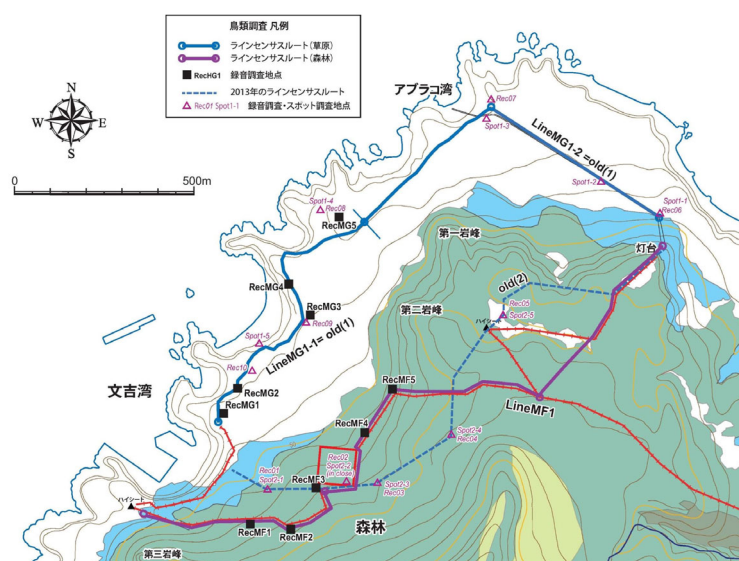


図 5-1 対象調査ルート位置概略図

5.3 調査結果

表 5-2 確認した鳥類リスト

No.	科名	種名	季節 タイプ	生息環境	総確 認数	ラインセンサス				録音調査		
						岬地区		幌別地区		録音 確認	岬	幌別
						草原	森林	草原	森林			
1	ハト科	キジバト	夏鳥	草地・森林	15	+	+	+	7	○	F	GF
2	ハト科	アオハト	夏鳥	森林	4		+		+	○		GF
3	ウ科	ヒメウ	冬鳥	海岸	12	+						
4	ウ科	ウミウ	夏鳥	海岸	72	+			+			
5	カッコウ科	ツツドリ	夏鳥	森林	8			1	7	○	F	F
6	カッコウ科	カッコウ	夏鳥	草地						○		F
7	アマツバメ科	(キタ)アマツバメ	夏鳥	岩地	489	280		140	71	○	GF	GF
8	シギ科	ヤマシギ	夏鳥	森林	1		1			○		F
9	シギ科	オオジシギ	夏鳥	草地	4			4		○		GF
10	カモメ科	ウミネコ	夏鳥	海岸						○	G	G
11	カモメ科	オオセグロカモメ	留鳥	海岸	102	1		+		○	GF	GF
12	タカ科	トビ	留鳥	海岸・草地						○		F
13	タカ科	オジロワシ	留鳥	海岸・湖沼	4	+						
14	タカ科	ノスリ	留鳥	森林						○	G	
15	フクロウ科	コノハズク	夏鳥	森林						○		F
16	キツツキ科	アリスイ	夏鳥	草地・森林						○		F
17	キツツキ科	(エゾ)コゲラ	留鳥	森林	2		+		1			
18	キツツキ科	(エゾ)アカゲラ	留鳥	森林	3		2			○	GF	GF
19	キツツキ科	クマガラ	留鳥	森林	1				+	○	F	GF
20	キツツキ科	ヤマゲラ	留鳥	森林						○		GF
21	キツツキ科	オオアカゲラ	留鳥	森林						○		F
22	サンショウウイ科	サンショウウイ	夏鳥	森林	4		3					
23	モズ科	モズ	夏鳥	森林・草地						○	G	
24	カラス科	(ミヤマ)カケス	留鳥	森林	1				+	○		F
25	カラス科	ホシガラス	留鳥	高山	21		21					
26	カラス科	ハシボソガラス	留鳥	荒地・草地・森林	15	+	2	2	+	○	GF	GF
27	カラス科	ハシトガラス	留鳥	荒地・草地・森林	22	5	15	+	1	○	GF	GF
28	キウイタダキ科	キウイタダキ	留鳥	森林	1				1	○		F
29	シジュウカラ科	ハシトガラ	留鳥	森林	2		+		+	○	GF	GF
30	シジュウカラ科	コガラ	留鳥	森林	2		+			○	G	F
31	シジュウカラ科	ヒガラ	留鳥	森林	39		2		3	○	GF	GF
32	シジュウカラ科	シジュウカラ	留鳥	森林	13		+		6	○	GF	GF
33	ヒバリ科	ヒバリ	夏鳥	草地	1	+				○	G	
34	ツバメ科	イワツバメ	夏鳥	荒地・岩地						○		F
35	ヒヨドリ科	ヒヨドリ	留鳥	森林						○	G	GF
36	ウグイス科	ウグイス	夏鳥	森林・草地	34	+	+	+	4	○	GF	GF
37	ウグイス科	ヤブサメ	夏鳥	森林	6			+	1	○	GF	F
38	エナガ科	(シマ)エナガ	留鳥	森林						○		F
39	ムシクイ科	エゾムシクイ	夏鳥	森林						○	F	F
40	ムシクイ科	センダイムシクイ	夏鳥	森林	43		+	1	5	○	GF	GF
41	メジロ科	メジロ	夏鳥	森林						○		GF
42	センニュウ科	シマセンニュウ	夏鳥	草地	26	2				○	GF	G
43	センニュウ科	エゾセンニュウ	夏鳥	森林・草地	24	6	1	+	+	○	GF	F
44	ヨシキリ科	コヨシキリ	夏鳥	河川・草地	2	+				○	G	
45	ゴジュウカラ科	(シロハラ)ゴジュウカラ	留鳥	森林						○	GF	F
46	キバシリ科	(キタ)キバシリ	留鳥	森林						○	F	F
47	ミソサザイ科	ミソサザイ	留鳥	森林	2		+			○	F	F
48	ヒタキ科	トラツグミ	夏鳥	森林						○	G	F
49	ヒタキ科	クロツグミ	夏鳥	森林	4		+		2	○	F	GF
50	ヒタキ科	アカハラ	夏鳥	森林	12		+		1	○	GF	GF
51	ヒタキ科	コマドリ	夏鳥	森林						○	F	F
52	ヒタキ科	ノゴマ	夏鳥	草地	3	+				○	G	G
53	ヒタキ科	コルリ	夏鳥	森林	21		+		1	○	F	F
54	ヒタキ科	ノビタキ	夏鳥	草地	17	1		2		○	G	G
55	ヒタキ科	インビヨドリ	夏鳥	海岸	1	+		+				
56	ヒタキ科	コサメビタキ	夏鳥	森林	1				1	○		F
57	ヒタキ科	キビタキ	夏鳥	森林	42	+	11		2	○	GF	GF
58	ヒタキ科	オオルリ	夏鳥	森林	3	+		+		○	F	GF
59	スズメ科	ニュウナイズメ	夏鳥	森林	1				+	○		G
60	セキレイ科	キセキレイ	夏鳥	河川						○	GF	F
61	セキレイ科	ハクセキレイ	夏鳥	河川・海岸・荒地	7	1		1	2	○	G	GF
62	セキレイ科	ビンズイ	夏鳥	草地・荒地	3		+		1	○	GF	GF
63	アトリ科	カワラヒワ	夏鳥	森林・草地	13	8		4	+	○	GF	GF
64	アトリ科	マヒワ	留鳥	森林	8		6		+	○		F
65	アトリ科	ベニマシコ	夏鳥	草地						○	G	GF
66	アトリ科	ウソ	留鳥	森林・高山						○		F
67	アトリ科	シメ	留鳥	森林	6				2	○		F
68	アトリ科	イカル	夏鳥	森林	4		1		+	○	F	GF
69	ホオジロ科	ホオジロ	夏鳥	草地	7			3		○		GF
70	ホオジロ科	ホオアカ	夏鳥	草地						○		G
71	ホオジロ科	アオジ	夏鳥	森林・草地	88		2	2	43	○	GF	GF
72	ホオジロ科	オオジュリン	夏鳥	草地						○	G	

総確認数：範囲外・時間外も含めた確認個体数（概算含む）
草原・森林：確認された個体数、+：範囲外での確認
○：各地区で録音された種 G：草原での確認、F：森林での確認
赤字：今回調査で初確認の種

表 5-3 指標種となる種の確認個体数の推移

利用環境	種名/調査年度	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018	2019	2020	2021	2022	2023	2024
草原利用種 (確認個体数/km)	オオジシギ	0.1			0.7											
	ヒバリ	0.7			0.4											*
	モズ	0.1			*											R
	アカモズ															
	ノゴマ	1.9			0.4						2.2					*
	ノビタキ	0.1			3.5						3.3					0.5
	エゾセンニュウ	S			*						*					3.3
	シマセンニュウ	0.3			7.6						14.2					1.1
	ホオアカ				0.2											
	アオジ	*														R
	オオジュリン	*									0.5					R
	ベニマシコ															R
	合計	3.3			12.8						20.2					4.9
林床利用種 (確認個体数/km)	ツツドリ	*			R											R
	アカゲラ										1.7					1.1
	コゲラ	S			R						1.7					
	コルリ	1.1			R						7.0					*
	ヤブサメ				R						4.3					R
	ウグイス	*			R						0.5					*
	センダイムシクイ	1.1			R						7.0					*
	イ															
	アオジ										5.9					1.1
	合計	2.2									28.1					2.2

※「*」は範囲外の参考記録、「S」はスポットセンサス、「R」は録音調査のみの確認

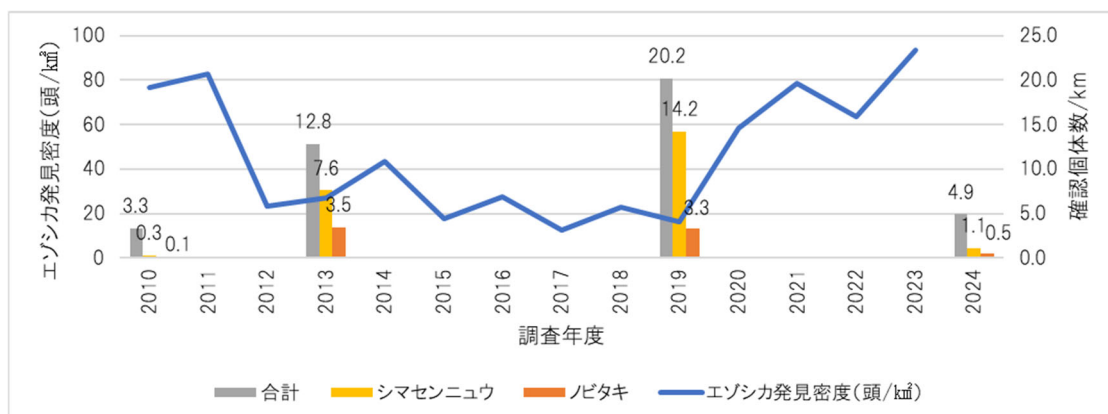


図 5-2 草原性指標種とエゾシカ個体数との関係

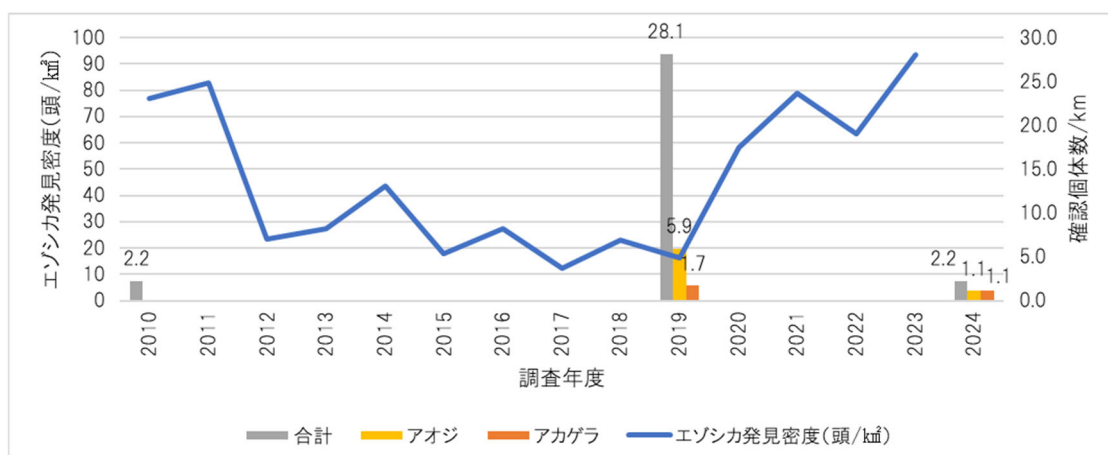


図 5-3 森林性指標種とエゾシカ個体数との関係

11. 2024(R06)シカ年度 植生モニタリング実施結果(林野庁事業)

2024 年度に実施した調査業務のうち、林野庁担当の森林調査について、実施概要と結果速報をまとめた。第 4 期エゾシカ管理計画におけるモニタリング調査の構成を踏まえ、表-1 に調査のスケジュール一覧を示した。

表-1. 第 4 期知床半島エゾシカ管理計画のモニタリング項目と実施内容・実施計画
(植生関連)

No.	評価項目	実施主体	モニタリング項目	調査地	植生タイプ	第 4 期計画期間					基本的な考え方など
						2022 R04	2023 R05	2024 R06	2025 R07	2026 R08	
V01	詳細調査 (調整地区+ルシヤ)	環境省	簡易的な手法による指標種の回復量調査	知床岬	草原/	○	○	○	○	○	毎年実施 ルシヤは他調査(V03 等)と合わせて実施
				ルサ-相泊	草原	○	○	○	○	○	
				幌別-岩尾別	草原/	○	○	○	○	○	
				ルシヤ	草原/		○			○	
V02		林野庁	植生影響調査 (森林植生、草原植生)	知床岬	森林		○			△	林床・稚樹・下枝は 5 年に 2 回程度(△)、毎木は 1 回実施。変化の少ないルシヤ地区は 5 年間隔とする
				ルサ-相泊		△		○			
				幌別-岩尾別			○			△	
				ルシヤ					○		
V03		環境省		知床岬	草原	○		○		○	知床岬は隔年、幌別は 5 年間隔程度
				幌別					○		
				ルシヤ			○			○	
V04		林野庁	植生保護柵を用いた回復過程調査	知床岬	森林		○				※エゾシカの影響からの回復が進んだため、長期的な変化を追うために 5 年に 1 回程度実施
				幌別			○				
V05		斜里町		幌別-岩尾別		○	○	○	○	○	
V06		環境省		知床岬	草原	○		○		○	隔年程度。他調査 (V03 等) と合わせて実施
V07		環境省	エゾシカ採食量と回復量の短期的な調査	知床岬	草原						各調査区ともに終了
				ルサ-相泊							
				幌別-岩尾別							
V08	広域調査	林野庁	植生影響調査 (森林植生)	全域の越冬地 (標高 300m 未満)、標高 300 ~ 600m	森林	調査計画を全体に調整して毎年 10~20 区を調査					基本的に 5 年間隔で実施 ※一部の変化が少ない調査区はモニタリング優先度を下げて予備調査区とする
						25 区	16 区	11 区			

※各調査区では【E02 土壌浸食状況広域調査】についても合わせて実施する。

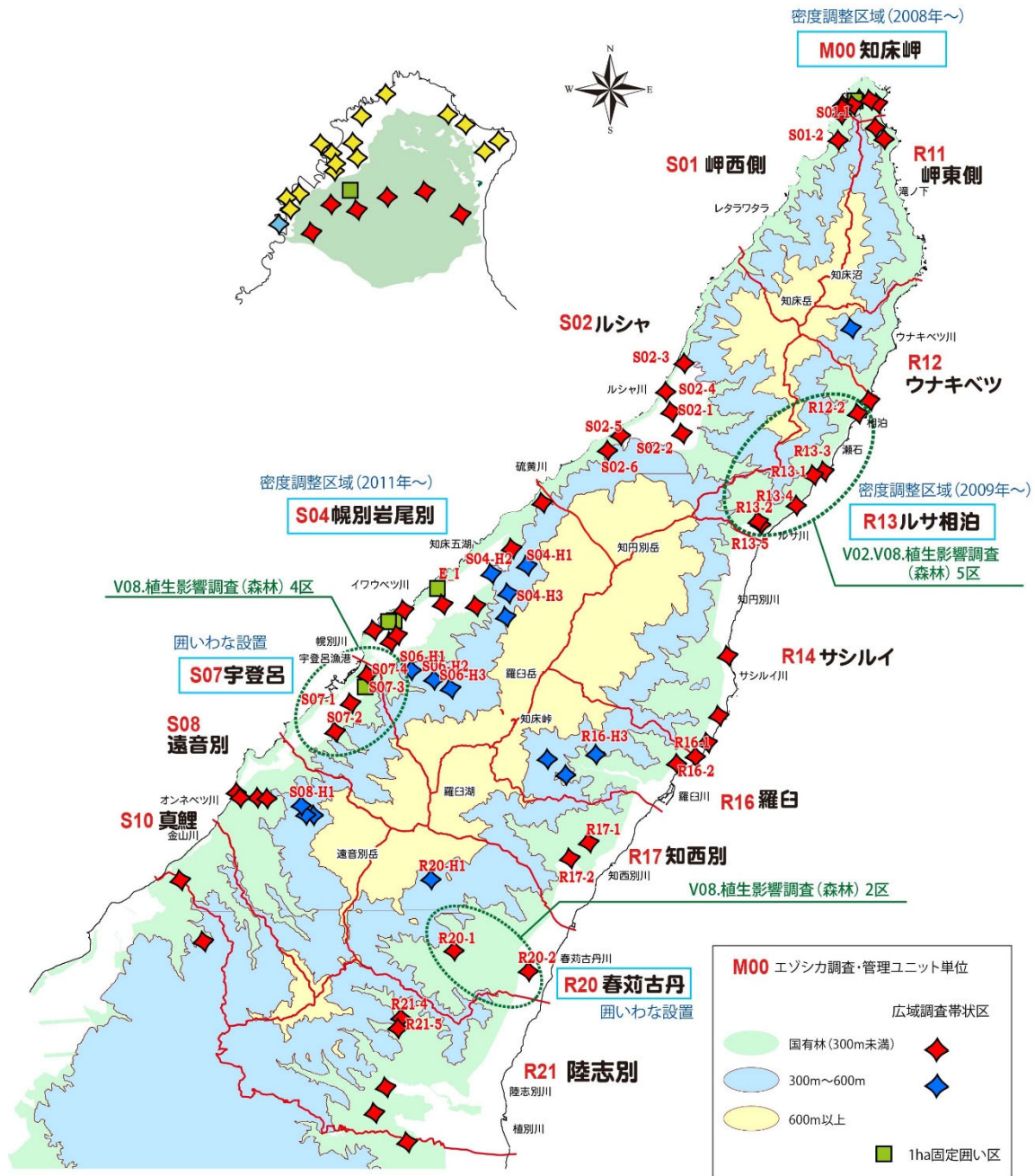
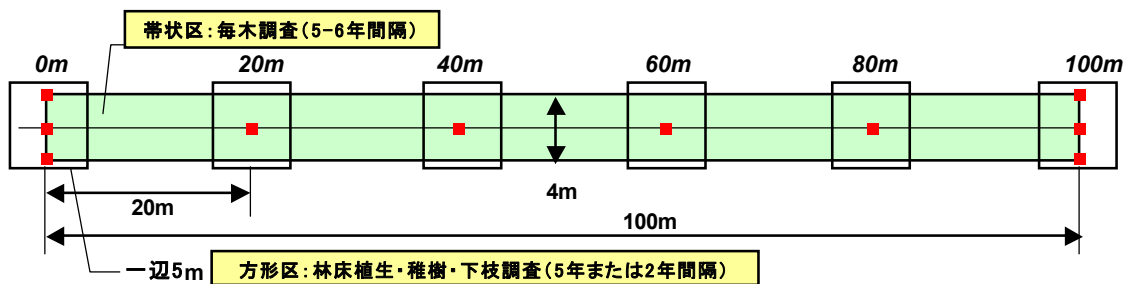


図-1. 知床半島全域における森林植生モニタリング調査区の位置と今年度の調査区



広域森林調査の基本構成(林床植生・下枝・稚樹については6方形区内で実施)

表-2.広域森林調査区のスケジュール一覧

調査区分の記号 ■: 1ha全調査、●: 帯状区全調査、▲: 帯状区林床・下枝・稚樹のみ、◆: 下枝など簡易、▼: 固定が不十分、下枝など未実施
 ※赤字は固定最終年 \は予定年だが未実施 ○●△: 今後の調査予定、◎: 調査区のモニタリング適性を検証する調査予定

■ 固定帯状区 (採食圧調査、100m×4m)

■固定帯状区（採食圧調査、100m×4m）								第1期長期モニタリング																第2期長期モニタリング～					
								第1期保護管理計画					第2期保護管理計画					第3期保護管理計画					第4期保護管理計画						
番号	エリアNo	エリア	調査区分名	区分	設置年	実施者	面積	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	方針	
1	M00	知床岬	M00-1	低	2011	林	400					●		▲		▲		●		▲		▲		●			△	5年に2回程度	
2	M00	知床岬	M00-2	低	2011	林	400					●		▲		▲		●		▲		▲		●			△	5年に2回程度	
3	M00	知床岬	M00-3	低	2011	林	400					●		▲		▲		●		▲		▲		●			△	5年に2回程度	
4	M00	知床岬	M00-4	低	2011	林	400					●		▲		▲		●		▲		▲		●			△	5年に2回程度	
5	M00	知床岬	M00-5	低	2008	林	400		▼				●	▲		▲		●		▲		▲		●			△	5年に2回程度	
6	M00	知床岬	M00-6	低	2008	林	400		▼				●	▲		▲		●		▲		▲		●			△	5年に2回程度	
7	R11	岬東側	R11-1	低	2009	林	400			▼					●									●				モニタリング適性を検討	
8	R11	岬東側	R11-2	低	2009	林	400			▼					●									●				モニタリング適性を検討	
9	R12	ウナキバツ	R12-1	低	2011	林	400					●					●					●					○	5年に1回程度	
10	R12	知床岬（羅臼）	R12-H1	高	2008	環	400		◆					●								●					○	高山調査に附随して実施	
11	R13	ルサ相泊	R12-2	低	2011	林	400					●		▲		▲			●		▲		▲		●			5年に2回程度	
12	R13	ルサ相泊	R13-1	低	2011	林	400					●		▲		▲			●		▲		▲		●			5年に2回程度	
13	R13	ルサ相泊	R13-2	低	2011	林	400					●		▲		▲			●		▲		▲		●			5年に2回程度	
14	R13	ルサ相泊	R13-3	低	2011	林	400						●	▲		▲			●		▲		▲		●			5年に2回程度	
15	R13	ルサ相泊	R13-4	低	2006	林	400		▼				●	▲		▲			●		▲		▲		●			5年に2回程度	
16	R13	ルサ相泊	R13-5	低	2006	林	400		◆				●										●					モニタリング適性を検討	
17	R14	サシルイ川	R14-1	低	2011	林	400					●					●						●				○	5年に1回程度	
18	R14	サシルイ川	R14-2	低	2011	林	400					●					●						●				○	5年に1回程度	
19	R14	サシルイ川	R14-3	低	2011	林	400					●					●						●				○	5年に1回程度	
20	R16	羅臼	R16-1	低	2006	林	400		▼				●											●				モニタリング適性を検討	
21	R16	羅臼	R16-2	低	2006	林	400		◆				●											●				モニタリング適性を検討	
22	R16	羅臼	R16-H1	高	2011	林	400					●											●					予備調査区へ変更予定	
23	R16	羅臼	R16-H2	高	2011	林	400					●											●					予備調査区へ変更予定	
24	R16	羅臼	R16-H3	高	2007	環	400		◆				●						●					●				高山調査に附随して実施	
25	R17	知西別川	R17-1	低	2011	林	400					●					●						●					モニタリング適性を検討	
26	R17	知西別川	R17-2	低	2011	林	400					●					●						●					モニタリング適性を検討	
27	R20	春荻古丹	R20-1	低	2006	林	400		▼				●		▲		▲		●		▲		▲		●			5年に1回への変更を検討	
28	R20	春荻古丹	R20-2	低	2006	林	400		▼				●		▲		▲		●		▲		▲		●			5年に1回への変更を検討	
29	R20	春荻古丹（羅臼）	R20-H1	高	2011	環	200					●						●					●					高山調査に附随して実施	
30	R21	陸志別	R21-1	低	2011	林	400					●											●				○	5年に1回程度	
31	R21	陸志別	R21-2	低	2011	林	400					●											●				○	5年に1回程度	
32	R21	陸志別	R21-3	低	2011	林	400					●											●				○	5年に1回程度	
33	R21	陸志別	R21-4	低	2006	林	400		▼				●										●					モニタリング適性を検討	
34	R21	陸志別	R21-5	低	2006	林	400		▼				●										●					モニタリング適性を検討	

※調査区分の ■ 青色塗りは、標高300m以上に設置された調査区（高標高地）。

※実施者の ■ 水色塗りは、環境省の事業で実施された森林調査区。

※ ■ 橙色塗りは囲い区内でエゾシカ排除下での調査、■ 黄色塗りは個体数調整下での調査。

■ 固定帯状区 (採食圧調査、100m×4m)

■ 固定帯状区（採食圧調査、100m×4m）								第1期長期モニタリング													第2期長期モニタリング～							
								第1期保護管理計画					第2期保護管理計画					第3期保護管理計画			第4期保護管理計画							
番号	エリアNo	エリア	調査区名	区分	設置年	実施者	面積	07	08	09	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	方針
35	S01	岬西側	S01-1	低	2008	林	400		▼					●					●					●				モニタリング適性を検討
36	S01	岬西側	S01-2	低	2008	林	400		▼					●					●					●				モニタリング適性を検討
37	S02	ルシヤ	S02-1	低	2011	林	400					●					●		▲		▲					○		5年に1回程度
38	S02	ルシヤ	S02-2	低	2011	林	400					●					●		▲		▲					○		5年に1回程度
39	S02	ルシヤ	S02-3	低	2008	林	400		▼					●					●		▲					○		5年に1回程度
40	S02	ルシヤ	S02-4	低	2008	林	400		▼					●					●		▲					○		5年に1回程度
41	S02	ルシヤ	S02-5	低	2008	林	400		▼					●					●		▲					○		5年に1回程度
42	S02	ルシヤ	S02-6	低	2008	林	400		▼					●					●		▲					○		5年に1回程度
43	S04	五湖	S04-1	低	2011	林	400					●					●						●			○		5年に1回程度
44	S04	五湖	S04-2	低	2011	林	400					●					●						●			○		5年に1回程度
45	S04	連山中腹	S04-H1	高	2006	林	400	▼					●											●				モニタリング適性を検討
46	S04	連山中腹	S04-H2	高	2003	林	400						●											●				モニタリング適性を検討
47	S04	連山中腹	S04-H3	高	2006	林	200	▼					●											●				モニタリング適性を検討
48	S04	連山中腹	S04-H4	高	2007	環	400	◆					●						●					●				高山調査に附随して実施
49	S04	幌別岩尾別	S06-1	低	2011	林	400					●		▲	▲	▲	●		▲	▲	▲	▲	▲	●			△	5年に2回程度
50	S04	幌別岩尾別	S06-2	低	2011	林	400					●		▲	▲	▲	●		▲	▲	▲	▲	▲	●			△	5年に2回程度
51	S04	幌別岩尾別	S06-3	低	2011	林	400					●		▲	▲	▲	●		▲	▲	▲	▲	▲	●			△	5年に2回程度
52	S04	幌別岩尾別	S06-4	低	2012	林	400						▲	▲	▲	▲	▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲			△	5年に2回程度
53	S04	幌別岩尾別	S06-5	低	2012	林	400						▲	▲	▲	▲	▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲			△	5年に2回程度
54	S04	幌別岩尾別	S06-6	低	2012	林	400						▲	▲	▲	▲	▲		▲	▲	▲	▲	▲	▲			△	5年に2回程度
55	S04	横断道	S06-H1	高	2011	林	400					●					●						●					モニタリング適性を検討
56	S04	横断道	S06-H2	高	2011	林	400					●					●						●					モニタリング適性を検討
57	S04	横断道	S06-H3	高	2006	林	400	▼					●										●					モニタリング適性を検討
58	S07	宇登呂	S07-1	低	2011	林	400					●			▲	▲	●		▲		▲	▲	▲	●		▲		5年に2回程度
59	S07	宇登呂	S07-2	低	2011	林	400					●			▲	▲	●		▲		▲	▲	▲	●		▲		5年に2回程度
60	S07c	宇登呂	S07-3c	低	2014	林	400								●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●		▲		5年に2回程度
61	S07	宇登呂	S07-4	低	2014	林	400								●	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	▲	●		▲		5年に2回程度
62	S08	遠音別	S08-1	低	2006	林	400	▼					●										●			○		5年に1回程度
63	S08	遠音別	S08-2	低	2006	林	400	◆					●										●			○		5年に1回程度
64	S08	遠音別	S08-3	低	2006	林	400	▼					●										●			○		5年に1回程度
65	S08	遠音別	S08-4	低	2006	林	400	◆					●										●			○		5年に1回程度
66	S08	遠音別岳	S08-H1	高	2011	林	400					●					●							●				モニタリング適性を検討
67	S08	遠音別岳	S08-H2	高	2011	環	400					●					●											モニタリング適性を検討
68	S08	遠音別岳	S08-H3	高	2011	環	400					●					●											モニタリング適性を検討
69	S10	真鯉	S10-1	低	2011	林	400					●					●						●			○		5年に1回程度
70	S10	真鯉	S10-2	低	2011	林	400					●					●						●			○		5年に1回程度

※調査区名の 青色塗りは、標高300m以上に設置された調査区（高標高地）。

※実施者の 水色塗りは、環境省の事業で実施された森林調査区。

※ 黄色塗りは囲い区内でエゾシカ排除下での調査、 黄色塗りは個体数調整下での調査。

森林調査区は半島内に全 70 調査区を設定しており、5 年間隔のモニタリングを基本としている（表-2、図-1）。それぞれの調査区に 100m×4m の固定帯状区を設置し、立木・稚樹・下枝・林床植生について生育種とシカの食痕を調査している。今年度は、個体数調整地区であるルサ-相泊地区、囲い罫を設置してきた宇登呂地区と春茹古丹地区の合計 11 区で調査を実施している。現地調査は 2024 年 8 月に実施した。

1. 詳細調査：個体数調整地区における指標開発・事業評価

個体数調整地区の 3 地区においては、個体数調査の効果を検証するためのモニタリングを実施してきている。

1-1.植生影響調査（森林植生）（V02）

2 年おきに調査しているルサ-相泊地区 5 区の下枝・稚樹・林床植生の主な結果を過去の結果と合わせて表-3 にまとめた。ルサ-相泊地区は 1-2 期の捕獲事業の効果もあり、2015 年以降はシカ密度はほぼ 5 頭／k m²以下に抑えられている。

下枝・稚樹は大きな変化はなく、ほとんど見られていない状態が続いている。林床のササ類については、被度・高さとも今回も増加していた。特に元々ササ類が高かったと思われる 3 区（R13-1,R13-3,R13-4）においては約 10 年間で 50～80cm 程度高くなっており、エゾシカの影響を受ける前の状態に近づいていると思われる。

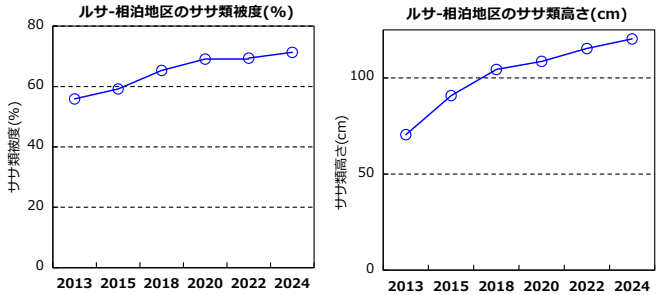
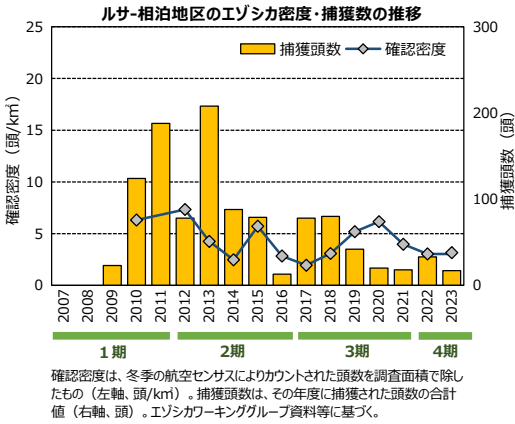


表-3. ルサ-相泊地区の結果概要と推移

調査区名	下枝被度(%)						稚樹本数						ササ被度(%)						ササ高さ(cm)					
	2013	2015	2018	2020	2022	2024	2013	2015	2018	2020	2022	2024	2013	2015	2018	2020	2022	2024	2013	2015	2018	2020	2022	2024
R12-2	0.33	0.00	1.12	0.02	0.01	0.06	0	0	0	0	0	0	23.5	40.0	42.2	36.8	38.5	40.2	38.8	63.3	49.7	56.0	47.7	60.7
R13-1	0.00	0.00	0.73	0.18	0.06	0.17	0	0	0	0	0	0	98.3	88.3	95.8	100.0	100.0	100.0	112.7	148.3	152.2	150.7	175.0	184.0
R13-2	0.17	0.00	0.82	0.36	0.84	0.84	0	0	0	0	0	0	16.7	19.3	14.3	19.3	21.8	26.3	60.4	23.3	63.8	68.0	75.6	84.4
R13-3	0.00	0.00	0.01	0.01	0.01	0.01	0	0	0	0	0	0	68.3	80.0	89.2	99.2	99.2	99.2	67.0	105.8	139.2	132.7	147.0	149.7
R13-4	0.00	0.00	0.06	0.07	0.00	0.01	0	0	0	0	0	0	72.5	68.3	85.0	90.0	87.5	90.8	73.5	113.3	117.3	135.7	131.3	122.8
全体平均	0.10	0.00	0.55	0.13	0.18	0.22	0	0	0	0	0	0	55.9	59.2	65.3	69.1	69.4	71.3	70.5	90.8	104.4	108.6	115.3	120.3



R13-4 林内の様子



R13-3 林床を覆うクマイザサ

1-2.植生保護柵を用いた回復過程調査（森林植生）（V04）

保護柵内外でのモニタリングは 5 年間隔での実施に変更しており、2024 年度は実施しなかった。

2. 広域調査：半島全体における植生の状況とエゾシカの影響の把握

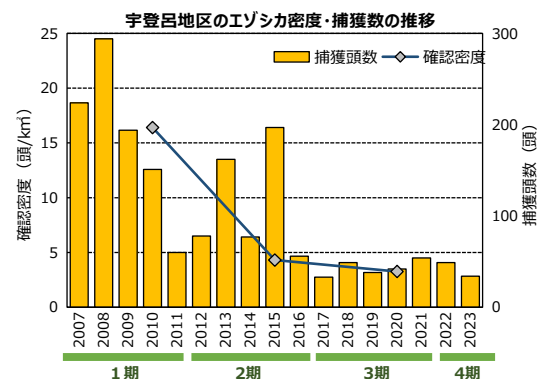
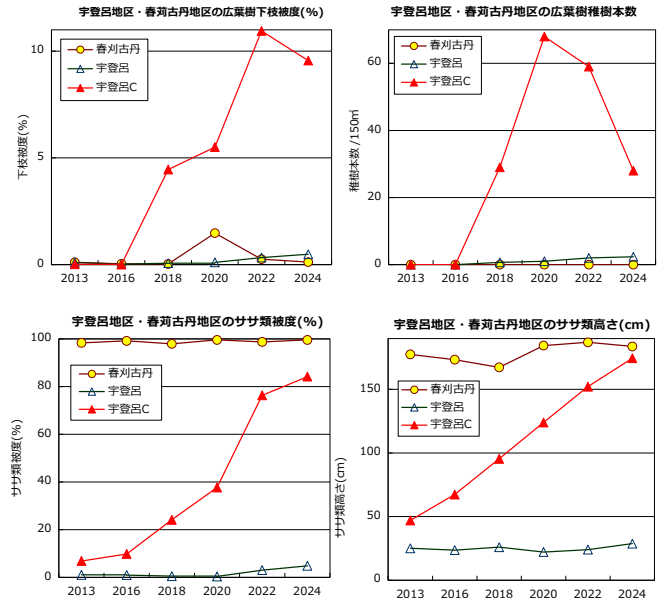
2-1. 植生影響調査（森林植生）（V08）

今年度調査した宇登呂地区・春荻古丹地区の6区の結果を表4に示した。2014年に囲い区を設置したS07-3cについては稚樹・下枝・ササの量とも大幅な回復が見られていたが、稚樹本数（広葉樹高さ0.5-2m）は減少傾向となっていた。これは稚樹が成長して樹高2m以上に進界した個体が増えていることや、ササ類の回復等により林床環境に変化が起きていることが要因と思われる。ササ類の高さは2年前から見ても平均20cm以上高くなっていた。

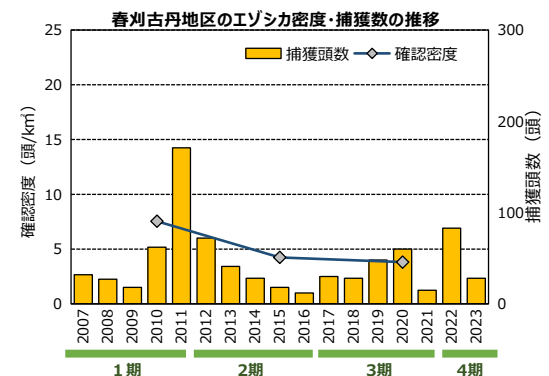
宇登呂地区の他の調査区については大きな変化は見られていないが、S07-4（S07-3cの対照区）においてササ類被度の増加が見られた。

春荻古丹地区については、ササ類が密生する状態が継続しており、大きな変化は見られていなかった。エゾシカによる利用もほとんどない状態が続いている。

各調査区の土壌流出状況については、これまで同様ほとんど流出は見られなかった。



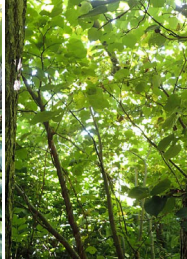
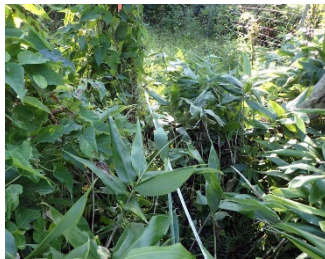
確認密度は、冬季の航空センサスによりカウントされた頭数を調査面積で除したものの（左軸、頭/km²、2010・2015・2020年度のみ）。捕獲頭数は、その年度に捕獲された頭数の合計値（右軸、頭、駆除と林野庁事業を合わせたもの）。エゾシカワーキンググループ資料等に基づく。



確認密度は、冬季の航空センサスによりカウントされた頭数を調査面積で除したものの（左軸、頭/km²、2010・2015・2020年度のみ）。捕獲頭数は、その年度に捕獲された頭数の合計値（右軸、頭、駆除と林野庁事業を合わせたもの）。エゾシカワーキンググループ資料等に基づく。

表-4. 宇登呂地区・春荊古丹地区の結果概要と推移

調査区名	下枝被度(%)						稚樹本数						ササ被度(%)						ササ高さ(cm)					
	2013	2015	2018	2020	2022	2024	2013	2015	2018	2020	2022	2024	2013	2015	2018	2020	2022	2024	2013	2015	2018	2020	2022	2024
R20-1	0.00	0.00	0.06	2.78	0.17	0.00	0	0	0	0	0	0	96.7	98.3	95.8	100.0	99.2	99.2	177.0	175.3	166.3	181.3	188.5	188.0
R20-2	0.22	0.07	0.00	0.17	0.34	0.24	0	0	0	0	0	0	100.0	100.0	100.0	99.2	98.3	100.0	178.0	171.3	168.3	187.5	185.5	179.5
全体平均	0.11	0.03	0.03	1.48	0.25	0.12	0	0	0	0	0	0	98.3	99.2	97.9	99.6	98.8	98.8	177.5	173.3	167.3	184.4	187.0	183.8
S07-1	0.01	0.00	0.00	0.07	0.34	0.23	0	0	0	2	2	2	0.2	0.4	0.1	0.1	0.1	0.1	11.7	15.7	22.8	9.7	12.7	16.7
S07-2	0.29	0.06	0.19	0.24	0.52	0.84	0	0	2	1	3	1	0.0	1.0	0.7	0.1	0.3	0.3	29.8	24.0	19.6	24.5	20.7	
S07-4	0.00	0.00	0.01	0.01	0.11	0.39	0	0	0	0	1	4	3.0	1.5	0.9	1.0	8.8	14.3	38.5	25.5	31.2	37.2	35.0	49.0
全体平均	0.10	0.02	0.07	0.11	0.32	0.49	0	0	0.7	1.0	2.0	2.3	1.1	1.0	0.5	0.4	3.0	4.9	25.1	23.7	26.0	22.1	24.1	28.8
S07-3	0.01	0.00	4.46	5.51	10.95	9.56	0	0	29	68	59	28	6.9	9.8	24.2	37.7	76.3	84.2	47.0	67.4	95.4	124.0	152.2	174.5



S07-3c 林床のクマイザサ・大きくなった稚樹 S07-4 オニグルミ稚樹

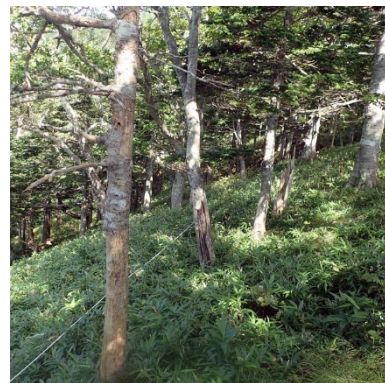
R20-1 林内の様子

今年度毎木調査を実施したルサ-相泊地区・春荊古丹地区の7区の結果を表5に示した。これらはすべて羅臼側の調査区で、トドマツが多いR12-2以外は、ダケカンバが優占する。

各調査区ともに立木本数は減少し（更新はほとんど見られない）、現存量（総BA=胸高直径断面積の合計）は増加している傾向にあった。立木の枯死はエゾシカの採食以外の要因であると考えられ、立木に与えるエゾシカ採食の影響は少ないと見られる。

表-5. ルサ-相泊地区・春荊古丹地区の毎木調査の結果概要

調査区		立木本数		総BA (㎡/ha)	
		2018年	2024年	2018年	2024年
ルサ相泊	R12-2	33	32	62.4	61.4
	R13-1	40	36	41.1	45.1
	R13-2	67	62	34.8	36.2
	R13-3	58	54	40.0	43.8
	R13-4	52	49	32.0	35.2
春荊古丹	R20-1	32	27	45.1	49.3
	R20-2	29	25	19.8	19.9
全体		311	285	39.3	41.6



R12-2 林内の様子